

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画
（第1期見直し版）

（案）

松 阪 市

目次

第1章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（第1期見直し版）の趣旨	1
第1節 目的	1
第2節 第1期見直し版の位置づけ	1
第3節 計画期間及び計画目標年度	2
第2章 松阪市の概況	3
第1節 自然条件	3
1-1 位置及び沿革	3
1-2 地形	3
1-3 気象	4
第2節 社会条件	5
2-1 人口動態	5
2-2 産業の動向	6
2-3 松阪市の総合計画等との関係	7
第3章 ごみ処理の状況	11
第1節 ごみ処理の現況及び課題	11
1-1 ごみ処理フロー及び分別区分	11
1-2 ごみ処理体制	12
1-3 ごみ排出量及びごみ処理量の実績	15
1-4 ごみ減量化及び再生利用の状況	18
1-5 ごみ処理の評価	22
1-6 課題の抽出	25
第2節 ごみ処理行政の動向	26
2-1 関連法令の整理	26
2-2 近隣市町の動向	29
第4章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定	30
第1節 基本方針及び目標数値の設定について	30
1-1 基本理念	30
1-2 基本方針	30

1-3 数値目標.....	32
第2節 ごみ排出量及びごみ処理量の見込み.....	34
2-1 人口の将来予測	34
2-2 ごみ排出量の将来予測.....	35
第3節 基本理念を実現するための施策に関する事項	41
3-1 当初計画における実施結果の評価と今後の展望.....	41
3-2 基本理念を実現するための施策	44
第4節 分別して収集するものとしたごみの種類及び分別の区分	51
第5節 ごみの適正な処理等に関する基本的事項	53
5-1 収集・運搬計画	53
5-2 中間処理計画	56
5-3 最終処分計画	58
第6節 ごみの処理施設の整備に関する基本事項.....	59
6-1 現状のごみの処理施設.....	59
6-2 将来のごみの処理施設.....	59
第7節 その他ごみ処理に関し必要な事項	61
7-1 災害廃棄物対策	61
7-2 ポイ捨てごみ等、不法投棄対策	63
7-3 情報管理計画	63

資料編

資料1 用語集	資1
資料2 類似都市のごみ処理の評価	資5
資料3 ごみ排出量及びごみ処理量の見込み	資7
資料4 ごみ処理技術の動向	資39
資料5 進行管理	資47
資料6 当初計画からの変更点	資49

第1章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（第1期見直し版）の趣旨

第1節 目的

「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（第1期見直し版）」（以下「第1期見直し版」という。）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）に基づき、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図りつつ、一般廃棄物の適正な処理を行うため、松阪市が定める法定計画です。

平成27(2015)年度に市内全域のごみ処理体系の一元化と松阪市クリーンセンターの供用を開始し、平成29(2017)年5月に「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（以下「当初計画」という。）を策定しました。それ以降、国の「循環型社会推進基本計画（平成30年6月）」の改定があり、令和元(2019)年10月から「食品ロスの削減の推進に関する法律」（令和元年法律第19号）や令和4(2022)年4月から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（令和3年法律第60号）が施行されています。「充電式小型家電」の回収をはじめ等、新たな施策を展開しており、今後も行政、市民、販売業・飲食業等の事業者（以下「事業者」という。）がごみ削減に資する施策に主体的に取り組む必要があります。

このような背景のもと、当初計画の基本理念、「ムダなく資源が循環しているまち」を継承するものとし、松阪市から発生する一般廃棄物の処理方針等に係る諸条件に対して、大きな変動等があった場合に見直し、基本理念を達成することを目的とします。

第2節 第1期見直し版の位置づけ

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条に規定する一般廃棄物処理計画とは、市町村の一般廃棄物処理に係る長期的視点に立った基本的な方針を明確にする一般廃棄物処理基本計画と、一般廃棄物処理基本計画に基づき年度毎に策定する一般廃棄物処理実施計画から構成されます。

一般廃棄物処理基本計画は、ごみ処理基本計画と生活排水処理基本計画から構成され、一般廃棄物処理実施計画は、ごみ処理実施計画と生活排水処理実施計画から構成されます。

この計画は、一般廃棄物処理基本計画のうち、ごみ処理基本計画に位置づけられます。

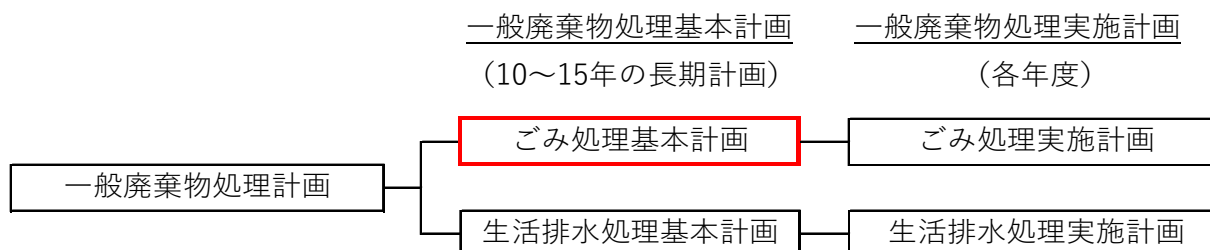


図1-1 （本計画の位置づけ）

第3節 計画期間及び計画目標年度

計画期間：15年間（平成29(2017)年度～令和13(2031)年度）

目標年度：中間目標年度は令和8(2026)年度

※最終処分量及び資源化率については、令和9(2027)年度に変更

最終目標年度は令和13(2031)年度

計画の見直し時期：概ね5年毎もしくは計画策定に係る諸条件に大きな変動等があった場合

第2章 松阪市の概況

第1節 自然条件

1-1 位置及び沿革

1) 位置

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。市域は、東西方向に約 50km、南北方向に約 37km と東西に細長く伸び、623.58km² の面積を有しています。

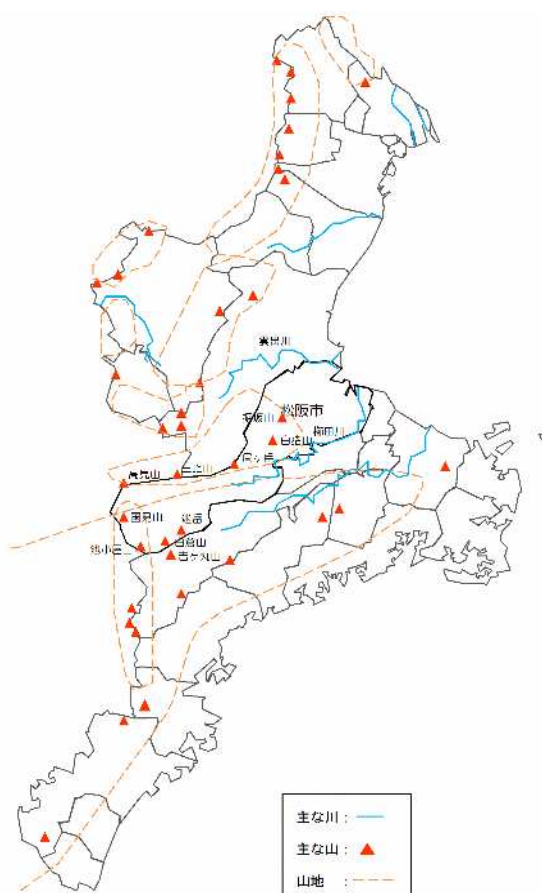
2) 沿革

国内最古の土偶が出土した粥見井尻遺跡や祭祀場として知られる国指定史跡の天白遺跡などがあり、この地域が縄文時代から繁栄してきたことが伺えます。

平成 17(2005)年1月に、松阪市、嬉野町、三雲町、飯南町、飯高町の1市4町が合併し、新しい松阪（まつさか）市が誕生しました。

1-2 地形

地形は、西部が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。



三重県の29市町の地図【平成18年1月10日以降】を編集
図2-1 (三重県の地形)

1-3 気象

気候は、概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っていますが、全体的には温暖な気候となっています。津地方気象台の津観測所、小俣観測所及び粥見観測所の3地点の過去10年の統計によると、年間平均気温は14.3℃～17.1℃で、降水量は1,394mm～2,639mmとなっています。

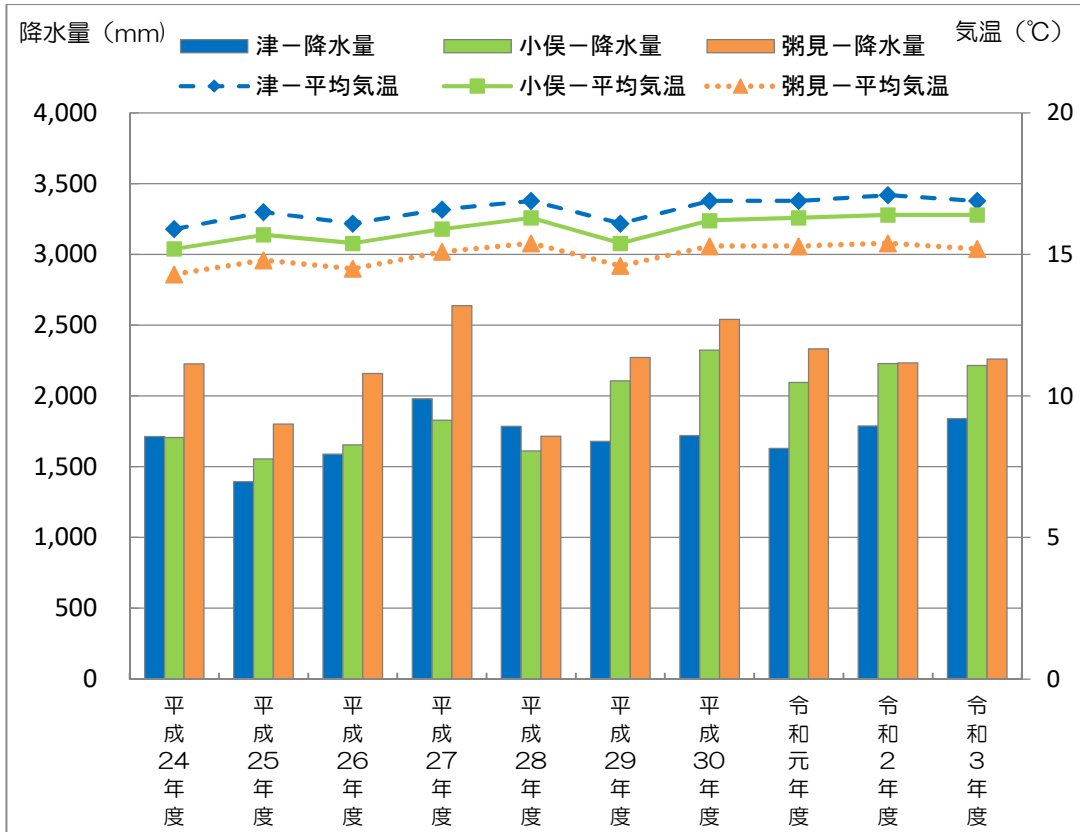


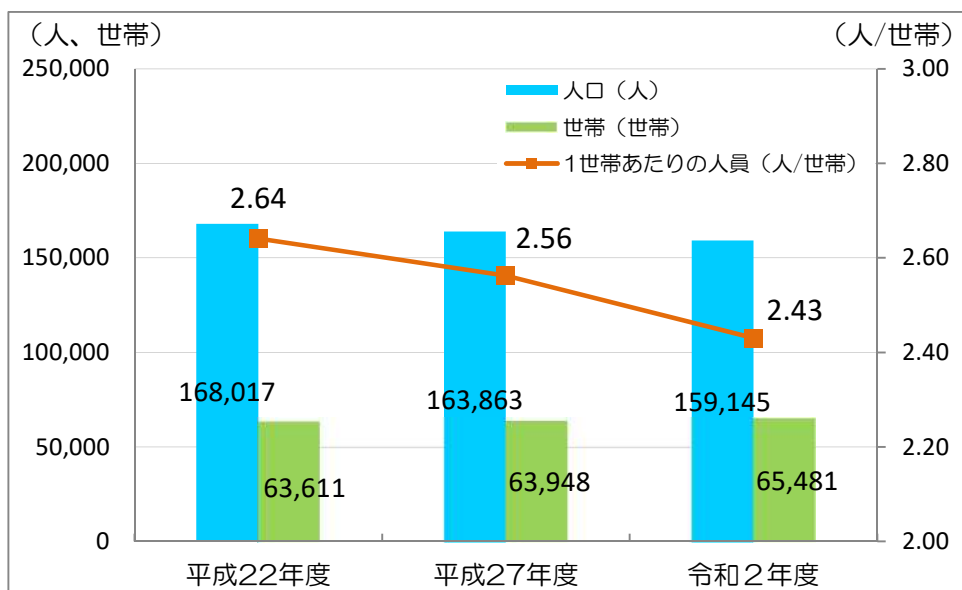
図2-2 (気象の状況(平成24～令和3年度))

第2節 社会条件

2-1 人口動態

1) 人口・世帯数の推移

人口は、減少傾向となっています。総務省実施の国勢調査の結果をみると、令和2(2020)年度調査時には159,145人で、平成22(2010)年度調査時の168,017人から約8,900人減少しています。また、核家族化の進行により世帯数は増加していますが、1世帯あたりの人員は減少しています。

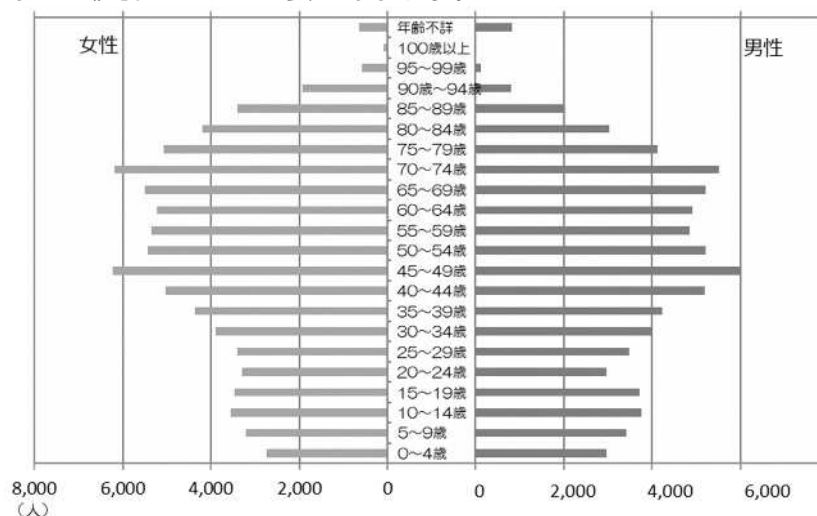


出典：総務省統計局「平成22～令和2年度国勢調査結果」
図2-3 (人口・世帯数の推移)

2) 年齢別人口

年齢別人口は、図2-4に示すとおりです。

65歳以上の人口が、全体の30%程度を占めています。今後、高齢者世帯に対するごみ収集のあり方などを検討していく必要があります。



出典：総務省統計局「令和2年度国勢調査結果」を編集
図2-4 (年齢別人口)

2-2 産業の動向

1) 産業の状況

平成 28(2016)年度の産業別の事業所数及び従業者数をみると、第三次産業は 6,293 事業所、50,338 人（72.2%）で最も多く、従業者全体に占める割合が7割以上を占めている状況です。

また、第一次産業は 71 事業所、730 人（1%）、第二次産業が 1,440 事業所、18,643 人（26.7%）となっています。

表 2-1 （産業別事業所数及び従業者数）

区分	事業所数	従業者数
総数	7,804	69,711
第一次産業	71	730
第二次産業	1,440	18,643
第三次産業	6,293	50,338

出典：総務省統計局「平成 28 年度経済センサス—活動調査」より作成

2) 土地利用の状況

地目別土地面積は、表 2-2 に示すとおりです。

田畑が全体の 14%程度、宅地が全体の 5%程度を占めています。

表 2-2 （地目別土地面積）

地目	土地面積 (ha)	全体に占める割合 (%)
田畑	8370.3	13.4
宅地	3,112.7	5.0
池沼	53.9	0.1
山林	18,428.4	29.6
牧場	2.4	0.0
原野	176.7	0.3
雑種地	1,069.5	1.7
その他	31,144.1	49.9
合計	62,358.0	100.0

出典：松阪市資料（令和 2 年度）

2-3 松阪市の総合計画等との関係

1) 松阪市総合計画（令和3年2月）

松阪市総合計画では、松阪市の10年後の将来像を「ここに住んで良かった・・・みんな大好き松阪市」と定めています。ここには、市民が“このまちに住んで良かった”“このまちが大好きだ”と感じられることはもちろん、市外の人たちにも“住んでみたい”と思ってもらえるまちをめざそうという思いが込められています。

このようなまちづくりを実現していくための取組を7つの政策としてまとめています。

1 輝く子どもたち

- 子育て世代包括支援センターと関係機関が連携し、妊娠から出産・子育てまで途切れのない支援体制を構築してきたことにより、子どもを安心して産み育てられる環境を充実させます。
- 次世代を担う子どもたちが、確かな学力や豊かな人間性を培い、健康・体力のバランスがとれた成長を遂げられるように、さまざまな取組を展開します。

2 いつまでもいきいきと

- 健康づくりの推進や生活習慣病予防、生活支援の充実、障がい者が自立し活動できるための環境整備や支援を強化していきます。
- 少子高齢化が進行する中、子どもからお年寄りまで、市民みんなが生涯を通じて健やかな暮らしを維持できるように、医療や福祉サービスを充実させるための「地域包括ケアシステム」を実現していきます。
- 新型コロナウイルスによる新しい生活様式に対応しながら地域のつながりや支え合いの仕組みづくりを支援していきます。

3 活力ある産業

- 松阪市には、豊かな自然を生かした農林水産業、交通の要衝としての利点を生かした商工業、歴史・文化・食などを生かした観光業など、地域の特性を生かしたさまざまな産業が存在しており、これらの産業のさらなる活性化を図ります。
- 今後の社会経済状況の変化に対応する事業分野への展開を視野に入れた新たな産業の創出を促進することや企業の誘致・連携を進めます。

4 人も地域も頑張る力

- 住民自治協議会や市民活動団体をはじめとする地域で活躍する様々な主体との連携を深め、中山間地域の振興や社会教育の推進、文化芸術に親しむとともに、スポーツと連動したまちづくりを進めます。
- 人権の尊重や性別・年齢・国籍などにとらわれない多様性のある社会をめざし、人々の心が豊かで充実した生活を送ることができるように努めていきます。

5 安全・安心な生活

- 市民や関係機関・団体などと連携し、ハード・ソフトの両面から防犯・防災対策を講じていくことにより、市民が安全・安心に生活を送ることができるまちづくりを進めます。

6 快適な生活

- 市民や関係機関・団体などと連携しながら、環境にやさしいまちづくりを進めるとともに、道路・公園や上下水道、公共交通機関など、市民が生活する上で必要不可欠な都市基盤の整備を進めます。

7 市民のための市役所

- 今後、さらに進行することが予測される人口減少と少子高齢化は、市の財政運営に大きな影響を与えることから、経営感覚をもちながら事務・事業の「選択と集中」を行い、計画的な行政運営を進めていきます。
- 市の情報を市民と共有し、行政への関心度を高めることで市政への市民参画を促します。
- 市民にとって使いやすい市役所となるように窓口機能の利便性を高めます。

また、廃棄物行政の主な取組と数値目標は以下に示すとおりです。

<主な取組>

- 新最終処分場の施設整備を進めます。
- 循環型社会の構築をめざし、3Rの推進、環境教育、啓発の推進に取り組みます。
- 不法投棄監視パトロールの強化、啓発を広域的に行います。
- ごみ集積所などの施設整備について支援を行います。
- 家庭系ごみの徹底した分別の啓発に取り組みます。

<数値目標>

	現状（R1年度）	目標（R5年度）
• 1人1日当たりのごみの排出量（集団回収量を除く）	719g	684g
• 廃棄物（ごみ）対策の整備に満足している人の割合	22.7%	28.0%
• 資源化率（総ごみ量のうち総資源化量の占める割合）	10.7%	13.1%

2) 第二次松阪市環境基本計画【2018年2月】

松阪市環境基本計画では、環境像を以下のように示しています。

(1) めざすべき環境像

「うるおいある豊かな環境につつまれるまち まつさか」

(2) 計画期間

2018(H30)年度～2027(H39)年度

(3) 環境ビジョン

- ・人も生き物もおいしく感じる水を守っていくまち
- ・多様な生き物が暮らすことのできる自然を守り育てるまち
- ・安全で快適かつ、暮らしの中で松阪らしさが感じられるまち
- ・ムダなく資源が循環し、モノを大切に作る心を育むまち
- ・低炭素社会の実現に向けて環境にやさしい生活ができるまち
- ・20年・30年先の松阪の環境を考え、みんなで協力して行動できるまち

(4) 廃棄物処理についての施策

<ごみの減量化と再使用・再資源化の推進>

○3Rの促進

- ・ごみの減量と分別意識の向上をめざし、ごみの分け方・出し方などの分かりやすいパンフレットを作成します。
- ・食品ロス（まだ食べられるのに廃棄される食品）を削減し、食品廃棄物の発生を抑制する啓発に取り組みます。
- ・不用品をごみとせず、再使用を促進するよう啓発に取り組みます。
- ・環境にやさしい商品の購入を促進するよう啓発に取り組みます。

○市民・事業者のごみ減量、再資源化への取組の支援

- ・家庭から出る生ごみの減量化を進めるため、生ごみの堆肥化事業や補助制度の充実に努めます。

<ごみの適正処理の推進>

○ごみ処理施設の適正な維持管理の推進

- ・施設の適正な運転・維持管理を徹底することにより、ダイオキシン類などの有害物質の排出を抑制するなど、一層の環境負荷の低減に努めます。
- ・令和8(2026)年度で松阪市一般廃棄物最終処分場の埋立が終了することを見据え、次期最終処分場の整備について検討します。

○ごみの収集業務の円滑化

- ・地域・事業者との連携を密にして効率的に収集作業が行えるように努めます。

○不法投棄の防止

- ・不法投棄防止のためのパトロールの強化・啓発を行います。
- ・不法投棄防止は、広域的な取組が必要であるため、明和町、多気町、大台町、国、県、警察とも連携・情報共有し、啓発や対策を強化します。

(5) 行政の取組目標

＜ごみの減量化と再使用・再資源化の推進＞

- ごみの分け方・出し方に関するパンフレットの作成
- 生ごみ堆肥化容器など購入補助：70件/年
- 3Rに関する環境講座の開催：30回/年

＜ごみの適正処理の推進＞

- 不法投棄防止のためパトロールの実施：3回/月

第3章 ごみ処理の状況

第1節 ごみ処理の現況及び課題

1-1 ごみ処理フロー及び分別区分

1) ごみ処理フロー

ごみ種類別の処理フロー図は、図3-1 に示すとおりです。

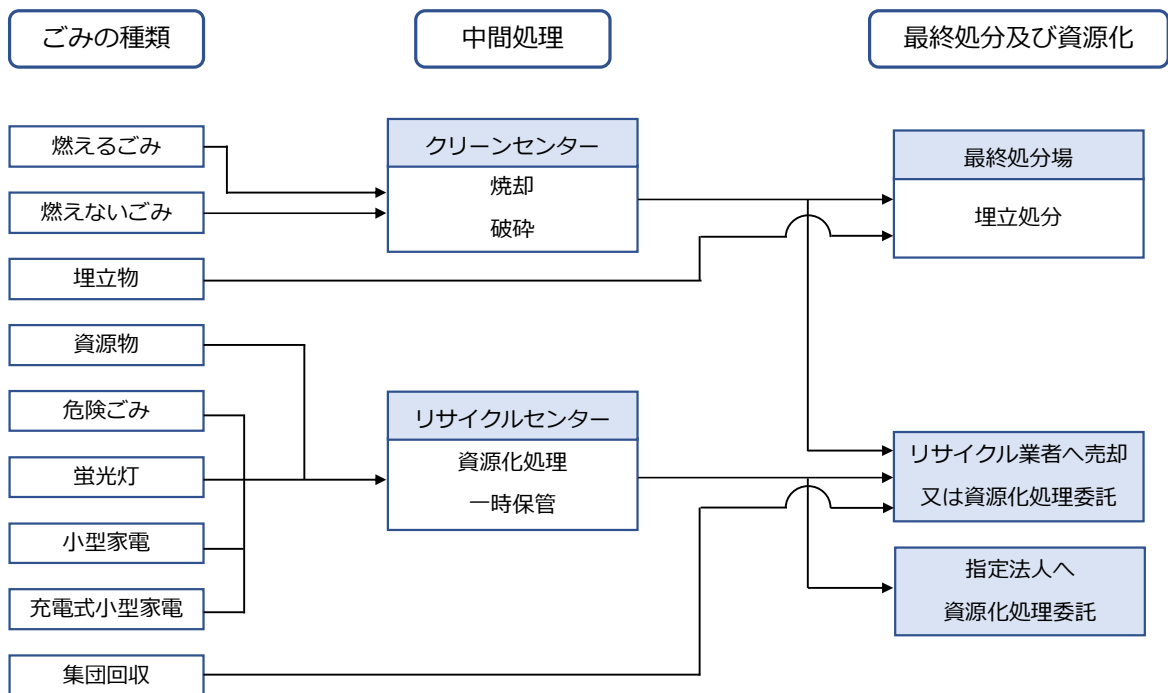


図3-1 (ごみの種類別の処理フロー図)

2) 分別区分

ごみの分別区分は、表3-1 に示すとおりです。

表3-1 (分別区分)

分別区分	収集	持込	処理及び一時保管施設
燃えるごみ	○	○	松阪市クリーンセンター
燃えないごみ	○	○	松阪市クリーンセンター
危険ごみ	○	○	松阪市リサイクルセンター 松阪市クリーンセンター 三雲リサイクルセンター
蛍光管	○	○	松阪市リサイクルセンター 松阪市クリーンセンター 三雲リサイクルセンター
資源物	○	○	松阪市リサイクルセンター 松阪市クリーンセンター 三雲リサイクルセンター
埋立物	×	○	松阪市一般廃棄物最終処分場
小型家電	×	○	松阪市リサイクルセンター 松阪市クリーンセンター 三雲リサイクルセンター
充電式小型家電	○	○	松阪市リサイクルセンター 松阪市クリーンセンター 三雲リサイクルセンター
家電リサイクル製品	×	○	松阪市クリーンセンター 指定引取場所
処理困難物	×	×	—

※処理困難物については、回収及び処理することが可能な業者の情報提供を行います。

1-2 ごみ処理体制

1) 収集運搬体制

収集運搬体制は、市職員による収集運搬及び業務委託により行われています。

2) 収集頻度

収集頻度は表3-2 に示すとおりです。

燃えるごみは週2回、燃えないごみは隔週または月2回、プラスチック容器・袋は週1回、資源物は月1回の収集頻度としています。

令和3(2021)年4月からは、充電式小型家電を月1回の収集頻度で回収しています。

表3-2 (収集頻度)

	燃えるごみ	燃えないごみ	危険ごみ	充電式小型家電	蛍光管	資源物	
							プラスチック容器・袋
本庁管内	2回/週	隔週	隔週	1回/月	1回/月	1回/月	1回/週
嬉野管内	2回/週	2回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/週
三雲管内	2回/週	2回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/週
飯南管内	2回/週	2回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/週
飯高管内	2回/週	2回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/月	1回/週

※嬉野管内については、危険ごみのうち乾電池は2回/月

3) ごみの処理施設の概要

松阪市の一般廃棄物の処理を行っているごみの処理施設の概要は表3-3～表3-5に示すとおりです。

表3-3 (松阪市クリーンセンターの概要(燃えるごみ、燃えないごみ))

名称	松阪市クリーンセンター(写真3-1)
所在地	松阪市桂瀬町751番地
施設	熱回収施設(焼却施設) 破砕選別施設(粗大ごみ処理施設) 資源物保管庫(資源物等の受入)
供用開始	平成27年4月 (資源物保管庫は令和元年7月)
処理方式	全連続燃焼式ストーカ方式
処理能力	焼却施設 : 200t/日(100t/24h×2炉) 粗大ごみ処理施設 : 26t/5h (燃えないごみ・燃えない粗大ごみ 20t/5h 燃える粗大ごみ 6t/5h)
発電出力	最大3,500kW

表3-4 (松阪市リサイクルセンターの概要(資源物等))

名称	松阪市リサイクルセンター(写真3-2)
所在地	松阪市町平尾町351番地2
施設	リサイクルセンター(プラスチック容器・袋の手選別及び圧縮梱包) 空ビン選別棟(空ビンの3色手選別) ペットボトル処理棟(ペットボトルの手選別及び圧縮梱包) アルミ缶処理棟(飲食用アルミ缶の破砕選別) 資源物保管庫(白色トレーの手選別、小型家電、充電式小型家電、資源物等の受入)
竣工	リサイクルセンター : 平成24年2月 空ビン選別棟 : 平成10年8月 ペットボトル処理棟 : 平成10年3月 アルミ缶処理棟 : 平成12年10月 資源物保管庫 : 平成15年3月
処理能力	プラスチック圧縮梱包機 : 4t/日(5h) ペットボトル圧縮梱包機 : 700kg/h 飲食用アルミ缶破砕選別機 : 200kg/h

表3-5 (松阪市一般廃棄物最終処分場の概要(埋立物))

名称	松阪市一般廃棄物最終処分場(写真3-3)
所在地	松阪市上川町985番地
竣工	平成11年3月
埋立構造	準好気性埋立
埋立方式	セル工法
対象物	焼却灰、破碎残渣等
埋立面積	29,400 m ²
埋立容量	219,000 m ³



写真3-1 (松阪市クリーンセンター)



写真3-2 (松阪市リサイクルセンター)



写真3-3 (松阪市一般廃棄物最終処分場)

1-3 ごみ排出量及びごみ処理量の実績

1) ごみ排出量及びごみ処理量の実績

(1) ごみ排出量の実績

ごみの総量（集団回収量を含む）（以下「総ごみ量」という。）の実績は表3-6及び図3-2に示すとおりです。総ごみ量（集団回収量を含む）は、ほぼ横ばいで推移しており令和3(2021)年度は、58,212 t/年度となっています。しかし、住民自治協議会や自治会等が実施している集団回収の量は減少しており、令和3(2021)年度の回収量は2,350t/年度となっています。

表3-6 (ごみ排出量の実績)

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年間日数	日	366	365	365	365	366	365	365
人口	人	163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872
家庭系ごみ (集団回収量を除く)	t/年度	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874
事業系ごみ	t/年度	14,970	14,963	15,334	15,552	15,880	14,495	15,988
集団回収量	t/年度	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350
総ごみ量	t/年度	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212
1人1日当たりごみ排出量 (集団回収量を含む)	g/人・日	1,001	982	988	996	1,006	995	1,010
総ごみ量 (集団回収量を除く)	t/年度	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862
1人1日当たりごみ排出量 (集団回収量を除く)	g/人・日	926	917	931	944	956	952	969

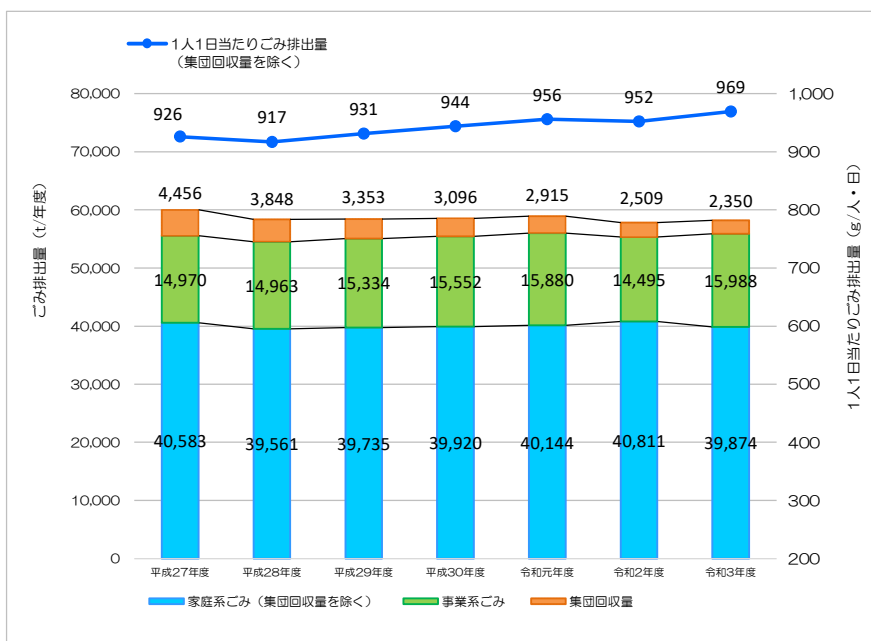


図3-2 (ごみ排出量の実績)

(2) 中間処理の実績

令和3(2021)年度の松阪市クリーンセンターの処理実績は、直接焼却量が48,693t、燃えないごみの破砕量が2,777tとなっています。破砕した残渣のうち、燃えないごみに含まれる可燃分(679t)は、焼却処理されています。松阪市リサイクルセンターでは、ペットボトル、プラスチック容器・袋の圧縮梱包、空ビン、白色トレイ、充電式小型家電の手選別、飲食用アルミ缶、スプレー缶の破砕選別を行っており、令和3(2021)年度の稼働実績は、1,596tとなっています。

表3-7 (松阪市クリーンセンターの稼働実績)

		令和3年度
焼却量	直接焼却量	48,693 t
	燃えないごみに含まれる可燃分	679 t
破砕量		2,777 t
発電量		23,049,250 kWh
売電収入		2億5,722万5千円

表3-8 (松阪市リサイクルセンターの稼働実績)

		令和3年度
圧縮梱包	ペットボトル	185 t
	プラスチック容器・袋	613 t
手選別	白色トレイ	8 t
	空ビン	702 t
	充電式小型家電	3 t
破砕選別	飲食用アルミ缶	37 t
	スプレー缶	48 t
合計		1,596 t

(3) 最終処分の実績

最終処分量の搬入実績及び残余容量は、表3-9及び表3-10に示すとおりです。松阪市一般廃棄物最終処分場では、焼却灰、破砕埋立物、直接埋立物を埋め立てています。令和4(2022)年6月の残余容量調査を行った時点では、残余容量は35,797 m³であり、埋立可能容量の約80%が埋め立てられています。

表3-9 (松阪市一般廃棄物最終処分場の搬入実績)

	令和3年度
焼却灰	5,793 t
破砕埋立物	1,043 t
直接埋立物	1,931 t
合計	8,767 t

表3-10 (最終処分場の残余容量)

	令和4年6月時点
埋立容量	219,000 m ³
残余容量	35,797 m ³

2) ごみ質の状況

燃えるごみのうち、紙類の割合は約42%程度を占めています。

また、水分が多い厨芥類(生ごみ)の割合は7%程度となっています。厨芥類は食品ロスの削減や水切りによってさらに減量できる可能性があります。今後も定期的に組成分析を行い、ごみ質の変動を確認していきます。

さらに、松阪市クリーンセンターでは、ごみを燃やした時に発生する熱を利用して発電及び売電を行っています。売電単価は燃えるごみ中のバイオマスの割合によって変動するため、毎月バイオマス比率^{※1}を計算しています。令和3(2021)年度のバイオマス比率の平均値は60.7%です。なお、すべての余剰電力は、松阪市の施設等へ松阪新電力株式会社が小売供給するという形で、エネルギーの地産地消に寄与しています。

表3-11 (燃えるごみの組成分析結果(乾ベース))

項目	令和3年度(12ヶ月平均)
紙類	42.0% ^{※2}
繊維類	4.7%
プラスチック類	20.5%
草木類	21.0%
厨芥類	6.9%
不燃物類	1.8%
その他	3.1%
合計	100%

※1 燃えるごみの中に含まれる動植物等の生物資源であるバイオマス等がもつ熱量により計算される値

※2 重量パーセント(=各項目の重量÷燃えるごみ全体の重量)

3) ごみ処理経費

令和3(2021)年度の修繕費等の施設整備に係る経費を除いた、ごみ処理年間経費は約17.2億円です。そのうち、約50%程度を収集運搬費が占めています。また、市民1人当たりの令和3(2021)年度ごみ処理経費は、約11,000円となっています。

表3-12 (ごみ処理経費(令和3年度))

	ごみ処理年間経費	1人当たりの経費	
		1t当たりの経費	1人当たりの経費
収集運搬費	846,024千円	15,145円	5,256円
中間処理費	545,389千円	9,763円	3,389円
最終処分費	75,404千円	1,350円	468円
その他処理及び維持管理費	258,018千円	4,619円	1,603円
合計	1,724,835千円	30,877円※	10,716円

※ 小数点以下第1位を四捨五入しているため合計値が合わない。

1-4 ごみ減量化及び再生利用の状況

1) 資源物回収の状況

収集又は持ち込まれた資源物は、松阪市リサイクルセンターで手選別や圧縮梱包などの中間処理又は一時保管した後、リサイクル業者に引き渡しています。

表3-13 (資源物回収の実績(令和3年度))

品目	回収量 (t/年度)
新聞紙	176
雑誌・雑紙	248
ダンボール	206
牛乳パック	6
古着類	180
ペットボトル	185
プラスチック容器・袋	613
白色トレイ	8
飲食用アルミ缶	37
空ビン	702
合計	2,361

2) 集団回収活動の状況

集団回収活動の状況は、表3-14に示すとおりです。

集団回収で集められた資源物は古紙リサイクル業者等に売却されています。

また、資源物の集団回収活動を行った団体に対して、回収量に応じた補助金を交付しています。平成20(2008)年度以降、補助金単価が統一され、回収した資源物1kgあたり3円(リユースビンは1本3円)を交付しています。近年では事業者の店頭回収などにより回収量が年々減少しています。

表3-14 (集団回収の実績(令和3年度))

品目	回収量 (t/年度)
新聞紙	959
雑誌・雑紙	595
ダンボール	650
牛乳パック	8
古着類	137
ビン類	1
合計	2,350

3) 資源化の状況

令和3(2021)年度の資源化量は5,867tであり、総ごみ量58,212tのうちの10.08%を占めています。資源化量の内訳は、燃えないごみを破碎処理した際に出る鉄やアルミ、収集された資源物等です。

また、新聞紙や雑誌・雑紙などは直接資源化ができるため、リサイクル業者等へ売却しています。ペットボトルやプラスチック容器・袋などは指定法人へ資源化処理の委託をしています。

表3-15 (資源化の実績(令和3年度))

品目	資源化量 (t/年度)	備考
破碎鉄	817	燃えないごみ中の鉄
破碎アルミ	113	燃えないごみ中のアルミ
粗大鉄	122	粗大ごみ中の鉄
粗大アルミ	3	粗大ごみ中のアルミ
破碎可燃鉄	1	破碎可燃物中の鉄
スプレー缶(鉄)	45	危険ごみ中のスプレー缶(鉄)
スプレー缶(アルミ)	3	危険ごみ中のスプレー缶(アルミ)
飲食用アルミ缶	37	
空ビン(透明、茶)	564	
新聞紙	1,135	集団回収(959t)含む
雑誌・雑紙	843	集団回収(595t)含む
ダンボール	856	集団回収(650t)含む
牛乳パック	14	集団回収(8t)含む
古着類	317	集団回収(137t)含む
空ビン(集団回収)	1	
小型家電	19	
充電式小型家電	3	
乾電池	18	危険ごみ中の乾電池
蛍光管	12	
ペットボトル	185	
プラスチック容器・袋	613	
白色トレイ	8	
空ビン(その他)	138	
合計	5,867	

4) 生ごみ堆肥化容器等の購入補助

家庭から出る生ごみを堆肥化、再生利用するために、生ごみ堆肥化容器及び生ごみ処理機等の購入補助(補助率1/2、上限30,000円)を行っています。

生ごみ堆肥化容器は、微生物の分解により、生ごみの減量又は堆肥化を行うための容器をいいます。また、生ごみ処理機は、生ごみを加熱(乾燥)又は微生物の分解により、生ごみの減量又は堆肥化を行うための電気機器をいいます。

令和3(2021)年度の補助実績は、生ごみ堆肥化容器の補助件数は53件、生ごみ処理機の補助件数は35件です。

5) 生ごみ堆肥化の推進

平成 24(2012)年度より生ごみ堆肥化講座を実施しています。講座では堆肥化の仕組み、ダンボールコンポストの作り方、資材の扱い方など実習を交えて開催しています。



写真 3-4 (ダンボールコンポスト)

6) 紙類の資源化の推進

燃えるごみとして排出される紙類の中には、資源物として扱える紙類が多く含まれています。松阪市では、令和元(2019)年度及び令和 3(2021)年度に、資源として排出できる紙の種類と出し方の周知を図るため、資源物を出しに来ていただいた市民の方を対象に「雑紙回収袋」の配布を行いました。

その結果、「紙類をひもで十文字にしばって出す必要がなく、お手軽に回収場所に出すことができ便利」とのご意見を頂いています。今後もこの事業を継続して推進していくことで、燃えるごみに含まれる紙類の資源化につなげていきます。



写真 3-5 (雑紙回収袋)

7) 啓発活動

ごみの排出抑制・リサイクルを進めるためには、市民の意識向上を図り、意識啓発を進め、実際にごみ減量やリサイクルなどへ取り組む市民、事業者を増やしていくことが必要です。実践している啓発活動は、表3-16に示すとおりです。

表3-16 (啓発活動と内容)

啓発活動	内容
出前講座の開催	環境学習の一環として、ごみの減量・資源化につながる講座を自治会や公民館等で開催し、市民の意識向上を図っています。具体的な講座内容として、生ごみの堆肥化講座、マイ箸作り講座、買い物ゲーム、ごみの分別の説明会などを行っています。
工場見学の実施	小学校や市政バスを対象に松阪市リサイクルセンター、松阪市クリーンセンター、松阪市一般廃棄物最終処分場等での工場見学を受け入れ、松阪市のごみの現状を理解してもらうとともに3Rの取組について周知を図っています。
環境教育の充実	小学生を対象にした社会科の教材を作成し、松阪市のごみ処理の流れや環境保全について学習する機会を設けるとともに、工場見学やパッカー車体験を開催し、小学生の時からごみに対する意識を高める取組をしています。
松阪市 3R サポーターの活動	平成 24 年度より、ごみ減量や3Rの啓発活動を行うとともに、ごみや3Rに関する情報の把握や発信のための活動を行っています。



写真 3-6 (出前講座)



写真 3-7 (工場見学 (松阪市リサイクルセンター))



写真 3-8 (工場見学 (松阪市クリーンセンター))



写真 3-9 (工場見学 (松阪市一般廃棄物最終処分場))



写真 3-10 (バッカー車体験)



写真 3-11 (3R サポーターの活動)

1-5 ごみ処理の評価

松阪市のごみ処理の状況について、平成 19(2007)年 6 月に環境省から公表された「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針（環境大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課 平成 25(2013)年 4 月改訂）」に基づき、評価を行います。

同指針では、一般廃棄物処理システムの評価のため「市町村一般廃棄物処理システム比較分析表」を作成することとしており、環境省では同表の作成を支援するために「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」（以下「支援ツール」という。）を公開しています。支援ツールを活用することで多くの市町村が自らの廃棄物処理システムを客観的に評価し、廃棄物処理システムの改善に役立てることが出来ます。処理計画を策定する際の基礎データとしても用いられます。

評価結果を表 3-17 及び図 3-3 に示します。各指標において、類似都市*の平均値を 100 として、指数化しています。指数値が 100 より高いと平均よりも優れていると言えます。

令和 2(2020)年度実績値で、人口 1 人 1 日当たりごみ総排出量は 976g/人・日であり、類似都市の平均値 896g/人・日より 80g/人・日程度高い値となっています。

廃棄物からの資源回収率は 10.9%であり、類似都市の平均値 17.1%より 6.2%低くなっています。

廃棄物のうち最終処分される割合は 13.3%であり、類似都市の平均値 7.1%と比較して 6.2%高い値となっています。また、直接埋立、焼却残渣、処理残渣の埋立形態別の算定結果（補足指標）を表 3-18 に示します。直接埋立の割合は 0.9%であり類似都市の平均値 1%と同程度ですが、焼却残渣 10.3%は平均値 5.4%の約 2 倍、処理残渣 2.1%は平均値 0.6%の約 3.5 倍と高い結果となっています。

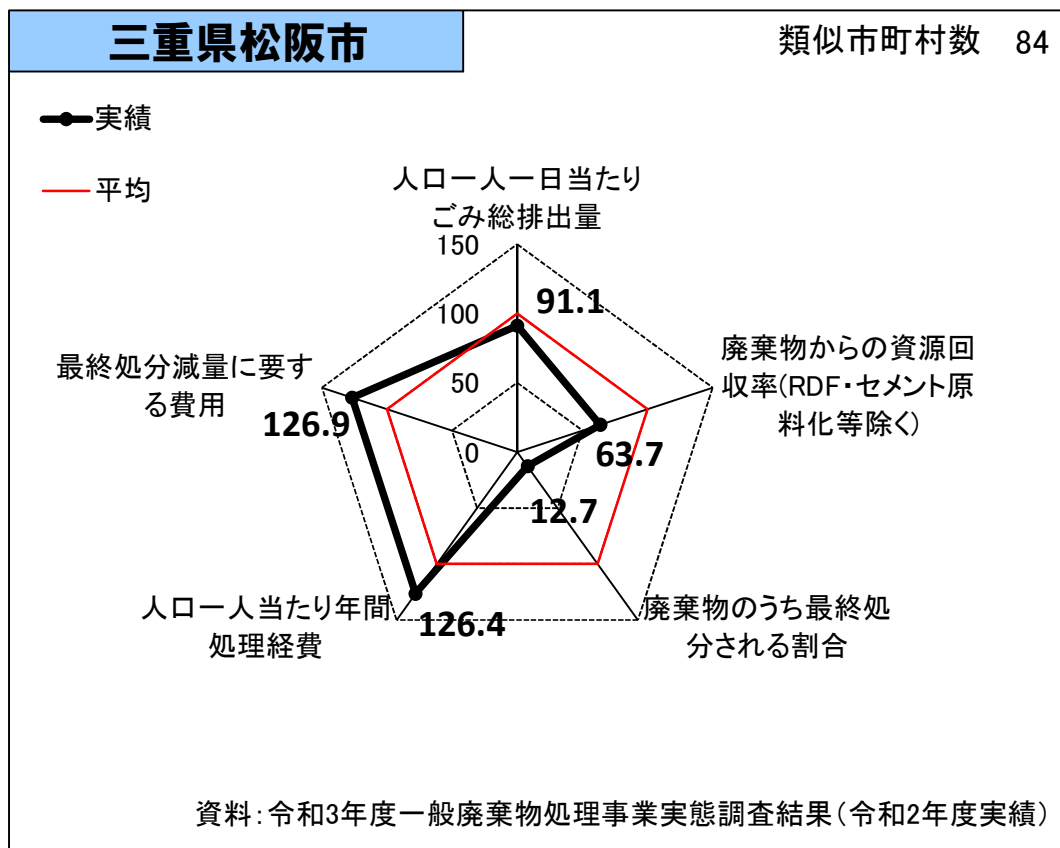
処理コストは、人口 1 人当たり年間処理経費（10,217 円/人・年度）及び最終処分減量に関する費用（31,509 円/t）は、類似都市の平均値よりも安く、優れています。

※類似都市とは

東海地方における市（政令指定都市、特別区、中核市、特例市を除く）：84 市
各市の指標値については、資料編「資料 2 類似都市のごみ処理の評価」参照

表3-17 (評価支援ツールによる算出結果)

標準的な指標	(A) 人口1人1日当 たりごみ総排出量 (kg/人・日)	(B) 廃棄物からの資源回収率 (RDF・セメント原料 化等除く) (%)	(C) 廃棄物のうち 最終処分される割合 (%)	(D) 人口1人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	(E) 最終処分減量に 要する費用 (円/t)
平均	0.896	0.171	0.071	13,888	43,114
最大	1.554	0.393	0.218	27,646	99,826
最小	0.616	0.04	0	7,021	21,515
標準偏差	0.151	0.069	0.047	4,312	13,413
松阪市実績	0.976	0.109	0.133	10,217	31,509
指数値	91.1	63.7	12.7	126.4	126.9



出典: 「令和3年度一般廃棄物処理事業実態調査結果(令和2年度実績)」に基づく
支援ツールでの算定結果に基づき作成

図3-3 各指標の評価結果

表3-18 (最終処分される割合(埋立形態別))

補足指標	埋立形態別 最終処分される割合		
	(C-1) 直接埋立 最終処分量 (%)	(C-2) 焼却残渣 最終処分量 (%)	(C-3) 処理残渣 最終処分量 (%)
平均	0.01	0.054	0.006
最大	0.15	0.137	0.095
最小	0	0	0
標準偏差	0.021	0.041	0.012
松阪市実績	0.009	0.103	0.021
指数値	110	9.3	-150

注：指数は、平均値だと100、平均値の2倍だと0、平均の3.5倍だと-150
 出典：「令和3年度一般廃棄物処理事業実態調査結果(令和2年度実績)」に基づく
 支援ツールでの算定結果に基づき作成

表3-19 (標準的な評価項目(指標)の評価と指数の算出方法)

指標	指数化の方法	指数の見方
人口一人一日当たりごみ総排出量(kg/人・日)	$(1 - [\text{実績値} - \text{平均値}] \div \text{平均値}) \times 100$	指数が大きいほどごみ総排出量は少なくなる
廃棄物からの資源回収率(%)	$\text{実績値} \div \text{平均値} \times 100$	指数が大きいほど資源回収率は高くなる
廃棄物のうち最終処分される割合(t/t)	$(1 - [\text{実績値} - \text{平均値}] \div \text{平均値}) \times 100$	指数が大きいほど最終処分される割合は小さくなる
人口一人当たり年間処理経費(円/人・年)	$(1 - [\text{実績値} - \text{平均値}] \div \text{平均値}) \times 100$	指数が大きいほど一人当たり処理経費は少なくなる
最終処分減量に要する費用(円/t)	$(1 - [\text{実績値} - \text{平均値}] \div \text{平均値}) \times 100$	指数が大きいほど費用対効果は高くなる

出典：「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」
 (平成25年4月改訂 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)

1-6 課題の抽出

課題 1 ごみ発生抑制

1人1日当たりごみ排出量（集団回収量を含む）は近年、ほぼ横ばいで推移しています。令和3(2021)年度の1人1日当たりごみ排出量（集団回収量を除く）は969g/人・日となり、第1期見直し版の中間目標年度（令和8(2026)年度）の目標値である822g/人・日を達成するためには、さらなる発生、排出抑制及び減量化が必要です。

家庭系ごみの発生、排出抑制及び減量化のためには、生ごみの水切り及び堆肥化、並びに食品ロスの削減などについて啓発を強化していく必要があります。

また、燃えるごみに占める紙類の割合は、令和3(2021)年度の平均値で約42%を占めているため、分別を徹底することで、さらなる資源化率の向上、ごみ排出量を削減する取り組みについて検討する必要があります。

課題 2 資源化率

資源化率は、年々減少傾向を示しています。主な理由として資源物及び集団回収量の減少が大きな要因となっています。令和3(2021)年度の資源化率は10.1%で、第1期見直し版の中間目標年度及び最終目標年度の値である24%以上を達成するのが困難な状況になっています。今後は、焼却灰及び燃えるごみに含まれる紙類を資源化することによって目標値の達成を目指します。

課題 3 最終処分量

松阪市一般廃棄物最終処分場（以下「現最終処分場」という。）が、平成11(1999)年度に供用開始し、令和3(2021)年度末には埋立量が80%を超える中、令和3(2021)年度の最終処分量は8,767tで、中間目標年度の目標値である1,200t以下を超過しています。最終処分量に占める焼却灰や破碎処理残渣の割合が大きいことから焼却灰の資源化に取り組むことや燃えないごみを削減することによって中間目標年度の目標値の達成を目指します。

また、今後は、最終処分量の削減に努めるとともに、令和9(2027)年度の供用開始を目指して新たな一般廃棄物最終処分場（以下「新最終処分場」という。）の整備に取り組んでいきます。

新最終処分場では、供用開始に併せて焼却灰の資源化を実施することを計画しております。

課題 4 ごみ処理体制

ごみの資源化を促進したり、家庭から排出されるごみを迅速、かつ衛生的に処理するために、市民の協力を得ながら、効率的な収集運搬の方法と市民にわかりやすい分別区分やその種類等について、継続的に検討をしていく必要があります。

課題 5 ごみ処理経費

ごみ処理施設の老朽化等により、維持管理費等が増大することを見込んでいます。

このことを踏まえ、中間処理施設や最終処分場のごみ処理体制を効率化することにより、ごみ処理経費の削減に努める必要があります。

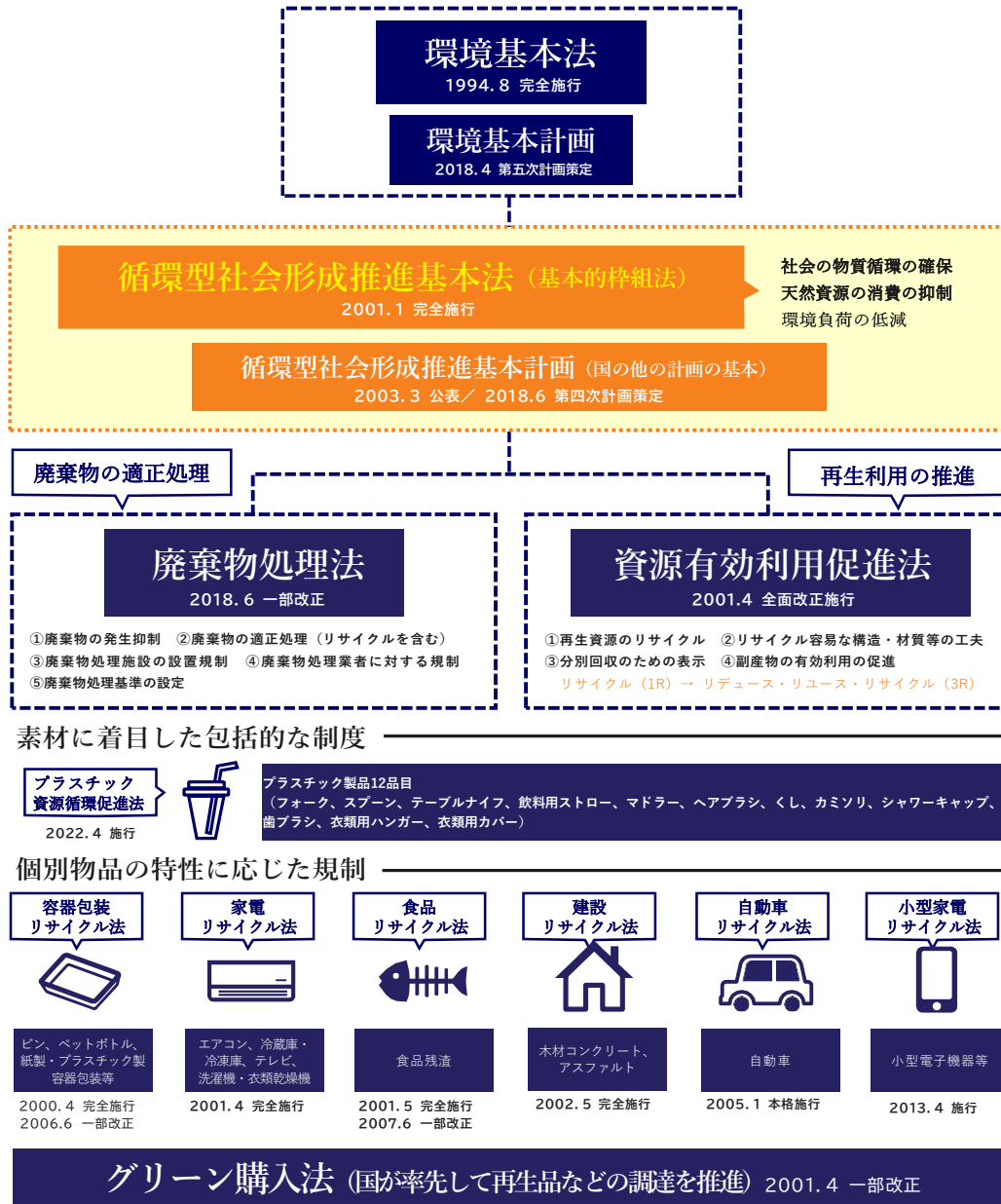
第2節 ごみ処理行政の動向

2-1 関連法令の整理

1) 廃棄物に関する法体系

主な廃棄物関連法制度の体系は、以下のとおりです。

循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する基本的な計画として、循環型社会形成推進基本計画が策定されています。循環型社会のあるべき姿についてのイメージを掲げ、循環型社会形成のための数値目標を設定するとともに、国及びその他自治体が主体の取組の方向性が示されています。



出典：「第四次循環型社会形成推進基本計画」に一部追記

図3-4 (廃棄物・リサイクル関連法整備状況)

2) 第四次循環型社会形成推進基本計画

平成 13(2001)年度の循環型社会形成推進基本法施行後、「循環型社会形成推進基本計画」が策定されるとともに各種リサイクル関連法も整備され、社会全体で循環型社会の形成を推進してきたが、近年の社会情勢の変化を鑑み、「持続可能な社会づくりとの統合的取組」、「多種多様な地域循環共生圏形成による地域活性化」、「ライフサイクル全体での徹底的な資源循環」、「適正処分の更なる推進と環境再生」、「万全な災害廃棄物処理体制の構築」、「適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開の推進」、「循環分野における基盤整備」等を新たな政策の柱として、平成 30(2018)年 6 月に新たに「第四次循環型社会形成推進基本計画」を定めています。

■数値目標

一般廃棄物の減量化に関する数値目標としては、以下に 3 つの項目が示されています。
(目標年度：令和 7(2025)年度)

- ① 1 人 1 日あたり排出量 約 850 g/人・日
(※ごみ・資源物を含む総量)
- ② 1 人 1 日あたり家庭ごみ排出量 約 440 g/人・日
(※資源物を除く)
- ③ 事業系ごみ排出量 約 1,100 万 t
(※資源物を除く)

3) 三重県循環型社会形成推進計画

循環型社会の形成に向けた県の取組の成果を表す指標として、以下に示す目標数値を設定しています。第四期計画の一般廃棄物の数値目標（モニタリング指標）については、国の基本方針を踏まえるとともに、第三期計画の目標の達成状況やプラスチック対策及び食品ロス等対策といった社会的課題に取り組むことで、以下のように定められています。

■数値目標（モニタリング指標）

(目標年度：令和 7(2025)年度)

- ① 1 人 1 日あたりのごみ量（一般廃棄物）排出量 902g/人・日
- ② 一般廃棄物の資源化率 27.3%
- ③ 一般廃棄物の最終処分量 10 千 t

4) SDGs の実現に向けた動き

平成 27(2015)年9月の国連総会において、経済・社会・環境の三つのバランスが取れた社会を目指すための「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」が掲げられ、持続可能な社会を実現するために達成すべき 17 のゴールと 169 のターゲットが示されました。17 のゴールは、世界中で取り組むべき課題の解決を目指しており、達成に向けて、すべての人々が SDGs を理解し、それぞれの立場で主体的に行動することが求められています。

三重県は SDGs と関わりが深く、平成 28(2016)年に開催された伊勢志摩サミットは、平成 27(2015)年の SDGs 採択後、初めて開催されたサミットであり、「G7 伊勢志摩首脳宣言」において、実施を推進することにコミットすることが世界に発信された地でもあります。また、令和 2(2020)年8月には内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されたことを受け、「三重県 SDGs 未来都市計画」が策定されています。

松阪市のごみ処理基本計画では、17 のゴールの中でも目標 12 及び目標 14 が主に関連します。目標 12「つくる責任つかう責任」では、リサイクルのしやすさに配慮した製品等の生産活動や、ものを大切にリユースを前提とした消費活動により、持続可能な生産・消費活動を目指します。また、目標 14「海の豊かさを守ろう」では、プラスチック使用量・プラスチックごみ発生量を削減することで海の汚染を減らすことを目指します。



図 3-5 (SDGs の 17 のゴール概要)

2-2 近隣市町の動向

近隣市町におけるごみ処理量の状況は表3-20に示すとおりです。

三重県平均と比較すると、「1人1日当たりごみ排出量」はやや多く、「資源化率」は10%程度低く、「最終処分率」は10%程度高い値となっています。このことを踏まえ、「第1節 1-7 課題の抽出」で記述した課題は、三重県平均との比較においてもあてはまるのがわかります。松阪市としては、「1人1日当たりごみ排出量」、「最終処分率」の削減及び「資源化率」の向上について、特に取り組んでいく必要があります。

表3-20 (近隣市町におけるごみ処理状況)

市町名	計画 収集人口 (人)	ごみ 総排出量 (t)	1人1日当 りごみ排出量 (g/人・日)	資源化量 (t)	資源化率 (%)	最終 処分量 (t)	最終 処分率 (%)
津市	276,323	102,685	1,018	23,534	22.9	1,558	1.5
四日市市	311,716	105,653	929	23,121	21.9	1,153	1.1
伊勢市	124,543	50,283	1,106	12,555	25.1	21	0.04
松阪市	162,244	57,815	976	6,278	10.9	7,665	13.3
桑名市	141,458	53,301	1,032	7,932	14.4	1,590	3.0
鈴鹿市	199,249	68,005	935	14,080	20.7	1,720	2.5
名張市	77,708	20,980	740	1,181	5.6	860	4.1
尾鷲市	17,253	6,368	1,011	1,477	23.2	140	2.2
亀山市	49,530	17,551	971	5,137	29.1	0	0.0
鳥羽市	18,029	8,033	1,221	1,584	19.6	69	0.9
熊野市	16,476	6,176	1,027	2,153	34.9	98	1.6
いなべ市	45,422	13,430	810	3,294	24.4	135	1.0
志摩市	46,104	17,633	1,048	3,006	17.0	760	4.3
伊賀市	90,097	25,992	790	2,792	10.7	570	2.2
木曾岬町	6,200	1,617	715	433	26.8	34	2.1
東員町	25,931	7,177	758	2,030	28.3	94	1.3
菰野町	41,613	12,322	811	3,260	27.5	224	1.8
朝日町	10,980	2,219	554	433	19.5	0	0.0
川越町	15,227	3,371	607	695	20.6	0	0.0
多気町	14,404	4,911	934	838	17.1	864	17.6
明和町	23,088	7,232	858	1,571	21.4	91	1.3
大台町	9,024	2,915	885	467	16.0	282	9.7
玉城町	15,405	4,812	856	1,139	22.8	25	0.5
度会町	8,043	2,806	956	532	19.0	2	0.1
大紀町	8,270	2,479	821	248	10.0	255	10.3
南伊勢町	11,869	4,313	996	298	7.2	549	12.7
紀北町	15,343	6,857	1,224	4,171	60.8	164	2.4
御浜町	8,279	2,138	708	1,270	59.4	229	10.7
紀宝町	10,757	3,208	817	1,942	60.8	315	9.8
県合計	1,800,585	622,282	947	127,451	20.4	19,467	3.1

※資源化率＝(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量)÷(ごみ処理量+集団回収量)

最終処分率＝(直接最終処分量+焼却残渣量+処理残渣量)÷(計画収集量+直接搬入量+集団回収量)

出典：環境省一般廃棄物処理実態調査(令和2年度実績)を編集

第4章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定

第1節 基本方針及び目標数値の設定について

1-1 基本理念

基本理念： ムダなく資源が循環しているまち

循環型社会形成推進基本法（平成12年法律第110号）では、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3Rを推進することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会である「循環型社会」の構築が必要であると提言されています。また、平成30(2018)年に閣議決定された第四次循環型社会形成推進基本計画では、近年の社会情勢の変化を鑑み、「持続可能な社会づくりとの統合的取組」、「多種多様な地域循環共生圏形成による地域活性化」、「ライフサイクル全体での徹底的な資源循環」、「適正処分の更なる推進と環境再生」、「万全な災害廃棄物処理体制の構築」、「適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開の推進」、「循環分野における基盤整備」等を新たな政策の柱としています。

また、令和3(2021)年6月、地球温暖化対策推進法の一部を改正する法律が公布され、2050年脱炭素社会の実現を基本理念とすることが規定され、地方自治体においても再生可能エネルギーの利用促進などに実施目標の設定を求めるなど、地域における脱炭素化が期待されています。

以上のことを踏まえ、第1期見直し版では、行政、市民、事業者が協働し、「松阪市総合計画」から目指す将来像である「ムダなく資源が循環しているまち」の基本理念を継承するものとします。

1-2 基本方針

基本方針1 3R及びごみの適正な排出の推進

3Rの取り組みを推進し、「ムダなく資源が循環しているまち」を目指します。また、行政の協力や支援により、住民自治協議会や自治会等の市民団体の取り組みが拡充するよう努めます。

基本方針2 行政、市民、事業者による協働体制の構築

「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するためには、行政、市民、事業者が協働して取り組むことが必要で、その協働するための仕組みづくり、体制づくりを整えていきます。

基本方針3 不法投棄の未然防止に努め、うるおいある豊かな環境の創出

山林が多く、不法投棄が発生しやすい地域であることを踏まえ、市民、及び事業活動を営む者とが連携を図り、不法投棄の未然防止に努め、うるおいある豊かな環境を創出します。

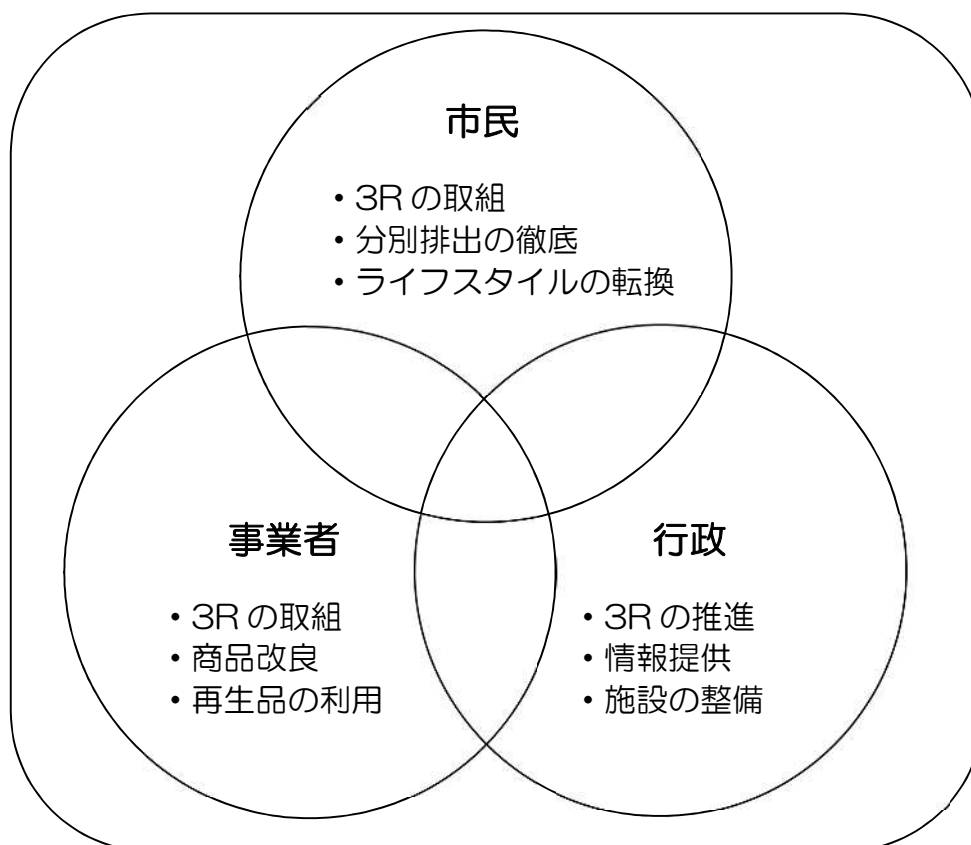


図4-1 （「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するための協働体制）

1-3 数値目標

1) 発生抑制による減量目標

「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するためには、「ごみを発生させないこと」が最も重要であり、「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」を市民一人ひとりや事業者が主体的に実践することが大切です。このことを踏まえ、発生抑制による減量目標の値（以下「減量目標値」という。）を測る指標として、総ごみ量ではなく、1人1日当たりごみ排出量（集団回収量を除く）を基準とします。

減量目標値は、国のごみ処理基本計画策定指針（平成 28(2016)年 9 月）に示されている、「ごみの排出量を平成 32(2020)年度までに平成 24(2012)年度比で約 12%削減すること」を基に設定します。松阪市では、平成 27(2015)年度を基準年として中間目標年度である令和 8(2026)年度において、1人1日当たりごみ排出量を 822 g/人・日とし、最終目標年度である令和 13(2031)年度においては、774g/人・日とし、当初計画で掲げた減量目標を継承します。

＜発生抑制による減量目標値＞

令和 8 年度（中間目標年度）	822g/人・日
令和 13 年度（最終目標年度）	774g/人・日

※なお、目標値の排出量は家庭から排出される一般廃棄物（家庭系ごみ）と事業所から排出される一般廃棄物（事業系ごみ）の合計とし、集団回収による資源回収量は含まない。

2) 最終処分量の減量目標

最終処分量の中間目標年度の減量目標値（1,200t/年度・以下）は、新最終処分場の供用開始に合わせて焼却灰を資源化することを前提に設定した減量目標値です。

当初計画は、令和 8(2026)年度に新最終処分場の供用を開始する計画でしたが、現最終処分場の埋立が満杯になる時期を令和 8(2026)年度末と見込むことから、新最終処分場の供用開始を令和 9(2027)年度に変更しました。

このことを踏まえ、焼却灰の資源化は、令和 9(2027)年度から取り組むものとし、中間目標年度を令和 8(2026)年度から令和 9(2027)年度に変更するものとします。

＜最終処分量の減量目標値＞

令和 9 年度（中間目標年度）	1,200t/年度・以下
令和 13 年度（最終目標年度）	1,100t/年度・以下

3) 資源化率の目標

資源化率の中間目標年度の目標値（24%/年度・以上）は、新最終処分場の供用開始に合わせて焼却灰を資源化することを前提に設定した目標値です。

焼却灰の資源化に取り組む年度の変更に合わせて、資源化率の中間目標年度を令和8(2026)年度から令和9(2027)年度に変更するものとします。

＜資源化率の目標値＞

令和9年度（中間目標年度）	24%/年度・以上
令和13年度（最終目標年度）	24%/年度・以上

第2節 ごみ排出量及びごみ処理量の見込み

2-1 人口の将来予測

人口は、平成 17(2005)年の 168,973 人をピークに減少に転じており、平成 27(2015)年の人口は 163,863 人、令和 27(2045)年の値は 127,379 人となっている。減少傾向は今後も加速する見通しです。

人口の将来予測については、トレンド法やコーホート要因法により行う方法がありますが、松阪市では上位計画に位置付けられる「総合計画」で設定されている将来人口を採用しました。

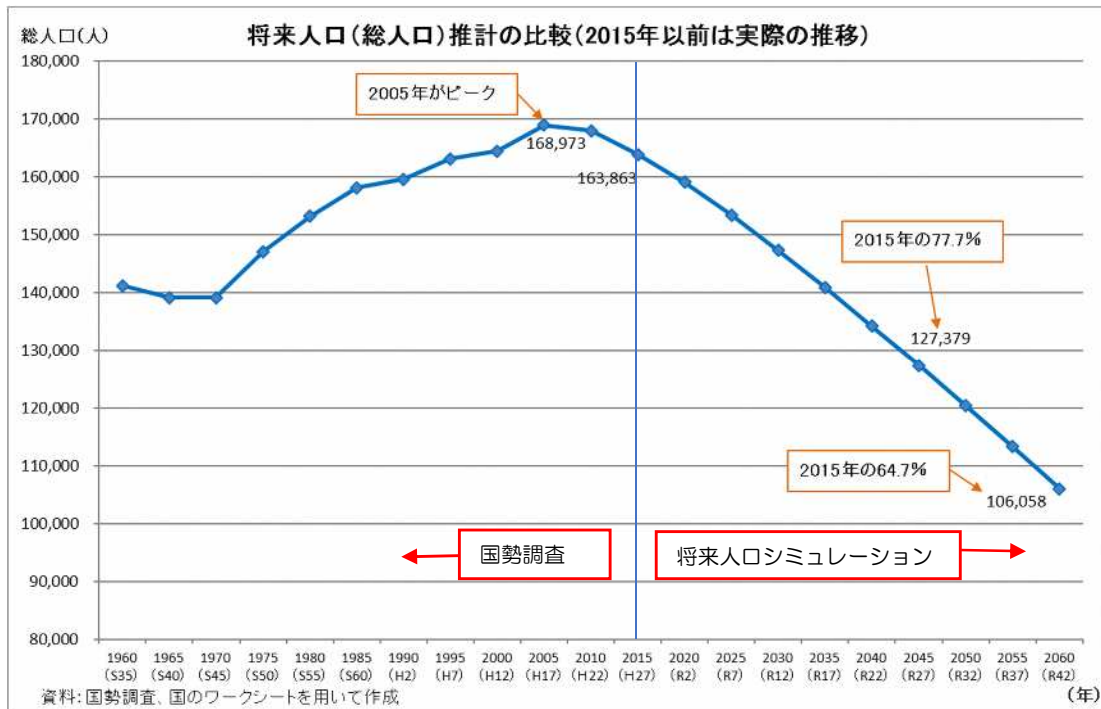


図4-2 (人口の将来予測)

2-2 ごみ排出量の将来予測

1) 現状推移の場合におけるごみ排出量の見込み

現状推移のごみ排出量の推計結果は、表4-1 及び図4-3 に示すとおりです。令和3(2021)年度の実績値と比較すると、中間目標年度の令和8(2026)年度には、家庭系ごみが39,874tから38,597tと1,277t減少、事業系ごみが15,988tから15,019tと969t減少、集団回収量が2,350tから2,018tと332t減少し、総ごみ量で58,212tから55,634tと2,578t減少する見込みです。

集団回収量を除いた1人1日当たり排出量をみると、令和3(2021)年度の実績値である、969g/人・日から965g/人・日と4g/人・日減少する見込みです。中間目標年度におけるごみ処理フローは、図4-4 に示すとおりです。

表4-1 (ごみ排出量の見込み(現状推移))

項目	単位	実績値	推計値		
		令和3年度	令和8年度 (中間目標年度)	令和9年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
人口	人	157,872	152,199	150,986	146,069
家庭系ごみ (集団回収量を除く)	t/年度	39,874	38,597	38,431	37,300
事業系ごみ	t/年度	15,988	15,019	15,030	15,072
集団回収量	t/年度	2,350	2,018	1,939	1,656
総ごみ量	t/年度	58,212	55,634	55,400	54,028
総ごみ量 (集団回収量を除く)	t/年度	55,862	53,616	53,460	52,372
1人1日当たり排出量 (集団回収量を除く)	g/人・日	969	965	967	980
最終処分量	t/年度	8,767	7,431	7,409	7,260
資源化率	%	10.1	9.6	9.5	9.0

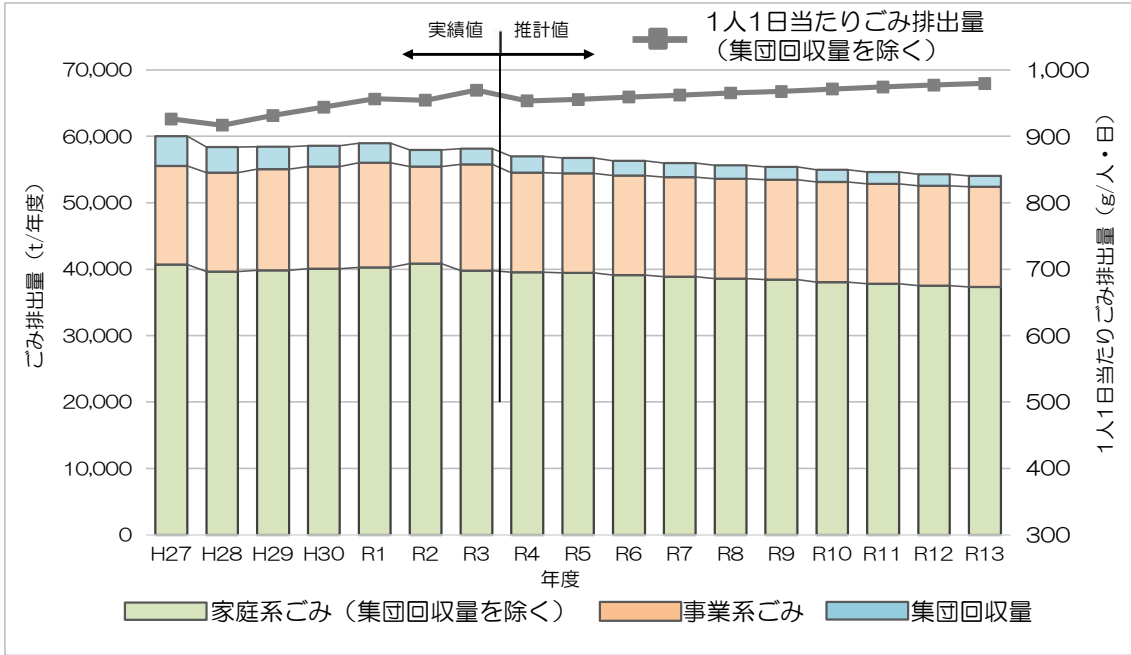
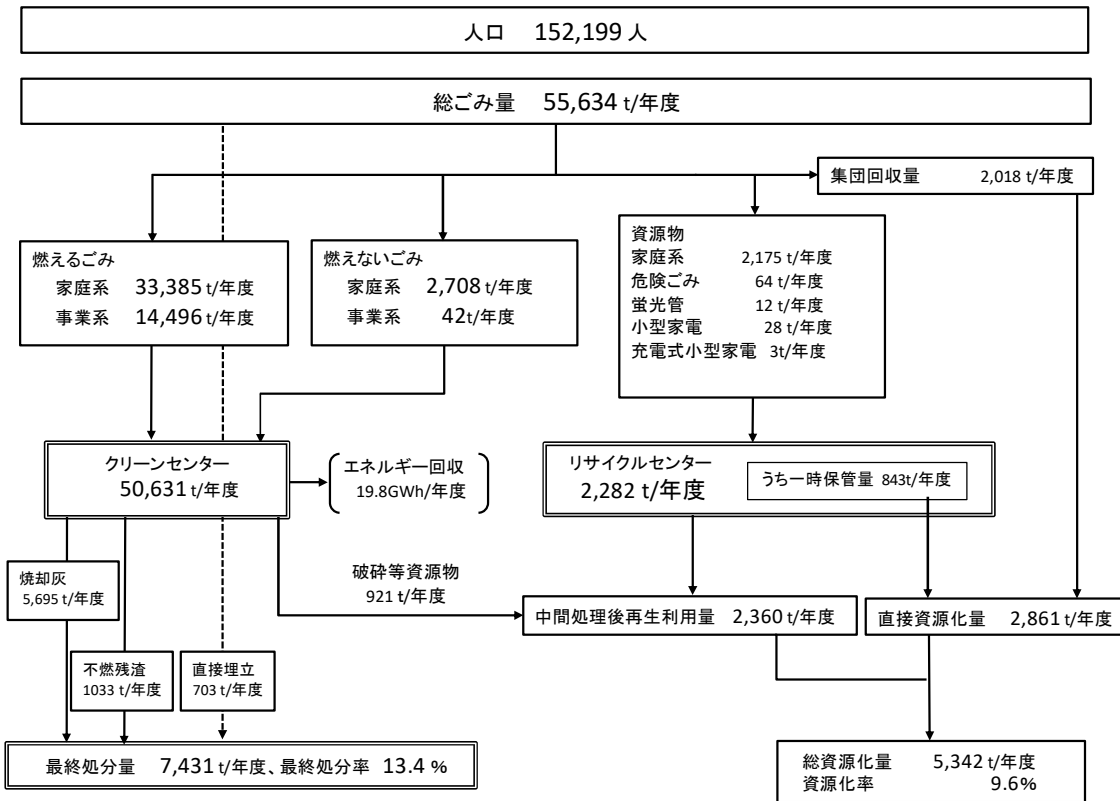


図4-3 (ごみ排出量の見込み(現状推移))



注：小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合がある。

図4-4 (中間目標年度におけるごみ処理フロー(現状推移))

2) 本計画におけるごみ排出量の見込み

施策推進後のごみ排出量の推計結果は、表4-2 及び図4-5 に示すとおりです。令和3(2021)年度の実績値と比較すると、中間目標年度の令和8(2026)年度で、家庭系ごみが39,874tから33,853tと6,021t減少、事業系ごみが15,988tから11,807tと4,181t減少、集団回収量が2,350tから2,266tと84t減少し、総ごみ量が58,212tから47,926tと10,286t減少する見込みです。

集団回収量を除いた1人1日当たり排出量をみると、令和3(2021)年度の実績値である、969g/人・日から822g/人・日と147g/人・日減少する見込みです。中間目標年度におけるごみ処理フローは、図4-6 及び図4-7 並びに最終目標年度におけるごみ処理フロー図は、図4-8 に示すとおりです。

表4-2 (ごみ排出量の見込み(施策推進後))

項目	単位	実績値	推計値		
		令和3年度	令和8年度 (中間目標年度)	令和9年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
人口	人	157,872	152,199	150,986	146,069
家庭系ごみ (集団回収量を除く)	t/年度	39,874	33,853	33,462	30,711
事業系ごみ	t/年度	15,988	11,807	11,567	10,610
集団回収量	t/年度	2,350	2,266	2,254	2,181
総ごみ量	t/年度	58,212	47,926	47,282	43,502
総ごみ量 (集団回収量を除く)	t/年度	55,862	45,660	45,028	41,321
1人1日当たり排出量 (集団回収量を除く)	g/人・日	969	822	815	773
最終処分量	t/年度	8,767	5,969	1,199	1,068
資源化率	%	10.1	13.7	24.0	24.5

※小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合がある。

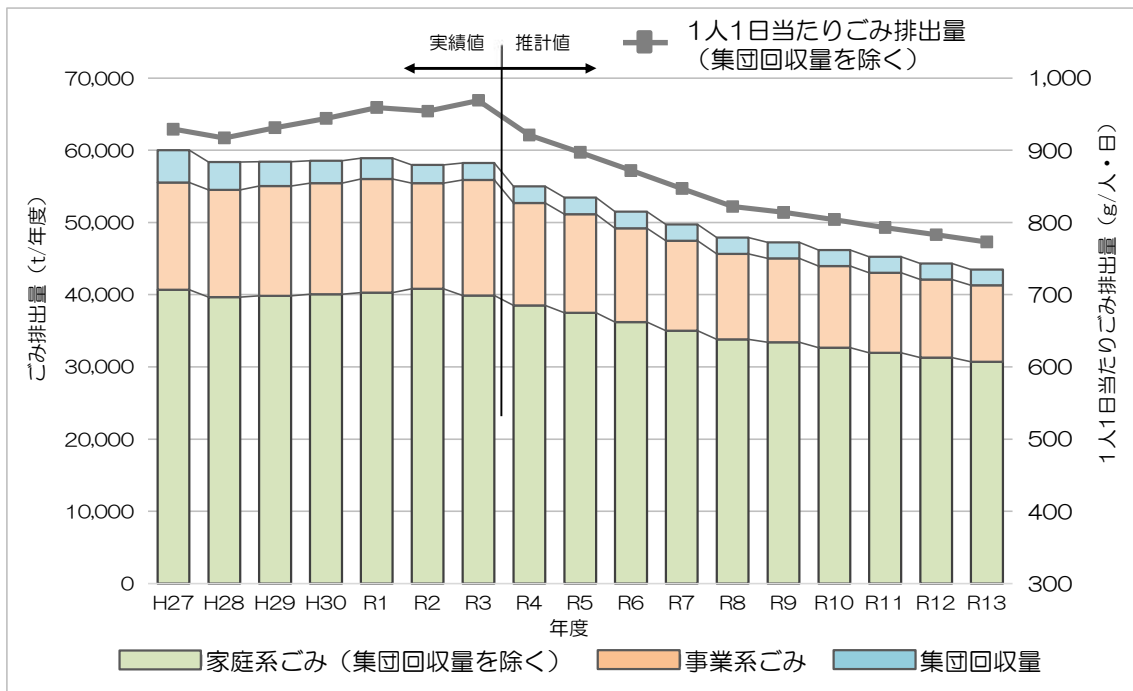
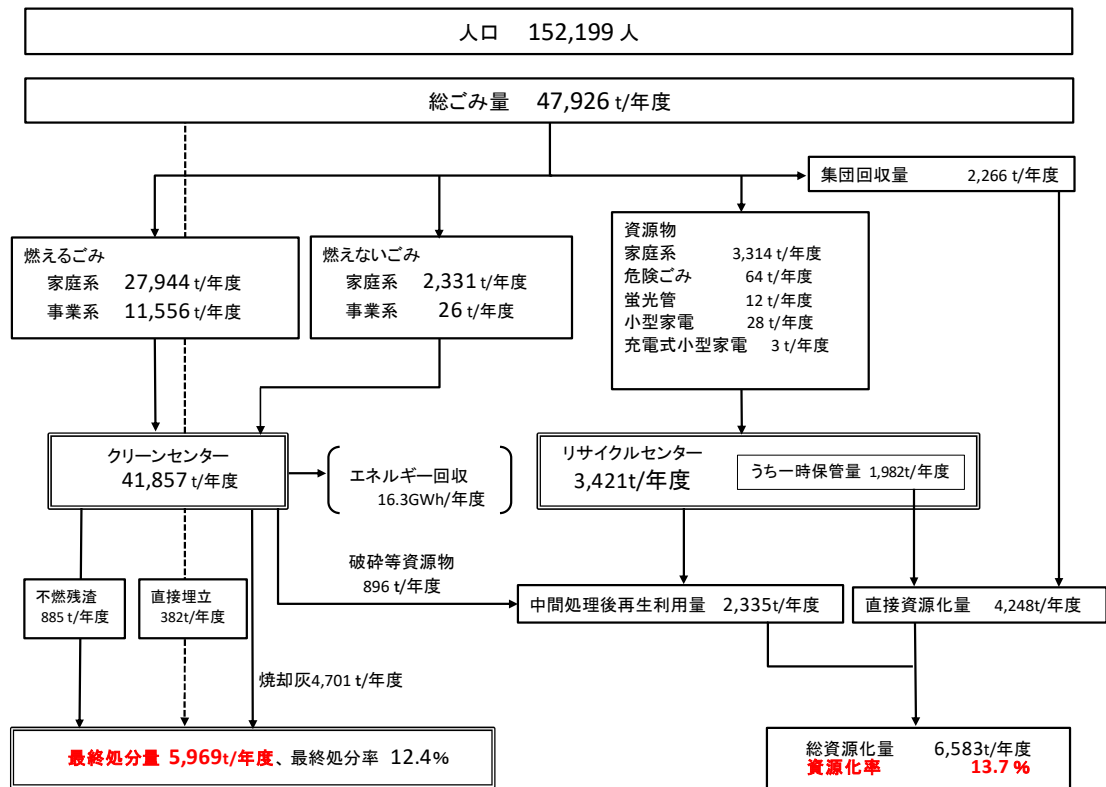


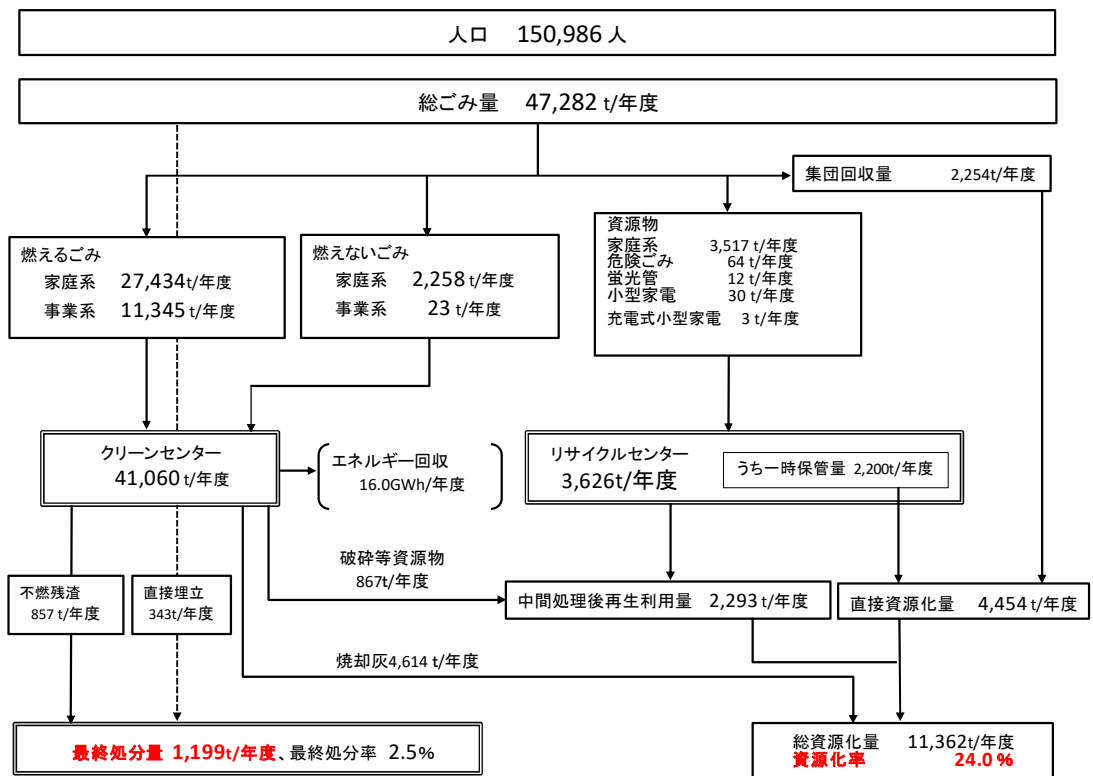
図4-5 (ごみ排出量の見込み(施策推進後))

第4章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の策定



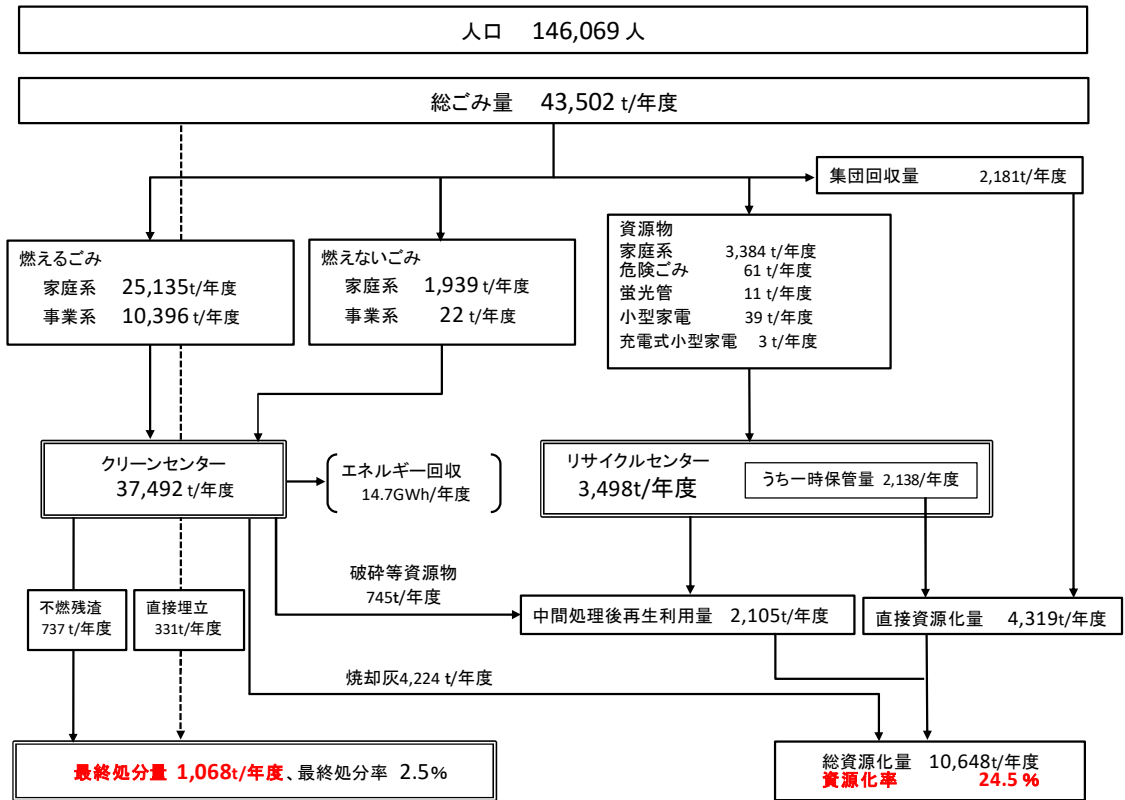
注：小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合があります。

図4-6 （令和8(2026)年度（中間目標年度）におけるごみ処理フロー図（施策推進後））



注：小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合があります。

図4-7 （令和9(2027)年度（中間目標年度）におけるごみ処理フロー図（施策推進後））



※小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合があります。

図4-8 (令和13(2031)年度(最終目標年度)におけるごみ処理フロー図(施策推進後))

第3節 基本理念を実現するための施策に関する事項

3-1 当初計画における実施結果の評価と今後の展望

3R（発生抑制、再使用、再生利用）を推進するための施策として、当初計画に定めていた18施策の実施結果の評価と今後の展望について表4-3に示します。

表4-3 （当初計画における施策達成のための実施結果の評価と今後の展望）

	施策	主な取組	評価
			凡例 ◎十分に達成 ○概ね達成 △実施したが課題あり ×達成できていない
行政	①環境教育、普及啓発の充実	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育、環境学習を実施する。 啓発活動、出前講座を実施する。 	◎
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス（以下「新型コロナ」という。）の影響で環境講座等の開催が減少しましたが、令和4年度から「買い物ゲーム」を「新聞ちぎり絵」に変更する等、講座の内容を見直すことで啓発手法を拡充しました。 DVD等の電子媒体を利用するなど新しい啓発手法を取り入れ、環境教育の充実に努めます。 		
	②一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみ減量マニュアル、啓発物の作成及びHP等への掲載を行う。 	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」を10,000冊作成し、各地域振興局（嬉野、三雲、飯南、飯高）、松阪商工会議所等を通じ事業所に配布することで事業系ごみの減量化に努めました。 引き続き、行政と事業者が協力し合いごみ減量化に努めます。 		
	③容器包装廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> マイバッグ持参運動を推進する。 	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 松阪市・多気町・明和町・大台町・玉城町・大紀町の1市5町はレジ袋削減に取り組むため、「もってこに！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会」を平成20年度に設置しました。 同年より松阪市ではレジ袋有料化の自主取り組みを始め、平成22年度から令和元年度までの各年度レジ袋辞退率は90%台を記録しました。 マイバッグの持参を推進する等の取り組みを継続し、リサイクル促進のために容器包装廃棄物の排出抑制に努めます。 		
	④リユース容器の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 市主催のイベントで、リユース可能な容器の使用を推進する。 	△
実施結果の評価と今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> 施設見学や環境講座等の3Rの啓発活動によりリユースを呼びかけました。 新型コロナの影響により、イベントが減少し、イベント時のリユース容器の利用促進はできませんでした。今後も感染予防を徹底し、啓発方法を検討します。 			
⑤環境物品等の使用促進	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入^{※1}、グリーン契約^{※2}に努める。 	○	
実施結果の評価と今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> 松阪市の事業で購入又は発注する単価契約物品や建設工事資材等については、グリーン購入法適合商品またはエコマーク認定商品を指定しています。 事業者に対しては「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」を通して、グリーン購入の紹介をし、環境にやさしい物品の使用や再生利用品の購入を推奨しました。 今後も、環境にやさしい製品を使用することに努めます。 			

	施策	主な取組	評価
			凡例 ◎十分に達成 ○概ね達成 △実施したが課題あり ×達成できていない
	⑥食品ロス・食品廃棄物等の排出抑制	・生ごみの水切りに関する施策、堆肥化等の補助事業の充実化を図る。	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に「3切り運動」（使い切り・食べきり・水切り）をホームページに掲載するとともに、水切りごみ袋 1,550 セットを作成し、食品廃棄物等の排出抑制の普及啓発に努めました。また、令和4年度には各清掃施設の資源物保管庫で水切りごみ袋各 300 セットの配布も行いました。 令和3年度の生ごみ堆肥化容器等補助金の申請は、93 件の申請でした。 今後も補助金利用の周知等に努め、生ごみ減量化の推進に向け、継続して取り組みます。 		
	⑦バイオマス資源の有効活用	・木くずや剪定枝のチップ化発電を推進する。	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 松阪ダンボールコンポストの会、生ごみリサイクル亀さんの家、飯南町生ごみ堆肥化研究グループの市民活動グループを通して、生ごみの堆肥化を行いました。また、出来た堆肥については家庭菜園で使用してもらったり、堆肥からできた野菜を地元の飲食店やイベント会場で販売を行いました。 今後も、木くずや剪定枝（バイオマス資源）のチップ化や堆肥化については、先進事例の調査研究と啓発方法を検討していく必要があります。 		
	⑧出前講座等への積極的な参加	・環境教育や出前講座等に参加し、3R に対する意識を高める。	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 清掃3施設（松阪市クリーンセンター、松阪市リサイクルセンター、松阪市一般廃棄物最終処分場）への見学者総数は、令和元年度（2,601 人）、令和2年度（1,922 人）、令和3年度（2,120 人）であり、講座参加者総数は、令和元年度（1,084 人）、令和2年度（266 人）、令和3年度（251 人）と減少することとなりました。 新型コロナの影響もあり、参加人数は減少することとなりましたが、今後もDVD等の電子媒体を利用するなど新しい啓発方法を取り入れ、積極的な参加を促します。 		
	⑨市民団体による集団回収活動の活性化	・地域の集団回収を利用する。	△
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 集団回収活動の申請団体数は令和元年度（312 団体）、令和2年度（297 団体）、令和3年度（290 団体）と減少傾向となっています。地域住民のコミュニケーションの希薄化等が一因と思われますが、団体数の減少に伴い年々集団回収量も減少する結果となりました。 新型コロナの影響でも活動規模が縮小していたと思われませんが、今後は活性化に向けた手法を検討していきます。 		
	⑩容器包装廃棄物の排出抑制	・買い物時にマイバッグを持参する。 ・簡易包装化されている商品を購入する。	○
	実施結果の評価と今後の展望		
	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に松阪市の廃棄物の分別方法や処理方法をイラスト等で分かりやすく解説した「ごみ・分別ガイドブック」を作成、全世帯に配布し、適正なごみの出し方の周知を図りました。 各清掃施設の資源物保管庫で、持ち込みの際に適正な分別案内を行いました。 今後も市民への適正な分別方法を周知し、マイバッグの持参や簡易包装されている商品の購入を促すことに努めます。 		
市民			

	施策	主な取組	評価
			凡例 ◎十分に達成 ○概ね達成 △実施したが課題あり ×達成できていない
	⑪リユースびん等の使用促進 及び使い捨て品の使用抑制	<ul style="list-style-type: none"> フリーマーケットなどを利用する。 再生品を積極的に使用する。 リユース容器を選択し、適切に返却する。 ものを無駄に消費しない生活スタイルを心がける。 	×
実施結果の評価と今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> 施設見学や講座等の3Rの啓発活動によりリユースを呼びかけました。 新型コロナの影響でイベント等が中止となり、リユースビンやリユース容器の利用促進には至りませんでした。 今後も、感染予防を徹底し、啓発方法を検討していきます。 			
	⑫食品ロス・食品廃棄物等の 排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ排出時に水切りを行う。 エコクッキングに努める。 量り売り、ばら売りを利用する。 生ごみの堆肥化を行う。 	○
実施結果の評価と今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に「ごみ・分別ガイドブック」を作成し、必要以上に買い過ぎない、外食や家でご飯を食べる時の「食べきり」等を記載し、食品ロスの周知を図りました。 食べ残しが出了場合は堆肥化を呼びかけ、「ごみ・分別ガイドブック」でも堆肥化容器等購入補助金の概要を記載し、広報紙での市民への周知を行いました。 堆肥化補助金の申請件数は、74件（令和元年度）、78件（令和2年度）、93件（令和3年度）と申請件数を伸ばす結果となりました。 今後は、新たな施策も検討し、食品ロス・食品廃棄物等排出抑制に継続して取り組みます。 			
事業者	⑬発生源における排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 減量化計画を作成する。 	△
	⑭容器包装廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 過剰な包装をしないよう努める。 レジ袋等を極力配布しない。 	
	⑮リユース容器の利用・回収の 促進	<ul style="list-style-type: none"> 地域のお祭りに出店する際には、リユース可能な容器を利用する。 	
	⑯使い捨て品の発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> 再使用、再生利用がしやすい商品の開発、販売を進める。 	
	⑰環境物品等の使用促進	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入に努める。 	
	⑱食品ロス・食品廃棄物等の排出 抑制	<ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物の排出抑制に努める。 	
実施結果の評価と今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> 松阪市クリーンセンターにて搬入物検査（展開検査）や持ち込み時の案内を継続して実施することで、不適切な廃棄物の搬入を防ぎ、収集運搬許可業者や排出者に対し適切な搬入方法について指導を行いました。 具体的な取り組みの実施については、「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」の配布による周知を実施しましたが、今後は事業者に対して、3R推進のアプローチの仕方を模索します。 			

※1 グリーン購入：製品やサービスを購入する際に、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。

※2 グリーン契約：製品やサービスを調達する際に、環境への負荷ができるだけ少なくなるよう工夫をした契約のこと。

3-2 基本理念を実現するための施策

当初計画で定めた3R 推進のための施策及び取り組みについて、これまでの実施状況や国際的な潮流として、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取り組みを考慮し、新たに以下に示す 12 施策として見直しました。松阪市では行政、市民、事業者がそれぞれ主体的に「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するための各施策に取り組む方針とします。

基本理念：ムダなく資源が循環しているまち	
行政・市民・事業者	施策の概要
	①環境教育、普及啓発の充実
	②ごみ減量アイデアの募集
	③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底
	④容器包装廃棄物の排出抑制
	⑤紙類の資源化の促進
	⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制
	⑦環境物品等の使用促進
	⑧食品廃棄物等の排出抑制
	⑨バイオマス資源の有効活用
	⑩市民団体等の集団回収活動の活性化
	⑪小型家電の資源化
⑫食品ロスへの取り組み強化	

図4-9 （施策の概要）

第1期見直し版では、「持続可能な開発目標（SDGs）」における 17 の目標のうち、主に目標 12 「つくる責任つかう責任」及び目標 14 「海の豊かさを守ろう」と関連して、新たに見直した 12 施策を実施するように努めます。



3R を促進し、ごみの量を減らすことで自然環境の保全につなげます。
行政、市民、事業者が主体的に 3R に取り組み、一人ひとりがリサイクルを意識することで実現を目指します。



プラスチック等のごみを削減することで、海洋汚染を減らすことにつなげます。
正しい分別方法や不法投棄防止等の周知、啓発に努め、一人ひとりが実行することで実現を目指します。

施策の概要の具体的な取り組み内容は、以下に示すとおりです。

【①環境教育、普及啓発の充実】

環境教育、普及啓発の充実

【継続】

- ・三重県の環境学習支援センター等と協働し、地域における環境教育、環境学習のリーダーを育成します。また、松阪市3Rサポーターの会員を通してごみ減量化に理解ある人材を育成することで出前講座等の啓発活動をともに発信していき、ごみ減量やリサイクルの促進に努めます。

啓発活動、出前講座の実施

【継続】

- ・省エネルギーやごみの問題など身近な環境問題に対して子どもたちが関心を持ち、自ら進んで環境にやさしい活動ができるよう、学校（園）における環境教育・環境学習の充実に努めます。また、出前講座を行うことにより、市民のごみ問題に対する意識向上に努めます。

外国人に対する啓発の実施

【継続】

- ・日本語が不慣れな外国人の方のために、外国語版のごみ分別パンフレット等を作成し、適正なごみの排出を案内します。

広報等での定期的なPR

【継続】

- ・既存媒体である広報「まつさか」などで定期的に情報提供を行い、ごみ減量や適性な排出を継続して呼びかけます。

電子媒体を利用した多角的な教育と普及啓発の推進

【新規】

- ・DVD や松阪市の行政チャンネルなどの電子媒体を活用して、松阪市のごみ処理施設の紹介を行うなど多角的な環境学習を推進します。

【②ごみ減量アイデアの募集】

ごみ減量に関するみんなのアイデアの募集

【新規】

- ・市民のみなさんから「ごみ減量方法」に関するアイデアを募集します。採用されたものは松阪市のホームページなどで掲載し、行政と市民が一体となってごみ減量に努めます。

【③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底】

事業系ごみへの啓発

【継続】

- ・事業者におけるごみ減量の進め方や事業者から排出されるごみの適正処理方法などをまとめた、「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」を更新し事業者に配布することで、排出されるごみの抑制や資源化を促します。

事業系ごみの搬入物検査（展開検査）の実施

【継続】

- ・松阪市クリーンセンターにて、事業系一般廃棄物収集運搬許可業者等が搬入するごみの搬入物検査（展開検査）を行い、適正な排出がされているか調査を行います。また不適正な排出がされている場合は、適正な排出方法を搬入物検査（展開検査）マニュアルに沿って指導します。

減量化計画の作成

【継続】

- ・事業者が排出する事業系一般廃棄物の減量、処理に関する計画書を作成し、計画を実行してもらうよう周知します。

【④容器包装廃棄物の排出抑制】

マイバッグの持参運動の推進

【継続】

- ・買い物時にはマイバッグを持参するなどの啓発を継続して行うことで、レジ袋の削減につながるよう努めます。

容器包装廃棄物の適正な分別方法の啓発

【継続】

- ・プラスチック容器・袋、白色トレイ、牛乳パック、ペットボトルなどの容器包装廃棄物の適正な分別を啓発することで資源化の促進に努めます。
- ・事業者に対して、容器包装廃棄物の分別排出が適正に行われるよう啓発し、容器包装の簡易化も「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」等の活用を図り啓発に努めます。

簡易包装商品や詰め替え用品購入の推進

【継続】

- ・買い物時にはできる限り簡易包装化されている商品を選び、詰め替え可能な商品を選択して購入することで、プラスチックごみの排出が抑制されることの周知に努めます。

【⑤紙類の資源化の促進】

紙類の資源化促進

【継続】

- ・雑紙回収袋を利用してもらうことで、燃えるごみに混じって排出されてしまいがちな紙類を資源として回収し、資源化の促進に努めます。
- ・市民、事業者にも紙類を分別し、資源として排出することを啓発していきます。これによって、事業者から排出される燃えるごみの量の減量化につなげます。

【⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制】

リユース容器の利用を促進

【継続】

- ・松阪市主催のイベントでリユース可能な容器の利用を勧めることで、使い捨て品の廃棄物をできるだけ減らし、ごみ減量につなげることができそうですが、新型コロナウイルスの影響で積極的に取り組みを行うことが困難であるため、リユース容器の利用や回収は控えています。
- ・平時ではマイボトルを持ち歩くなど、使い捨て容器の使用を控えるように促進します。

使い捨て品の使用抑制

【継続】

- ・再使用できる製品を使用したり、まだ使用できる製品を必要としている人に譲るなど、不要となったら捨てるのではなく、リユース（再使用）を心がける生活スタイルの見直しを啓発することでごみ減量に努めます。

【⑦環境物品等の使用促進】

グリーン購入、グリーン契約の推進

【継続】

- ・松阪市が製品を購入する際には、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入するなどグリーン購入、グリーン契約を推進します。また事業者に対してもできるだけグリーン購入を行うよう啓発し、環境にやさしい製品を使用するように促します。

【⑧食品廃棄物等の排出抑制】

3010 運動（食べきり運動）の推進

【新規】

- ・会食や宴会時に最初の 30 分、終わりの 10 分は、お料理をしっかり食べる時間をつくる「3010 運動」を啓発活動にて呼びかけ、食べ残しを防ぎ食品廃棄物がなくなるように努めます。

生ごみの水切りモニターの募集

【新規】

- ・生ごみに含まれる水分は約 80%と言われており、生ごみ中の水分量を減らすために、簡単な水切りの方法をパンフレットや講座をとおして PR します。また、水切り運動に取り組む市民及び市民団体を増やすため、水切り用具のモニター制度の導入を検討します。

生ごみの堆肥化の推進

【継続】

- ・市民活動グループと協力し、行政が出前講座を行うことで生ごみの堆肥化を推進し、出来あがった堆肥の家庭菜園への利用や飲食店への販売に行政・市民・事業者が一体となってつなげていきます。
- ・家庭から排出される生ごみを堆肥化するために、生ごみ堆肥化容器及び家庭用生ごみ処理機の購入補助金(補助率 1/2、上限 30,000 円)事業を継続し、市民への堆肥化を勧めます。

【⑨バイオマス資源の有効活用】

木くずや剪定枝のチップ化や堆肥化の検討

【継続】

- ・バイオマス資源の有効活用は環境への負荷が少なく、廃棄物を資源として利用する有効活用にもつながります。松阪市の処理施設の受け入れ基準に該当しない木材などは、適正な処理方法や処理先を案内し、チップ化を促します。また、近年のごみ組成の構成において、草や剪定枝の組成率が上昇傾向にあり、これらを堆肥化することもバイオマス資源の有効活用につながることから、積極的な堆肥化への取り組みを検討します。

【⑩市民団体による集団回収活動の活性化】

集団回収制度の利用

【継続】

- ・松阪市資源物集団回収活動補助金制度を継続していくことで、市民から集められる資源物をできるだけリサイクルするよう努めます。また集団回収活動を通して地域のコミュニケーションのきっかけを作り、市民のリサイクルに対する意識向上を目指します。

褒賞制度の検討

【継続】

- ・集団回収量の多い団体や、長年集団回収活動を継続している団体に対して、広報紙での紹介や表彰等を検討することで、市民の集団回収活動に対する関心を高め、意識向上につなげます。

【⑪小型家電の資源化】

小型家電の回収（緑の回収ボックス・業者による宅配便回収）

【継続】

- ・小型家電（携帯電話、デジタルカメラなど）を各清掃施設や各地域振興局等（嬉野、三雲、飯南、飯高）に設置の「緑の回収ボックス」でパソコン及び対象となる小型家電を回収することで、資源の有効活用につなげます。
- ・不用になったパソコンの処分については、自宅に※1 宅配便回収に来てもらえる制度を積極的に活用してもらうことで、パソコンの資源化を推進します。

※1 リネットジャパンリサイクル株式会社（☎0570-085-800）

利用者はインターネットから申し込みを行い、対象となる小型家電を箱に入れてもらうだけで宅配業者が希望日時に回収に伺う仕組みとなっています。

対象品目はQRコードにて確認できます。



【⑫食品ロスへの取り組み強化】**食品ロス削減に関する啓発活動****【新規】**

- ・ 松阪市の市民意識アンケートを活用し、食品ロスに関する市民の意識を探ることで、今後の取り組み内容を検討します。
- ・ 食品ロスに関するポスターを募集したり、リーフレット等を作成して松阪市主催のイベント等で配布するなど、多方面からの啓発を行うことに努めます。
- ・ 食品関連の事業者と連携し、「てまえどり」(店頭に並ぶ商品を手前からとるようにすること)等を店内でPRしていくことで、お店から売れ残って排出される食品廃棄物の減量につなげることを検討します。
- ・ 毎月19日(食育の日)にちなみ、この日を「冷蔵庫クリーンアップ日」と定め、各ご家庭の冷蔵庫の中身をチェックして、期限切れや食べ残し食材の廃棄の減量化を推進します。
- ・ 食品ロスを身近な問題ととらえた子ども向け啓発教材を検討し、幼少期からごみ減量の大切さが伝わるような啓発講座を行います。

フードバンク等との協力**【新規】**

- ・ 廃棄される食品削減のために、フードバンクや事業者と協力体制を作ります。

災害用備蓄食料の有効活用**【新規】**

- ・ 関係課と連携して賞味期限切れの近い災害用備蓄食料をイベント時に配布したり、料理レシピ等をホームページに掲載するなど、さまざまな有効活用の方法を検討し、食品ロスに努めます。

第4節 分別して収集するものとしたごみの種類及び分別の区分

松阪市では、平成27(2015)年度に市内全域のごみ処理方式の一元化を行い、収集方式や分別区分が統一されました。また、収集作業中や施設での処理過程における安全を確保するため、発火の危険があるリチウムイオン電池を含む充電式小型家電の分別収集を令和3(2021)年度から開始しました。

ごみ処理量や処理体系等を勘案しながら、ごみの再生利用の促進、住民協力の得やすさを考慮して、効率的でかつ収集・運搬と整合のとれた分別区分及びその種類、並びに排出方法について検討を続けていきます。

表4-4 (分別して収集するものとしたごみの分別区分と主な品目)

分別区分		主な品目	
収集・回収方法	ごみの種類		
収集 ・ 施設持ち込み	燃えるごみ	生ごみ、汚れた紙、燃えるごみの袋に入る小型のプラマークの無いプラスチック（金属が入っていないプラスチック製おもちゃ、CD、DVD、BD、カセット、ビデオテープ、歯ブラシ、プラスチック製品など）、ゴム類、かばん（金属を取ったもの）、皮製品、紙おむつ（汚物を取ったもの）、布団、じゅうたん（1m程度に折りたたんだもの）、剪定枝（長さ1m・太さ5cm未満のもの）落ち葉、草	
		燃えないごみ	小型の金属類（なべ、やかん、フライパン、針金ハンガー、スチール缶など）、陶磁器類、ガラス類、刃物類、家電製品（掃除機、扇風機、炊飯器、オーブン、電気ポットなど充電式でないもの）、自転車（電動アシスト自転車はバッテリーを外したもの）、大型のプラスチック製品（燃えるごみの袋に入らず1m未満のもの）
	危険ごみ	スプレー缶	スプレー缶、カセットボンベ（ガス缶）
		ライター	使い捨てガスライター
		乾電池	アルカリ電池、マンガン電池、リチウム電池（コイン電池）などの一次電池
		蛍光管	蛍光管、水銀体温計、水銀温度計、水銀血圧計
		充電式小型家電	充電して使用する小型家電（電動歯ブラシ、電気カミソリ、電子タバコ、充電式掃除機、電動工具、コードレス電話機、モバイルバッテリーなど）
	資源物 ※1	空ビン	白色ビン、茶色ビン、その他の色のビン（飲食用・化粧用ビンに限る）
		プラスチック容器・袋	ポリ袋、ラップ類、カップ類、トレー・パック類、ボトル類、チューブ類、発泡スチロール類などのプラマークのあるもの
		ペットボトル	PET1の材質表示マークのあるペットボトル
		白色トレー	発泡スチロール製の白色トレーに限る
		飲食用アルミ缶	アルミのマークのあるもの、鍋焼きうどん等のアルミ製容器
		新聞紙	新聞紙、広告、チラシ
		雑誌・雑紙	リサイクルできるものだけに限る 雑誌、紙袋、包装紙、はがき、カレンダー、厚紙商品（菓子箱等の空箱）、トイレットペーパーの芯
		ダンボール	野菜、果物、家電製品等のダンボール箱
	牛乳パック	500ml以上の牛乳、果汁、コーヒー牛乳などの紙製容器	
	古着類	古着類、スーツ、セーター類、毛織物、毛布（布団は燃えるごみ）	

分別区分		主な品目
収集・回収方法	ごみの種類	
ボックス回収 ※2	小型家電	ノートパソコン、携帯電話、デジタルカメラ、デジタルオーディオプレーヤー、電子辞書、電子手帳、小型ゲーム機、USB メモリー、個人情報記録する機能がある情報家電製品
施設持ち込み	燃えるごみ (一時多量)	引越し、片付け等で、家庭から多量に出る一時的な「燃えるごみ」 塵芥収集車で回収しない大きさの燃える粗大ごみ（1m 以上 2m 以内） 木製大型家具類（ガラス、鏡、金属部分は取り除く）、庭木の剪定などで大量に出た草木、資源物にならない燃えるごみ
	燃えないごみ (一時多量)	引越し、片付け等で、家庭から多量に出る一時的な「燃えないごみ」 塵芥収集車で回収しない大きさの燃えない粗大ごみ（1m 以上 2m 以内）、金属類、金属製大型家具、スプリング入りベッド、ソファ、マッサージ機、健康器具
	埋立物	家庭から出る土砂、ブロック、金属部分は取り除いたコンクリートくず等（業者による解体に伴う廃棄物は産業廃棄物なので処理できない）
	小型家電	デスクトップパソコン、パソコンモニター（テレビチューナー付きを除く）
指定引取り場所持ち込み ・ 施設持ち込み	家電リサイクル製品	電気冷蔵庫・電気冷凍庫、電気洗濯機・衣類乾燥機、エアコン、テレビ

- ※1 資源物とは、処理料金を払って処理するものではなく、有償又は無償で引き取ってもらえるもの
- ※2 ボックス回収は市内の松阪市の関係施設8か所（松阪市クリーンセンター、松阪市リサイクルセンター、三雲リサイクルセンター、松阪市役所、嬉野地域振興局、三雲地域振興局、飯南地域振興局、飯高地域振興局）に設置しています。
- ※3 上記は、家庭系一般廃棄物を対象とします。事業系一般廃棄物に該当するものは、清掃施設へ持ち込みとなります（産業廃棄物は受け取り出来ません）。

第5節 ごみの適正な処理等に関する基本的事項

5-1 収集・運搬計画

1) 収集・運搬方法

収集・運搬計画は、表4-5に示すとおりです。

家庭から排出されるごみを迅速、かつ衛生的に処理を行うため、収集方式や収集頻度の適正化の検討を行い、住民サービスの向上に努めます。このほか、松阪市の多くの集積所が自治会の協力による維持管理となっており、ごみ集積所の整備について引き続き必要な支援を行います。

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち産業廃棄物以外は、事業系一般廃棄物として処理されます。一般廃棄物の収集運搬許可業者が令和元(2019)年12月より、一時多量の家庭系一般廃棄物収集運搬許可業者（以下「家庭系収集運搬許可業者」という。）と事業系一般廃棄物収集運搬許可業者（以下「事業系収集運搬許可業者」という。）に分かれることになりました。事業系一般廃棄物の収集・運搬方法については、事業系収集運搬許可業者や事業者本人に持ち込んでもらい、適正な排出と処理が行われるよう啓発や検討に努めていきます。併せて、引っ越しなどに伴い発生する一時多量ごみは、本人または同一世帯の家族が持ち込むか、松阪市が許可する家庭系収集運搬許可業者へ依頼することとなります。

2) 一般廃棄物処理業の許可等

現在、松阪市における収集運搬の許可業者は、事業系収集運搬許可業者が34社、家庭系収集運搬許可業者が57社となっています（令和4(2022)年6月1日現在）。

収集・運搬の許可については、今後の社会経済状況の変動やごみ排出量の推移を見極めたうえで、必要に応じて検討を加えることとします。新規における許可にあっては、ごみ排出量の推計に対し、現在許可している業者数及びごみ処理能力を超えた場合に行うものとしません。ただし、市が許可している一般廃棄物処分業者が当該許可にかかる廃棄物を収集運搬する場合は、協議の上許可をすることができることとします。

表4-5 (収集・運搬計画)

分別区分		容器	収集方式	収集頻度	収集主体	
収集 ごみ	燃えるごみ	【指定】指定袋	ステーション	週2回	直営及び委託	
	燃えないごみ	【自由】透明または半透明袋	ステーション	隔週または 月2回	直営及び委託	
	危険ごみ	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	隔週または 月1~2回	直営及び委託	
	蛍光管	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託	
	充電式小型家電	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託	
	資源 物	空ビン	【ピンカゴ】3色	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		プラスチック 容器・袋	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	週1回	直営及び委託
		ペットボトル	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		白色トレー	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		飲食用 アルミ缶	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		新聞紙	結束	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		雑誌・雑紙	結束	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		ダンボール	結束	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
		牛乳パック	結束	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託
古着類	【自由】透明または半透明袋	ステーション 拠点回収	月1回	直営及び委託		
小型家電	—	拠点回収	随時	持込		
家電リサイクル製品	—	—	随時	持込		
事業系ごみ	—	事業系収集運搬許可業者 事業者による直接持込	随時	許可業者 持込		

3) 特別管理一般廃棄物、処理困難物の対処方針

特別管理一般廃棄物は表4-6に示すとおりです。また、処理困難物は表4-7に示すとおりです。特別管理一般廃棄物及び処理困難物の対処方針は、市民に対して回収及び処理業者の情報提供に努めます。

表4-6 （特別管理一般廃棄物）

区分	概要
PCB 使用部品	廃エアコン・廃テレビ・廃電子レンジに含まれる PCB を使用する部品
廃水銀	水銀使用製品が一般廃棄物となったものから回収した廃水銀
ばいじん	ごみ処理施設の集じん施設で生じたばいじん
ばいじん、燃え殻、汚泥	ダイオキシン特措法の特定施設である廃棄物焼却炉から生じたもので、ダイオキシン類を 3ng/g を超えて含有するもの
感染性一般廃棄物	医療機関等から排出される一般廃棄物であって、感染性病原体が含まれ若しくは付着しているおそれのあるもの

表4-7 （処理困難物）

処理困難物
薬品、農薬、ガスボンベ（LP ガス）、油脂類（シンナー、灯油、ガソリン等）、バッテリー、可燃性粉末（アルミニウム粉末、プラスチック粉末など）、火薬等爆発物、自動車（部品含む）、オートバイ、タイヤ（自動車、自動二輪車用）、業務用の機器・器具、自動販売機、耐火金庫、農業用機械・器具、（ピアノ線のある）ピアノ、直径 12cm を超える太い木（枕木、大型木材加工品など）、消火器、医療系廃棄物（注射器の針等）、石膏ボード、グラスウール

表4-8 （家庭系医療廃棄物の正しい分別方法）

分別方法	品目	備考
家庭ごみとして収集（燃えるごみ）	バック類（ストーマ装具、点滴バック、畜尿バック） 布類（ガーゼ、脱脂綿類） カテーテル・チューブ類（点滴ライン、輸液ライン、気管、口腔内吸引チューブ）	○必ず針を取る ○中身を空にする
家庭ごみとして収集（燃えないごみ）	ビン類（薬用・錠剤ビン、ガラス製点滴ボトル）	○中身を空にして、透明、半透明袋に入れて出す
医療機関へ返却※	注射針、注射器（注射針、注射筒、インスリン用注射針、ペン型インスリン注射針、点滴針、穿刺針（血糖値測定用））	

※ 処方した医療機関・調剤薬局・訪問看護ステーション等へ戻す、往診医や訪問看護師に持ち帰りを依頼する、等

※ 注射針・注射器が地域の集積所に出された場合

①集積所に出された注射針等は回収しません。警告シールを張って置いていきます。

②ごみの集積所で注射針等を見かけた場合は、絶対に触らずに清掃事業課に連絡してください。

4) 収集・運搬量

中間目標年度及び最終目標年度における収集・運搬量は表4-9に示すとおりです。今後も収集・運搬量の変動に伴い、適切な収集・運搬体制を整えていく必要があります。

表4-9 (将来の収集・運搬量(施策推進後の推計値))

	実績値	推計値	
	令和3年度	令和8年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
燃えるごみ(t)	31,949	25,904	23,300
燃えないごみ(t)	2,223	1,895	1,576
充電式小型家電(t)	2	2	2
資源物(t)	1,893	2,453	2,477
蛍光管(t)	10	10	9
危険ごみ(t)	66	64	62
合計(t)	36,143	30,327	27,426

※小数点以下を四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

5-2 中間処理計画

1) 中間処理の方針

中間処理の役割は、松阪市で発生するごみを迅速、かつ衛生的に処理し、環境への負荷を極力軽減化するため、ごみの減量化、減容化、安定化及び資源化を図ることにあります。また、積極的なエネルギー回収を推進することにより、循環型社会の形成と地球温暖化防止への貢献に取り組む必要があります。さらに、東日本大震災の経験を踏まえ、今後の東海地方での災害発生に備え、災害廃棄物処理への対応が可能な施設についても検討を進め、発災時に廃棄物処理システムが脆弱化しないよう、適切なタイミングで施設の更新・改良を行っていく必要があります。

このことを踏まえて、中間処理計画の方向性は以下のとおりとします。

- ① 衛生処理のための適切な施設整備
- ② 循環型社会形成を目指した低環境負荷・エネルギー回収型施設の整備
- ③ 廃棄物処理システムの強靱性を確保するための施設整備

2) 松阪市クリーンセンター

松阪市クリーンセンターでは、家庭生活から発生するごみのうち、「燃えるごみ」、「燃えないごみ」及び事業活動に伴い発生する一般廃棄物の焼却・破碎処理を行っています。

松阪市クリーンセンターは、平成27(2015)年度に供用を開始しました。焼却施設の運転・維持管理業務は、令和16(2034)年度まで20年間にわたる長期継続契約を締結し、専門的な技術と経験を有する事業者へ運転・維持管理業務を委ね、施設の適切な維持管理と処理経費削減に努めています。

将来の焼却処理量は、表4-10に示すとおりです。生ごみの水切りや、ごみの適正な受け入れ等を推進し、ごみ減量化を図ることで焼却量は減少し、処理経費の削減にもつながる見込みです。

表4-10 (将来の処理量(施策推進後の推計値))

		実績値	推計値	
		令和3年度	令和8年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
可燃	直接焼却量(t)	48,693	39,499	35,531
	破碎可燃量(t)	679	576	479
不燃	破碎選別量(t)	2,777	2,357	1,961
合計(t)		52,149	42,433	37,972

※小数点以下を四捨五入しているため合計値が合わない場合があります。

3) 松阪市リサイクルセンター

松阪市リサイクルセンターは、資源物の処理施設であり、ペットボトル及びプラスチック容器・袋の圧縮梱包、白色トレイ及び空ビンの手選別、飲食用アルミ缶及びスプレー缶の破碎選別等の処理を行っています。さらに、令和3(2021)年度から充電式小型家電の収集が始まり、手選別処理を行っています。

松阪市リサイクルセンターの多くの施設は老朽化が進んでいますが、施設の安定稼働のため適正な維持管理に向けた方策等を検討します。

令和4(2022)年4月にはプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が施行されましたが、施設の機能設備や資機材の確保等の各方面に課題があるため、近隣市町の動向などを見ながら検討します。

将来の処理量は、表4-11に示すとおりです。分別の徹底等により資源ごみ量の増加を目指します。

表4-11 (将来の処理量(施策推進後の推計値))

		実績値	推計値	
		令和3年度	令和9年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
圧縮梱包	ペットボトル(t)	185	177	172
	プラスチック容器・袋(t)	613	588	569
手選別	白色トレイ(t)	8	8	7
	空ビン(t)	702	568	530
	充電式小型家電(t)	3	3	3
破碎処理	飲食用アルミ缶(t)	37	35	34
	スプレー缶(t)	48	46	45
一時保管	小型家電(t)	19	30	38
	蛍光管(t)	12	12	11
	乾電池(t)	18	17	17
	新聞紙(t)	176	550	532
	雑誌・雑紙(t)	248	771	746
	ダンボール(t)	206	642	621
	牛乳パック(t)	6	6	5
古着類(t)	180	172	167	
合計(t)		2,461	3,626	3,497

※小数点以下を四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

5-3 最終処分計画

1) 焼却灰の資源化

現在、松阪市クリーンセンターから発生した焼却灰は、現最終処分場で埋立を行っています。焼却灰の資源化については、三重県内でセメントの原料として再生利用している市町や、焼成による土木資材利用や溶融後に非鉄金属を回収する山元還元などがあります。

最終処分場については、全国的に自らの自治体内で確保することが難しくなっているなかで、松阪市の現最終処分場の残余容量が満杯に近付いています。このことから松阪市では新最終処分場の施設整備に取り組むとともに、施設の長期的な利用に資するため、焼却灰の資源化を検討し、資源化率の向上に努めていきます。

2) 最終処分計画

現最終処分場は、令和8(2026)年度に埋立が終了する見込みです。令和9(2027)年度から、新最終処分場の供用開始を目指しています。

また、焼却灰の資源化を実現することで最終処分量を減らし、新最終処分場の長期的な活用に寄与するとともに資源化率の向上にもつなげていきます。

なお、現最終処分場は松阪市で管理、運営を行っていますが、新最終処分場の管理、運営については効率的な管理、運営の在り方を検討していくこととし、施設の適切な維持管理と処理経費削減を目指します。

表4-12 (将来の最終処分量(施策推進後の推計値))

	令和3年度	令和9年度 (中間目標年度)	令和13年度 (最終目標年度)
焼却灰(t)	5,793	0	0
破碎埋立物(t)	1,043	857	737
直接埋立物(t)	1,931	343	331
合計(t)	8,767	1,199	1,068

※小数点以下を四捨五入しているため、合計値が合わない場合があります。

第6節 ごみの処理施設の整備に関する基本事項

6-1 現状のごみの処理施設

ごみの処理施設は、表4-13に示すとおりです。松阪市クリーンセンターは稼働開始から7年が経過し、令和元(2019)年には敷地内に市民の資源物の搬入をしやすくし資源化率を向上させるため、資源物保管庫を整備しました。松阪市クリーンセンター及び松阪市リサイクルセンターについては、施設の処理能力を維持していくため、基幹設備の更新による長寿命化などを検討していく必要があります。現最終処分場については既に残余量に限りがあるため、新最終処分場の施設整備に向けて進めています。

表4-13 (現状のごみの処理施設)

施設	処理区分	処理対象	稼働開始
松阪市クリーンセンター	焼却処理	燃えるごみ	平成27年4月
	破碎処理	燃えないごみ	
松阪市リサイクルセンター	プラスチック圧縮梱包	プラスチック容器・袋	平成24年2月
	空ビン手選別	空ビン	平成10年8月
	ペットボトル圧縮梱包	ペットボトル	平成10年3月
	飲食用アルミ缶破碎選別	飲食用アルミ缶	平成12年10月
松阪市一般廃棄物最終処分場	埋立処分	埋立物 処理残渣	平成11年3月

6-2 将来のごみの処理施設

1) ごみの処理施設の整備

一般廃棄物処理施設は、日常の適正な運転と定期的な点検、整備並びに基幹設備の更新を的確に実施することにより30年以上にわたり稼働することが可能です。新規でごみの処理施設を建設する際には数十億円を超える費用を要することが見込まれるため、広域のかつ計画的な整備を行うことを求められています。このことを踏まえ、ごみの処理施設は新規の施設整備だけでなく、現施設の長寿命化も含めて検討する必要があります。

松阪市クリーンセンターは、専門的な技術と経験を有する事業者へ運転・維持管理業務を委ねています。この業務には、点検だけでなく、施設の補修や基幹設備の更新を含んでおり、施設の長寿命化に取り組んでいます。なお、運転・維持管理業務の長期継続契約期間は、令和16(2034)年度で終了するため、それ以降の運用のあり方を検討する必要があります。

一方、松阪市リサイクルセンターは、各施設の老朽化が進んでいるため、施設毎の長寿命化の検討が必要となります。

また、現最終処分場は令和8(2026)年度で埋立が満杯になる見込みです。このことを踏まえ、新最終処分場の整備に取り組み令和9(2027)年度の供用開始を目指します。

以上より、ごみの処理施設の整備計画は、表4-14～表4-16に示すとおりです。

表4-14 （松阪市クリーンセンター整備計画）

	平成 29 年度 (計画初年度)	～	令和 8 年度 (中間目標年度)	～	令和 13 年度 (最終目標年度)
稼働	→				
長寿命化	施設の適切な運転・維持管理 →				
施設整備	焼却灰の資源化実施に伴う整備の検討 → リチウムイオン電池の適正処理に伴う整備の検討 →				

表4-15 （松阪市リサイクルセンター整備計画）

	平成 29 年度 (計画初年度)	～	令和 8 年度 (中間目標年度)	～	令和 13 年度 (最終目標年度)
稼働	→				
長寿命化	基幹改良工事の検討 →				

表4-16 （松阪市一般廃棄物最終処分場整備計画）

	平成 29 年度 (計画初年度)	～	令和 8 年度 (中間目標年度)	令和 9 年度 (中間目標年度)	～	令和 13 年度 (最終目標年度)
稼働	埋立処分完了予定 →					
施設整備	施設整備 → 新最終処分場 供用開始 →					

2) ごみの処理施設の処理能力・処理方式

将来のごみの処理施設の処理能力及び処理方式は、施設整備の検討時におけるごみ発生量やごみ処理技術の動向を踏まえて検討することとします。また、将来新たなごみの処理施設を建設するには多大なコストが発生することが予想されます。ごみ発生量の抑制、必要施設規模の縮小、及び施設整備コストの縮減に向けて、県内外の各市町の事例等も参考にしながら、ごみの受け入れ手数料等の改定も模索していきます。

第7節 その他ごみ処理に関し必要な事項

7-1 災害廃棄物対策

1) 災害廃棄物の発生量の推計

① 災害廃棄物の発生量の推計

災害により生じた廃棄物（以下「災害廃棄物」という。）に対応するため、「松阪市地域防災計画」（令和3(2021)年度修正）と「松阪市災害廃棄物処理計画」（平成29(2017)年5月）を策定しています。また、市民から排出される廃棄物（家庭ごみ、粗大ごみ、避難所からは発生するごみを含む生活ごみ）を災害発生時から適切に処理する必要があります。

想定されている過去最大クラスの南海トラフ地震では災害廃棄物が約230万トン発生すると推計されています（表4-17）。松阪市の一般廃棄物の年間処理量が約6万トンであることから、平時の処理能力では災害廃棄物を処理することは困難になります。

表4-17 （災害廃棄物の発生量の推計（過去最大クラスの南海トラフ地震））

区分・品目等	発生量（重量） 単位：t	発生量（体積） 単位：m ³
柱材・角材	6,000	10,909
コンクリートがら	55,000	37,162
金属くず	6,000	5,310
土材系	1,203,000	823,973
混合廃棄物	1,003,000	1,003,000
合計	2,273,000	1,880,354

出典：松阪市災害廃棄物処理計画

2) 災害時のごみ処理対応

① 路上の廃棄物の除去

人命救助や輸送のための道路の確保に伴うがれき等の処理については、消防、防災、道路管理、復旧・復興等に携わる各関係機関と連携して進めます。路上から除去した廃棄物は、応急的な措置として仮置場を設定し、分別・搬入します。

② 生活ごみ等の処理

避難所から発生するごみを含む生活ごみは、やむを得ない場合を除き、松阪市クリーンセンター及び松阪市リサイクルセンターで処理を行うこととし、仮置場に搬入しません。

避難所から発生するごみを含む生活ごみは、発災後3日から4日後に収集と処理の開始を目指します。

③ 災害廃棄物の処理

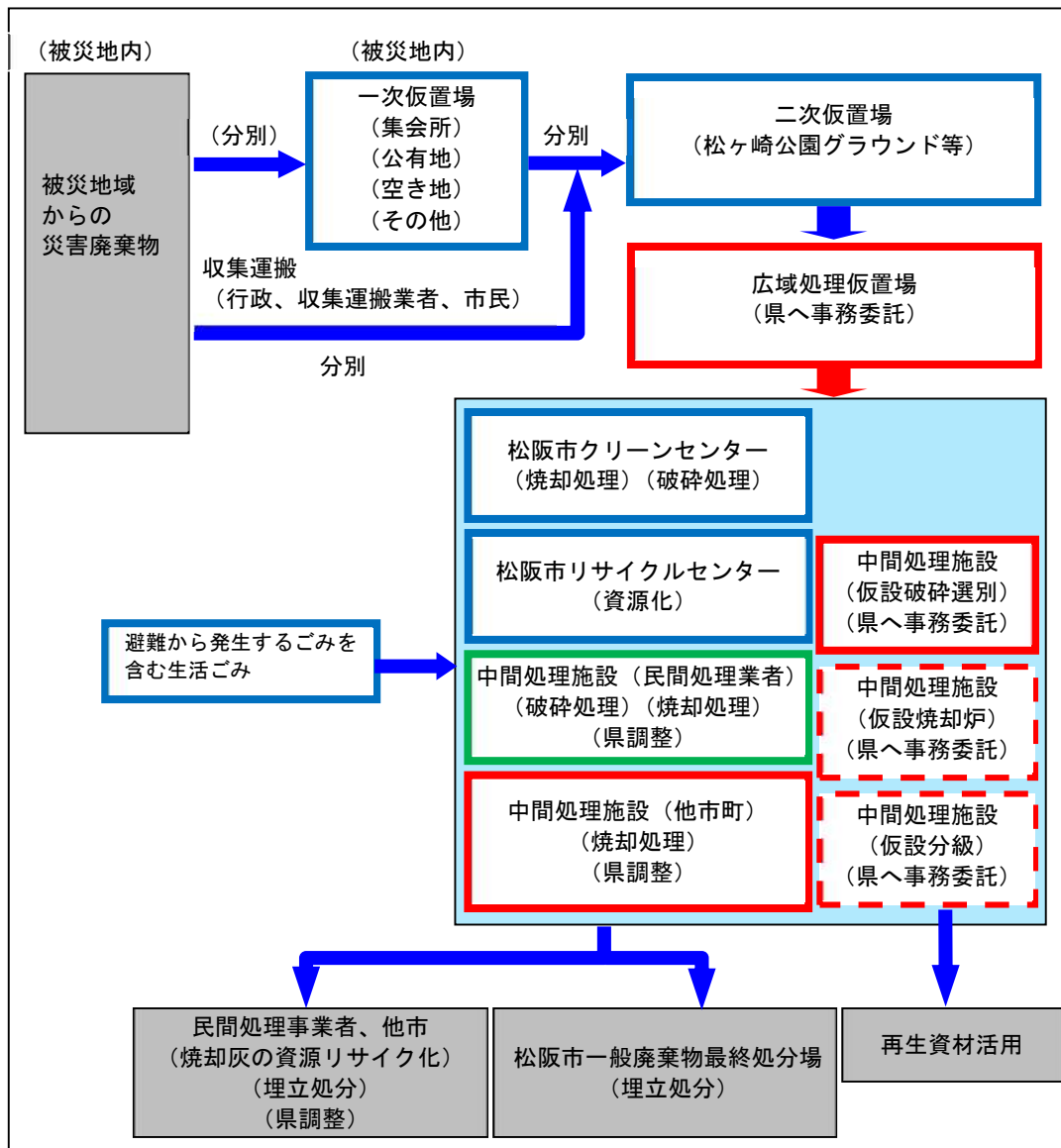
家屋の損壊数等の被害状況や浸水域の面積等から災害廃棄物の発生量を推計し、仮置場の確保を行います。また、確保した仮置場の所在地、搬入ルートを知り、周知・広報します。

災害廃棄物の中には、松阪市で処理することができない処理困難物も含まれることから、県等と連携し、ごみ処理事業者等の協力を得て適切な処理方法を検討します。

災害廃棄物の発生量が膨大である場合は、施設の被災状況や廃棄物量を勘案し、応援協定に基づき、県に支援を要請し広域処理を行います。

④ 災害廃棄物処理フロー

想定されている過去最大クラスの南海トラフ地震における災害廃棄物処理フロー図は図4-10のとおりです。



「仮設分級」：仮設の機械設備等を用い、土砂・がれき等を、そのサイズごとに分けること。

出典：松阪市災害廃棄物処理計画（一部修正）

図4-10 （災害廃棄物処理フロー図）

7-2 ポイ捨てごみ等、不法投棄対策

松阪市環境基本計画（平成 30(2018)年 2 月）では、「めざすべき環境像」を「うるおいある豊かな環境に つつまれるまち まつさか」と示しています。この環境像を目指すために、以下の 2 点について積極的に取り組みます。

1) 街の美化運動

生活環境を清潔に保つためには、河川、道路等にポイ捨てされているごみ等の削減を図ることが求められています。ポイ捨てごみ等の対策は、行政と市民及び事業活動を営む者が一体となり、街の美化運動等の活動を行います。

2) 不法投棄への対策

行政が不法投棄の情報を把握した場合は、土地の所有者や道路管理者等と処理方法や対策について協議し、再発防止に努めています。

さらに、不法投棄の防止のためのパトロールを行っています。

今後も土地の所有者や道路管理者等と協力して、不法投棄の未然防止に取り組みます。

また、平成 27(2015)年度に制定した「松阪地域定住自立圏共生ビジョン」の取り組みの一環として、多気町、明和町、大台町、国、県とも連携し、情報交換や広報活動を行うことで広域的な取り組みを継続していきます。

これらの取り組みを通じて市民及び事業活動を営む者に対する不法投棄への意識の向上を図り、不法投棄の防止に努めていきます。

7-3 情報管理計画

ごみの発生量、ごみ処理経費等のごみ処理に関するデータを収集し、管理していきます。

また、収集したデータは市民が確認できるようホームページ等を通して適宜、公開していきます。

資料編

資料1 用語集

【あ行】

一般廃棄物

一般廃棄物は、産業廃棄物以外のすべての廃棄物で、日常生活に伴って生じる家庭ごみ、粗大ごみ等のほか、事業活動に伴って排出された紙くず、木くず等の廃棄物のうち産業廃棄物に含まれないものです。

一般廃棄物処理基本計画

市町村が、廃棄物処理法第6条第1項にもとづき、当該市町村の区域内の一般廃棄物処理における長期的な基本方針を定めた計画です。

ごみ処理基本計画と生活排水処理計画から構成されますが、本計画はごみに関する内容を定めているため、「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」としています。

【か行】

家庭系ごみ

家庭から排出された資源物を含むすべてのごみのことをいい、集団回収量は除くものとしています。

仮置場

災害発生時に、住民が直接持込みした災害廃棄物を分別、保管、処理するために一時的に集積する場所です。被災した家財を含む災害廃棄物の速やかな撤去、処理・処分を行うために設置します。

環境基本計画

国や地方自治体の環境保全に関する長期的・基本的な取組を示す計画です。松阪市の環境基本計画は松阪市環境基本条例第9条に基づくものであり、平成30(2018)年2月に第二次松阪市環境基本計画を策定しています。

ごみ組成

ごみの中に含まれる品目別・種類別の重量又は容量（体積、容積）の割合です。松阪市では毎月燃えるごみの重量割合のデータを計測しています。

【さ行】

災害廃棄物

災害廃棄物対策指針にもとづき、地震や津波等の災害によって発生するもの（木くず、コンクリートがら、金属くず、津波堆積物等）、被災者や避難者の生活に伴い発生するもの（生活ごみ、避難所ごみ等）をいいます。

最終処分

廃棄物は、資源化又は再使用される場合を除き、最終的には埋め立てられています。これを最終処分といいます。

最終処分場

最終処分を行う場所であり、埋立物の貯留機能の他、周辺環境に影響を与えないよう、遮水機能や浸出水処理機能により構成されています。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油等法律で定められた 20 種類の廃棄物をいいます。

集団回収

住民自治協議会、自治会、PTA、子ども会等で古紙、缶、びん等の資源ごみを日時や場所を決めて回収し、資源回収業者に引き取ってもらう回収方法をいいます。

事業系ごみ

事業者から排出された一般廃棄物や不法投棄等で発生したごみなど家庭以外から排出されたごみのことをいいます。

資源化

ごみとして排出されるものの中から、利用できるものを分別収集や中間処理施設等で選別して回収しリサイクルすることをいいます。

資源化量

排出されたごみのうち、資源として再生、利用されたものの量、新聞紙や雑誌・雑紙等資源物として収集されたもののほかに、燃えないごみや粗大ごみを破碎処理及び選別処理することで発生した鉄やアルミ等の再生利用されるものの量の合計をいいます。

循環型社会

①廃棄物等の発生を抑制する。②発生したごみはできるだけ循環的な利用を行う。③循環的な利用が行われない場合は適正な処分を行う。この3つを行うことで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会をいいます。

焼却残渣

焼却処理された後に残ったもの。最終処分場に埋立処分されるほか、セメント化・スラグ化してリサイクルすることができます。

焼却処理量

焼却施設で焼却処理される量です。収集又は直接搬入により搬入される燃えるごみ、破碎処理した後の粗大可燃ごみ、燃えないごみを破碎した後選別される破碎可燃の合計値となります。

食品ロス

売れ残りや食べ残り、野菜の皮の過剰除去など、食べられるのに捨てられてしまう食品のことをいいます。

3010（サンマルイチマル）運動

食べ残しが多くなりやすい宴会時において、最初の30分、最後の10分は席に座って食事を楽しみ、食べ残しを減らす運動をいいます。

3R（スリーアール）

循環型社会形成推進基本法に示されている廃棄物・リサイクル対策の優先順位で、第一に廃棄物の発生抑制（Reduce：リデュース）、第二に使用済み製品、部品の再使用（Reuse：リユース）、第三に回収されたものを原材料として利用する（Recycle：リサイクル）の頭文字を取って作った造語とされています。

ステーション回収

あらかじめ決められた場所（ごみステーション）にごみや資源物を排出し、市が収集する方式のことをいいます。

総ごみ量

家庭あるいは事業者が日常活動や事業活動の中で排出するごみの総量のこと、家庭系ごみ、事業系ごみ、集団回収量の合計量のことをいいます。

【た行】

厨芥(ちゅうかい)類

野菜くずや食べ残りなどの生ごみのことをいいます。

中間処理

収集したごみを無害化、資源化、減量化、安定化するための処理全般をいいます。具体的な中間処理方法としては、焼却処理、熔融処理、破碎処理、選別処理、圧縮・減容処理などがあります。

【な行】

熱回収

廃棄物の熱エネルギーを回収すること。ごみの焼却から得られる熱は、ごみ発電をはじめ、施設内の暖房・給湯などに利用されています。

【は行】

1人1日当たりごみ排出量

1人が1日に排出するごみの量をいい、年間のごみ排出量を、人口及び年間日数（365日又は366日）で割って算定されます。

フードバンク

品質には問題がないにもかかわらず賞味期限が近いといった理由で販売が困難な食料品を、メーカーから引き取り福祉施設等へ提供する活動をいいます。

ポリ塩化ビフェニル廃棄物（＝PCB 廃棄物）

ポリ塩化ビフェニル（PCB）、ポリ塩化ビフェニルを含む油又はポリ塩化ビフェニルが塗布され染み込み、付着し、若しくは封入された物が廃棄物となったものをいいます。

【や行】

リユースビン

ビールビンや一升ビンのように、回収し洗浄することで繰り返し使用できるビンのことをいいます。

資料2 類似都市のごみ処理の評価

表 2-1 類似都市の指標 (1)

	市町名	行政人口	人口1人1日 当たりごみ総 排出量 (kg/人・日)	廃棄物からの資 源回収率(RDF・ セメント原料化 等除く) (%)	廃棄物のう ち最終処分 される割合 (%)	人口1人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量に 要する費用 (円/t)
岐阜県	大垣市	158,342	0.884	18.5%	3.7%	13,395	37,462
	高山市	84,463	0.952	16.1%	16.3%	17,211	57,020
	多治見市	106,810	0.999	13.8%	11.5%	15,237	44,960
	関市	85,283	0.944	9.4%	3.1%	13,125	37,798
	中津川市	76,658	0.963	15.7%	9.1%	14,475	44,794
	美濃市	19,267	0.918	11.3%	3.2%	15,275	44,409
	瑞浪市	36,817	1.051	16.7%	21.8%	14,289	43,415
	羽島市	65,684	0.798	15.3%	4.0%	12,383	44,004
	恵那市	47,818	0.805	6.3%	0.0%	16,498	54,173
	美濃加茂市	56,718	0.736	4.0%	2.0%	7,984	27,399
	土岐市	55,374	0.948	11.1%	17.2%	7,215	21,515
	各務原市	144,619	0.917	24.8%	0.9%	13,276	39,790
	可児市	100,037	0.743	8.4%	1.2%	8,395	28,506
	山県市	25,291	0.736	12.5%	10.9%	24,203	99,826
	瑞穂市	56,411	0.71	16.3%	3.3%	10,897	35,869
	飛騨市	22,556	0.857	20.5%	11.6%	15,163	49,315
	本巣市	32,940	0.834	15.8%	4.7%	14,691	50,537
	郡上市	39,003	0.939	13.2%	10.3%	19,850	63,961
	下呂市	30,443	0.815	13.4%	14.4%	16,250	28,774
	海津市	32,749	0.766	16.1%	12.9%	18,783	73,643
静岡県	熱海市	36,085	1.554	15.1%	0.1%	27,646	48,055
	三島市	109,155	0.845	13.9%	8.5%	9,959	30,677
	富士宮市	131,477	0.888	17.8%	2.5%	10,486	28,446
	伊東市	67,863	1.311	18.5%	1.7%	15,662	32,708
	島田市	97,908	0.897	17.7%	5.1%	15,269	47,634
	磐田市	169,490	0.767	12.2%	9.1%	9,337	32,605
	焼津市	138,497	0.804	19.3%	4.7%	9,436	33,347
	掛川市	117,175	0.616	12.6%	5.4%	10,489	47,529
	藤枝市	144,217	0.687	18.7%	8.4%	8,894	38,255
	御殿場市	87,779	0.879	19.7%	1.1%	12,851	38,621
	袋井市	88,279	0.854	17.9%	8.2%	10,923	35,970
	下田市	20,973	1.163	13.8%	10.9%	21,103	50,859
	裾野市	51,346	0.78	9.0%	9.9%	9,615	32,785
	湖西市	59,285	0.946	39.3%	5.9%	17,775	52,669
	伊豆市	29,854	0.975	19.3%	11.0%	18,356	53,839
	御前崎市	31,859	0.911	16.6%	4.3%	13,848	42,601
	菊川市	48,379	0.644	21.0%	3.3%	13,457	56,810
	伊豆の国市	48,138	0.931	24.0%	6.9%	14,081	41,413
	牧之原市	44,897	0.889	16.8%	1.7%	16,013	46,548

表 2-1 類似都市の指標 (2)

	市町名	行政人口	人口1人1日 当たりごみ総 排出量 (kg/人・日)	廃棄物からの資 源回収率(RDF・ セメント原料化 等除く) (%)	廃棄物のう ち最終処分 される割合 (%)	人口1人当たり 年間処理経費 (円/人・年)	最終処分減量に 要する費用 (円/t)
愛知県	瀬戸市	129,131	0.843	13.8%	11.4%	7,431	24,507
	半田市	119,590	1.078	24.4%	12.5%	9,983	28,998
	豊川市	186,780	0.985	25.1%	3.9%	12,242	33,249
	津島市	61,827	0.747	8.8%	6.7%	9,268	30,774
	碧南市	72,784	0.993	15.8%	10.5%	16,385	46,809
	刈谷市	153,021	0.963	18.3%	8.7%	10,015	27,252
	安城市	190,155	0.907	18.1%	7.8%	13,245	42,845
	西尾市	171,537	1.053	15.5%	12.0%	11,647	31,745
	蒲郡市	79,762	1.127	17.2%	10.3%	13,814	35,199
	犬山市	73,469	0.814	19.5%	12.4%	12,180	44,661
	常滑市	59,177	1.126	27.4%	12.9%	14,865	38,515
	江南市	100,364	0.715	22.8%	8.2%	12,497	48,236
	小牧市	151,920	0.895	36.2%	2.2%	13,784	41,855
	稲沢市	136,315	0.779	16.9%	9.0%	10,202	37,298
	新城市	45,439	0.919	22.5%	12.0%	15,038	48,686
	東海市	114,755	0.844	13.5%	9.3%	17,275	60,948
	大府市	92,959	0.849	31.1%	3.2%	9,639	31,478
	知多市	85,422	0.752	12.1%	13.3%	18,737	73,781
	知立市	72,281	0.875	14.5%	9.0%	10,667	33,640
	尾張旭市	83,845	0.835	20.5%	10.6%	7,484	24,607
	高浜市	49,195	0.858	12.9%	10.0%	16,223	53,996
	岩倉市	48,034	0.644	28.5%	2.4%	13,788	57,044
	豊明市	68,928	0.765	22.1%	3.0%	9,914	35,894
	日進市	92,396	0.812	24.8%	4.8%	10,143	32,633
	田原市	61,077	1.084	33.3%	11.0%	21,066	57,082
	愛西市	62,743	0.761	9.4%	6.7%	11,192	37,076
	清須市	69,390	0.714	13.2%	14.3%	14,063	50,727
	北名古屋	86,243	0.836	13.8%	10.6%	13,092	45,088
	弥富市	44,338	0.877	7.1%	6.9%	9,167	26,464
	みよし市	61,234	0.887	16.5%	9.8%	16,281	52,293
あま市	89,040	0.73	8.1%	9.3%	12,389	48,748	
長久手市	60,024	0.86	16.5%	11.0%	7,021	22,350	
三重県	津市	276,323	1.018	19.2%	1.5%	15,690	40,258
	伊勢市	124,543	1.106	25.1%	0.0%	12,591	30,737
	松阪市	162,244	0.976	10.9%	13.3%	10,217	31,509
	桑名市	141,458	1.032	5.1%	3.0%	9,269	24,681
	鈴鹿市	199,249	0.935	10.0%	2.5%	15,941	45,875
	名張市	77,708	0.74	5.6%	4.1%	17,074	64,317
	尾鷲市	17,253	1.011	23.2%	2.2%	27,390	74,924
	亀山市	49,530	0.971	25.2%	0.0%	21,335	59,967
	鳥羽市	18,029	1.221	15.2%	0.9%	22,440	50,799
	熊野市	16,476	1.027	33.7%	1.6%	14,484	37,286
	いなべ市	45,422	0.81	16.8%	1.0%	12,091	38,831
	志摩市	46,104	1.048	17.0%	4.3%	20,959	55,277
	伊賀市	90,097	0.79	10.7%	2.2%	12,565	44,105

出典：「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール（令和2年度実績版）」（環境省）を用いて作成

資料3 ごみ排出量及びごみ処理量の見込み

1) 推計フロー

本市におけるごみ排出量の予測手法を図3-1に示すとおりです。はじめに、ごみの排出の抑制、再生利用を促進せず、循環型社会形成に向けた改善を行わない場合、ごみの排出量が将来的にどのように変化するかについて推計を行います。ごみ排出量の予測手法としては、家庭系ごみ量と事業系ごみ量に分けて行います。家庭系ごみ量は、過去の実績から1人1日当たり排出量（g/人・日）を予測し、将来人口を乗じることで排出量を予測します。事業系ごみ量は、人口が減少しているにもかかわらずごみ排出量の減少がみられないことから、ごみ排出量の実績から排出量の予測を行いました。

次に、家庭、事業所等におけるごみの排出抑制、再生利用の促進のために実施する政策や将来のごみ処理体系の設定を踏まえた予測を行い、目標値として設定します。

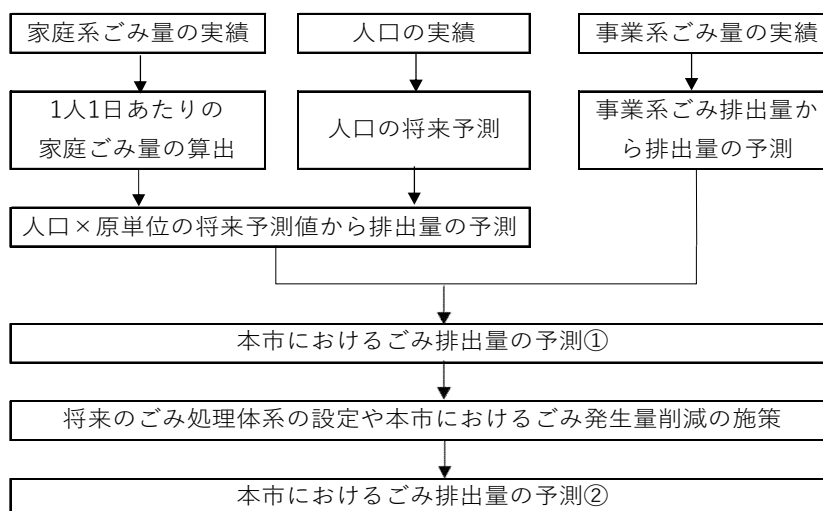


図3-1 ごみ排出量の推計フロー図

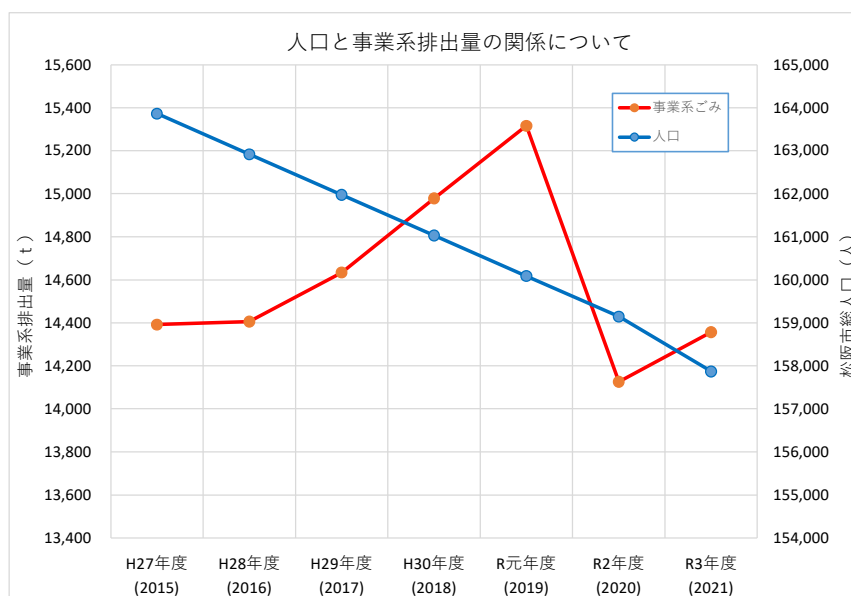


図3-2 人口と事業系排出量の関係について

2) 行政区域内人口の予測

人口の将来予測については、トレンド法やコーホート要因法により行う方法がありますが、松阪市では上位計画に位置付けられる「総合計画」で設定されている将来人口との整合を考慮する必要があるため、これを本計画における将来人口として採用します。

表3-1 松阪市人口

		総人口（人）						
		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
三重県	松阪市	163,863	159,073	153,412	147,347	140,955	134,215	127,382

出典：松阪市総合計画

3) ごみ排出量の実績の整理

過去のごみ排出量の実績データを基にごみ排出量及び原単位の実績を整理しました。令和3年度から充電式小型家電の収集が開始されたため、充電式小型家電の項目を新たに追加しました。

また、令和元（2019）年12月に松阪市が許可する一般廃棄物の収集運搬許可業者が家庭系収集運搬許可業者と事業系収集運搬許可業者に分かれたことで、令和2（2020）年度以降の家庭系と事業系の集計方法が一部変更となりました。この影響が顕著であった埋立物は、将来予測を行う際に、令和2（2020）年度以前の実績値を現在の集計方法で置き換えて推計しました。

表3-2 ごみ排出量及び原単位の実績一覧

年度	実績							原単位										
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)				
年間日数	366	365	365	365	366	365	365	366	365	365	365	366	365	365				
人口	163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872				
ごみ排出量 (t)	家庭系ごみ	燃えるごみ	34,855	34,366	34,721	34,599	34,973	35,061	34,448	581.17	577.92	587.29	588.66	596.89	603.58	597.81		
		燃えないごみ	2,867	2,709	2,716	2,976	2,890	3,169	2,735	47.80	45.56	45.94	50.63	49.32	54.56	47.46		
		蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	0.20	0.20	0.19	0.20	0.20	0.22	0.21		
		危険ごみ	64	62	64	62	62	68	66	1.07	1.04	1.08	1.05	1.06	1.17	1.15		
		小型家電	5	3	6	10	12	13	19	0.08	0.05	0.10	0.17	0.20	0.22	0.33		
		充電式小型家電							3								0.05	
		埋立物	1	15	2	4	8	138	230	0.02	0.25	0.03	0.07	0.14	2.38	3.99		
		資源物	新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	4.87	3.83	3.20	3.01	2.80	2.89	3.05	
			雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	5.67	4.59	3.89	3.86	4.10	4.72	4.30	
			ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	3.55	2.83	2.66	2.65	2.78	3.51	3.57	
			牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	0.10	0.10	0.10	0.09	0.07	0.09	0.10	
			古着類	186	145	125	127	155	197	180	3.10	2.44	2.11	2.16	2.65	3.39	3.12	
			ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	2.95	2.91	2.62	2.88	2.82	3.01	3.21	
			プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	11.52	10.70	10.45	10.33	10.21	11.14	10.64	
			白色トレイ	10	9	8	8	7	8	8	0.17	0.15	0.14	0.14	0.12	0.14	0.14	
			飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	0.45	0.42	0.39	0.53	0.58	0.65	0.64	
			空きビン	837	731	704	750	657	633	702	13.96	12.29	11.91	12.76	11.21	10.90	12.18	
			小計	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95	
			集団回収	新聞紙	2,215	1,890	1,598	1,459	1,345	1,019	959	36.93	31.78	27.03	24.82	22.96	17.54	16.64
				雑誌・雑紙	1,073	917	799	732	696	655	595	17.89	15.42	13.51	12.45	11.88	11.28	10.33
				ダンボール	1,000	897	817	772	735	678	650	16.67	15.08	13.82	13.13	12.54	11.67	11.28
		牛乳パック		14	12	11	10	9	9	8	0.23	0.20	0.19	0.17	0.15	0.15	0.14	
		古着類		151	130	126	122	129	147	137	2.52	2.19	2.13	2.08	2.20	2.53	2.38	
		空きビン		3	2	2	1	1	1	1	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	
		小計	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350	74.29	64.70	56.71	52.67	49.75	43.19	40.79		
		家庭系ごみ計(集団回収を除く)	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95		
		家庭系ごみ計(集団回収を含む)	45,039	43,409	43,088	43,016	43,059	43,320	42,224	750.97	729.98	728.81	731.86	734.90	745.76	732.74		
ごみ排出量 (t)	事業系ごみ	燃えるごみ	14,246	14,166	14,415	14,751	15,070	13,988	14,245	237.54	238.22	243.82	250.97	257.20	240.81	247.21		
		燃えないごみ	146	166	148	149	182	60	42	2.43	2.79	2.50	2.54	3.11	1.03	0.73		
		蛍光灯	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
		危険ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
		埋立物	502	557	700	573	564	369	1,701	8.37	9.37	11.84	9.75	9.63	6.35	29.52		
		資源物	新聞紙	76	74	71	79	64	78	0	1.27	1.24	1.20	1.34	1.09	1.34	0.00	
			雑誌・雑紙	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			ダンボール	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			牛乳パック	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			古着類	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			ペットボトル	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			プラスチック容器・袋	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			白色トレイ	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			飲食用アルミ缶	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			スチール缶・粗大鉄	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			空きビン	76	74	71	79	64	78	0	1.27	1.24	1.20	1.34	1.09	1.34	0.00	
			小計	14,970	14,963	15,334	15,552	15,880	14,495	15,988	249.61	251.62	259.36	264.60	271.03	249.53	277.46	
			事業系ごみ計	14,970	14,963	15,334	15,552	15,880	14,495	15,988	249.61	251.62	259.36	264.60	271.03	249.53	277.46	
			総ごみ量	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212	1,000.58	981.60	988.17	996.46	1,005.93	995.29	1,010.20	
		総ごみ量(集団回収を除く)	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	926.29	916.90	931.46	943.79	956.18	952.10	969.41		

4) 排出量原単位の予測

排出原単位の予測は、過去の実績データの推移、相関係数を考慮しながら、将来値の傾向を総合的に勘案して各々の廃棄物の将来推計を行いました。

将来推計に関する検討内容について、以下に示すパターンのとおりです。7パターンの推計方法を示していますが、①、②の傾向に該当するごみの傾向は、実績と同じ傾向を示すと予想されるため、予測値はトレンド法により算出しました。③～⑦のパターンに該当するごみの傾向は、直近年度の実績値または平均値を採用しました。

表 3-3 排出原単位の決定方法①

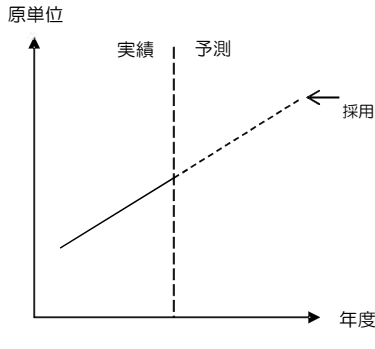
パターン①	原単位実績値が増加傾向を示している場合
概念図	
採用値	予測式を採用する。予測式は傾向をよく表しているもの、相関係数が高いものを採用するが、傾向をよく表しているものを優先的に採用する。

表 3-3 排出原単位の決定方法②

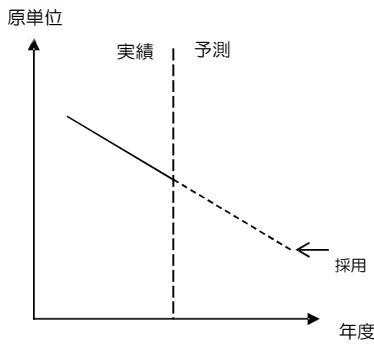
パターン②	原単位実績値が減少傾向を示している場合
概念図	
採用値	予測式を採用する。予測式は傾向をよく表しているもの、相関係数が高いものを採用するが、傾向をよく表しているものを優先的に採用する。

表 3-3 排出原単位の決定方法③

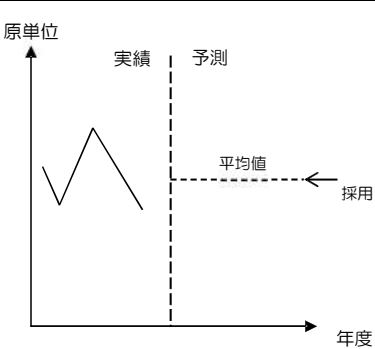
パターン③	原単位実績値が増減を繰り返している場合
概念図	
採用値	実績値の平均値を採用する。

表 3-3 排出原単位の決定方法④

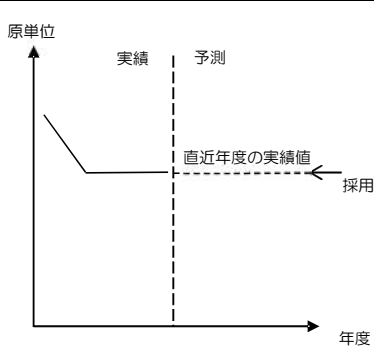
パターン④	原単位実績値が増減後、横ばい傾向を示している場合
概念図	
採用値	直近年度の実績値を採用する。

表 3-3 排出原単位の決定方法⑤

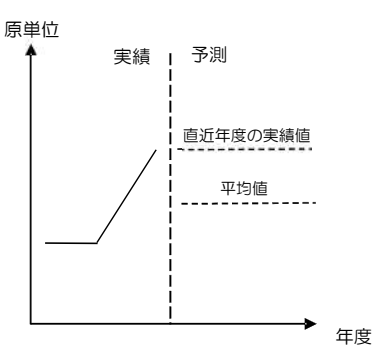
パターン⑤	原単位実績値が横ばい傾向を示した後に、増減傾向を示す場合
概念図	
採用値	一時的な増減の可能性もあり得るため品目によって平均値や直近年度の実績値を採用するなどを検討する。

表 3-3 排出原単位の決定方法⑥

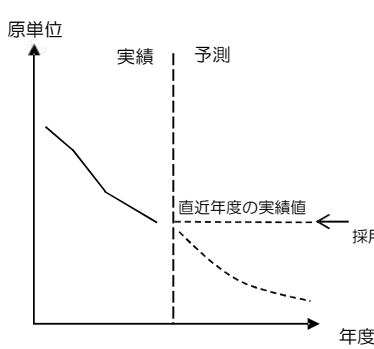
パターン⑥	予測値が過度な増減値となる場合
概念図	
採用値	直近年度の実績値を採用する。

表3-3 排出原単位の決定方法⑦

パターン⑦	原単位実績値が横ばい傾向を示す場合
概念図	
採用値	実績値の平均値を採用する。

4) -1 家庭系ごみ推計結果

・燃えるごみ

過去の平成 28 年度～平成 31 年度にかけて増加傾向を示しているため、パターン①に該当します。平成 31 年度～令和 3 年度にかけて増加傾向が緩慢になっていることから、これまでの傾向をよく表す対数式を採用します。

表3-4 推計結果（家庭系燃えるごみ：原単位）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	583				—		—
H28 (2016)	578				—		—
H29 (2017)	587				—		—
H30 (2018)	589				—		—
H31 (2019)	599				—		—
R2 (2020)	604				—		—
R3 (2021)	598				—		—
R4 (2022)		606	605	606	—	597	—
R5 (2023)		610	608	610	—	598	—
R6 (2024)		614	610	614	—	599	—
R7 (2025)		618	613	618	—	600	—
R8 (2026)		622	615	622	—	601	—
R9 (2027)		626	617	627	—	602	—
R10 (2028)		629	619	631	—	602	—
R11 (2029)		633	620	635	—	603	—
R12 (2030)		637	622	639	—	604	—
R13 (2031)		641	623	643	—	604	—
R14 (2032)		645	624	647	—	605	—
R15 (2033)		649	624	652	—	605	—
R16 (2034)		652	625	656	—	606	—
R17 (2035)		656	625	660	—	606	—
R18 (2036)		660	625	664	—	606	—
R19 (2037)		664	625	669	—	607	—
R20 (2038)		668	624	673	—	607	—
R21 (2039)		672	623	677	—	608	—
R22 (2040)		676	623	682	—	608	—
R23 (2041)		679	621	686	—	608	—
R24 (2042)		683	620	691	—	609	—
R25 (2043)		687	619	695	—	609	—
R26 (2044)		691	617	700	—	609	—
R27 (2045)		695	615	704	—	610	—
R28 (2046)		699	613	709	—	610	—
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=[A^*(T-To)] \cdot B$	$Y=A \cdot \{(T-To)^B\}+Yo$	$Y=A \cdot \ln(T-To)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	3.8468	-0.1101	1.0065	—	9.1178	—
	B	-7171.8779	448.2873	579.4416	—	578.3017	—
	C		-455612.0000				
	K						599.0000
相関係数		0.8930	0.9024	0.8928	—	0.8388	—
相関順位		2	1	3	—	4	—
採用	—	×	×	×	×	○	×

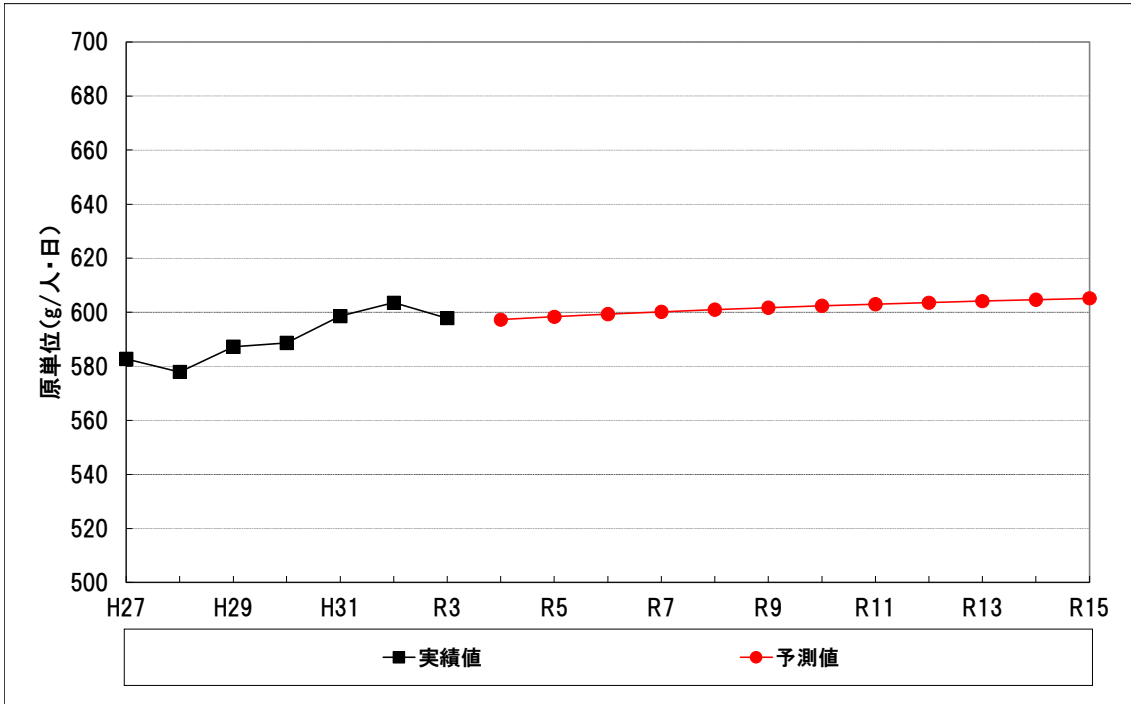


図3-3 推計結果（家庭系燃えるごみ：原単位）

・燃えないごみ

過去の実績値が増減を繰り返しているためパターン③に該当します。よって実績値の平均値を採用します。

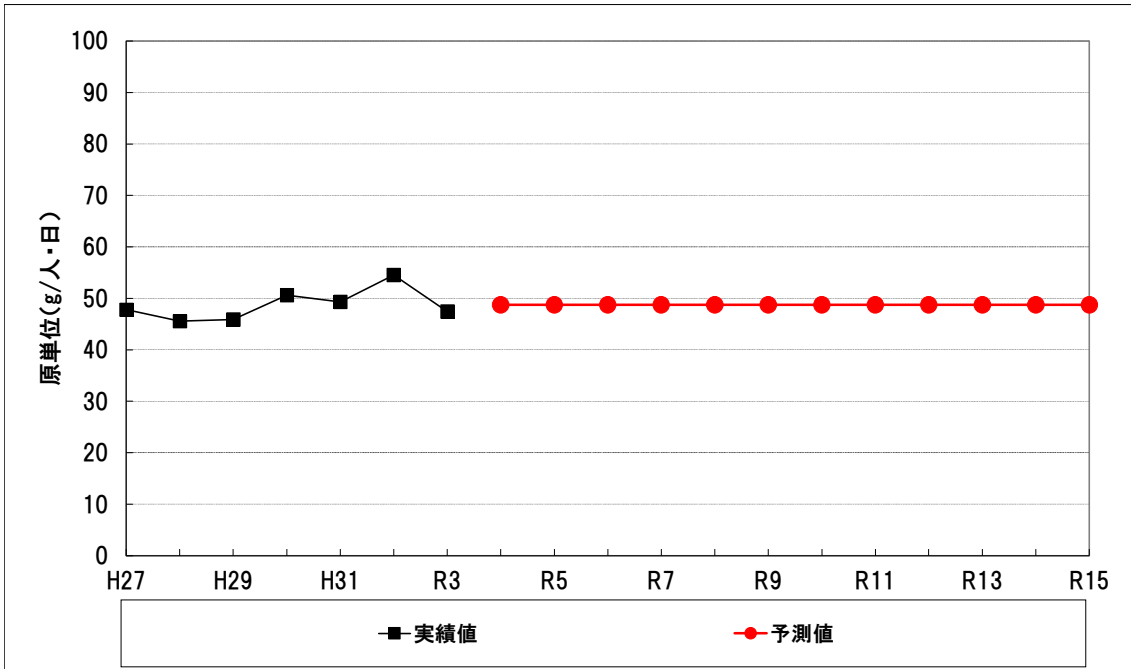


図3-4 推計結果（家庭系燃えるごみ：原単位）

・蛍光管

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和 3 年度実績を採用します。

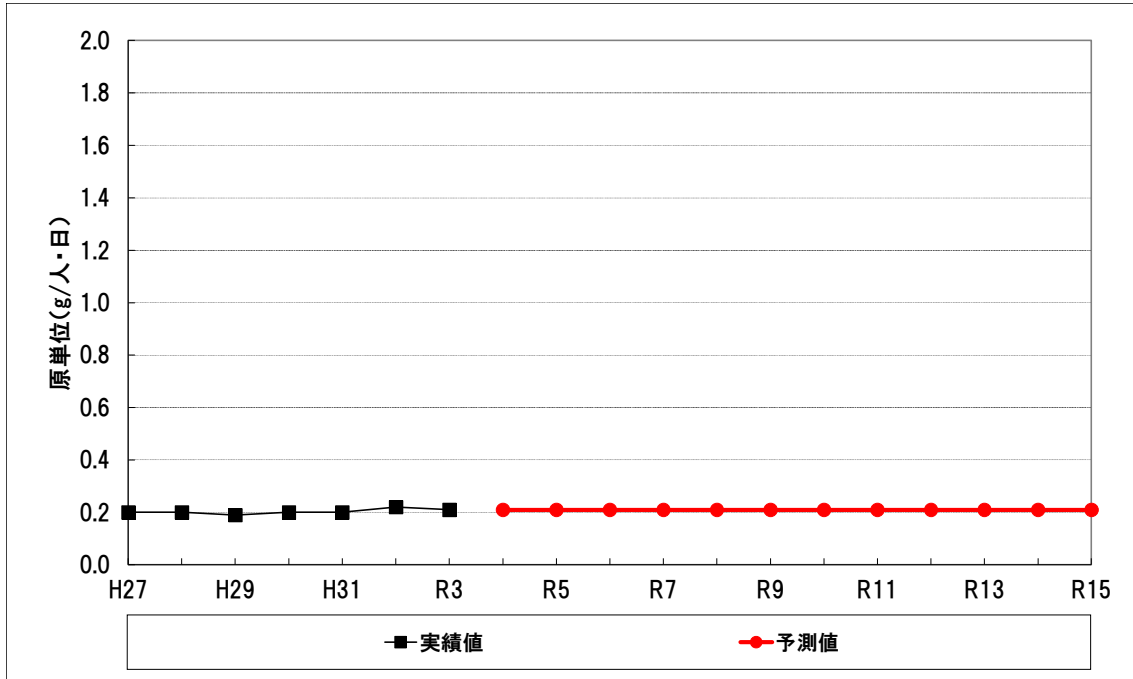


図3-5 推計結果（蛍光管：原単位）

・危険ごみ

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和 3 年度実績を採用します。

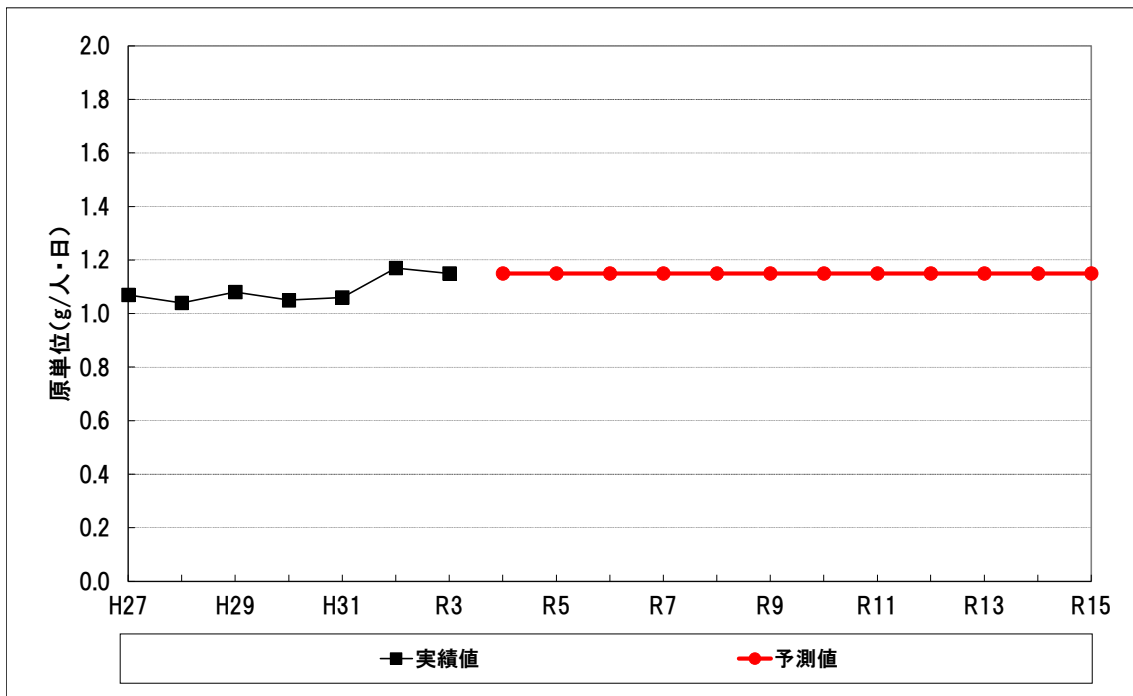


図3-6 推計結果（危険ごみ：原単位）

・小型家電

過去の平成28年度～令和3年度にかけて増加傾向を示しているため、パターン①に該当します。同じ傾向で増加していることから、これまでの傾向をよく表す直線式を採用します。

表3-5 推計結果（小型家電：原単位）

		実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27	(2015)	0				—		—
H28	(2016)	0				—		—
H29	(2017)	0				—		—
H30	(2018)	0				—		—
H31	(2019)	0				—		—
R2	(2020)	0				—		—
R3	(2021)	0				—		—
R4	(2022)		0.34	0.52	0.44	—	0.22	—
R5	(2023)		0.38	0.61	0.58	—	0.22	—
R6	(2024)		0.42	0.71	0.77	—	0.23	—
R7	(2025)		0.47	0.82	1.02	—	0.24	—
R8	(2026)		0.51	0.94	1.36	—	0.25	—
R9	(2027)		0.55	1.07	1.80	—	0.26	—
R10	(2028)		0.59	1.22	2.39	—	0.26	—
R11	(2029)		0.64	1.37	3.18	—	0.27	—
R12	(2030)		0.68	1.53	4.23	—	0.27	—
R13	(2031)		0.72	1.71	5.62	—	0.28	—
R14	(2032)		0.77	1.89	7.46	—	0.28	—
R15	(2033)		0.81	2.09	9.91	—	0.29	—
R16	(2034)		0.85	2.29	13.17	—	0.29	—
R17	(2035)		0.89	2.51	17.50	—	0.30	—
R18	(2036)		0.94	2.73	23.25	—	0.30	—
R19	(2037)		0.98	2.97	30.89	—	0.30	—
R20	(2038)		1.02	3.22	41.04	—	0.31	—
R21	(2039)		1.07	3.47	54.53	—	0.31	—
R22	(2040)		1.11	3.74	72.45	—	0.31	—
R23	(2041)		1.15	4.02	96.26	—	0.32	—
R24	(2042)		1.19	4.31	127.90	—	0.32	—
R25	(2043)		1.24	4.61	169.93	—	0.32	—
R26	(2044)		1.28	4.92	225.78	—	0.32	—
R27	(2045)		1.32	5.24	299.97	—	0.33	—
R28	(2046)		1.37	5.57	398.56	—	0.33	—
基本式			$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=[A \cdot (T-T_0)] \cdot B$	$Y=A \cdot \{(T-T_0)^B\}+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-T_0)+B$	$Y=K / \{1+\text{EXP}(B \cdot A \cdot T)\}$
係数	A		0.0429	0.0052	1.3286	—	0.0830	—
	B		-86.3200	-21.0981	0.0595	—	0.0425	—
	C			21245.0000				
	K							0.0000
相関係数			0.9500	—	0.9696	—	0.8536	—
相関順位			2	—	1	—	3	—
採用		—	○	×	×	×	×	×

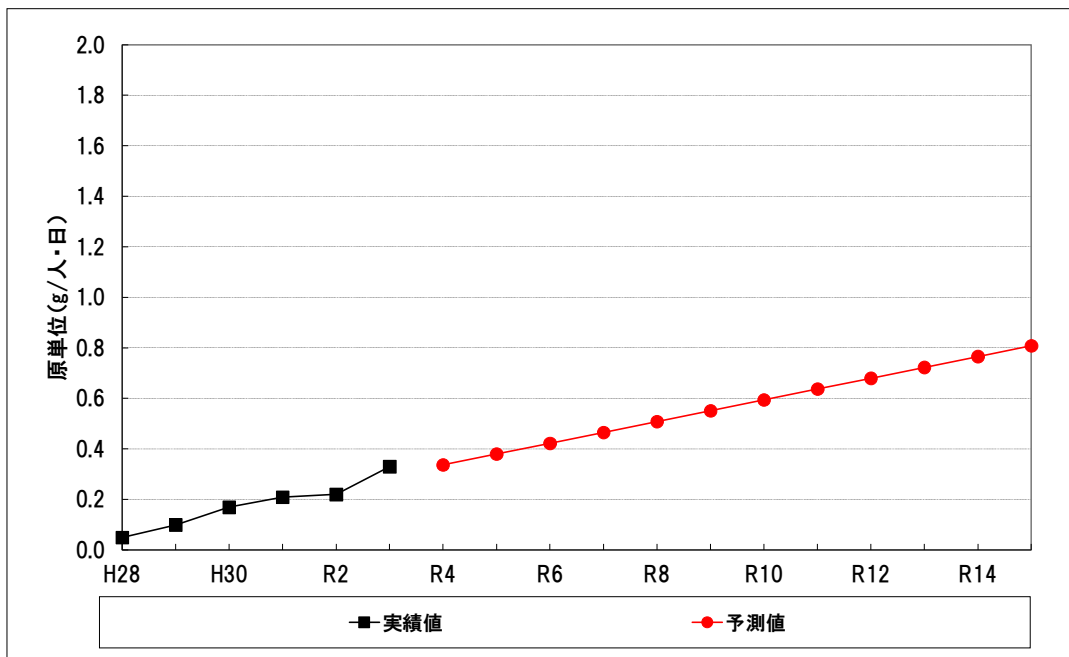


図3-7 推計結果（小型家電：原単位）

・充電式小型家電

実績が令和 3 年度のみであるため、同値を採用します。

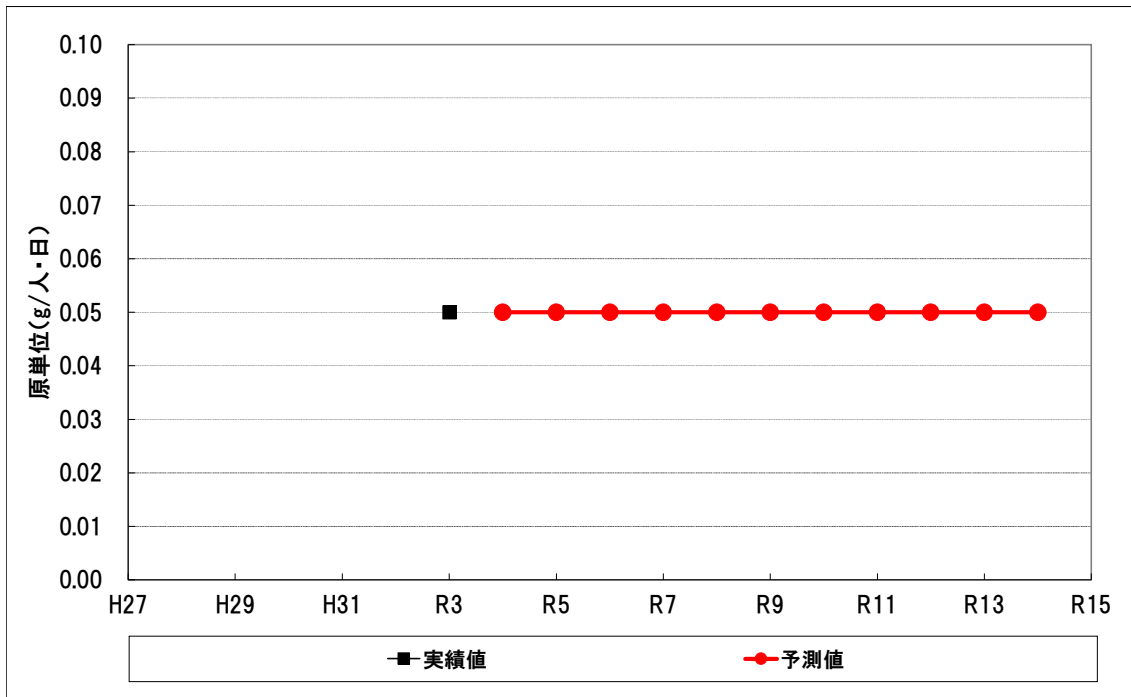


図 3-8 推計結果（充電式小型家電：原単位）

・埋立物

ごみ排出量原単位が平成 27 年度～令和 2 年度にかけて横ばい傾向でしたが、令和 3 年度に急激に上昇していることからパターン⑤に該当します。よって、令和 3 年度実績を採用します。

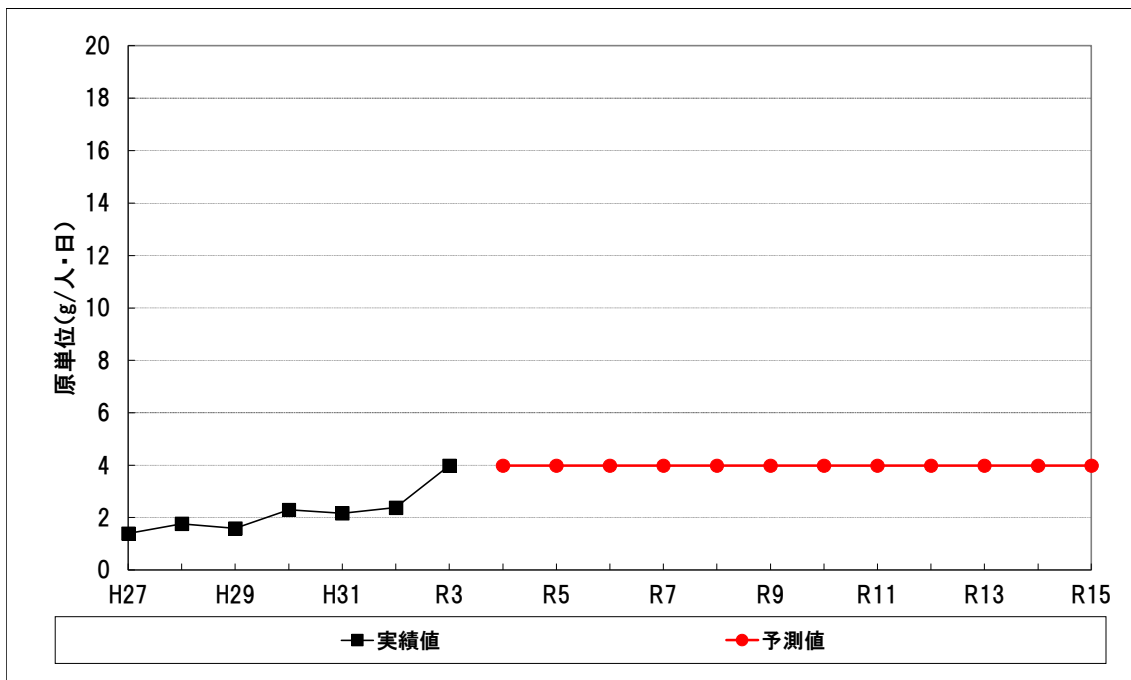


図 3-9 推計結果（埋立物：原単位）

・新聞紙

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

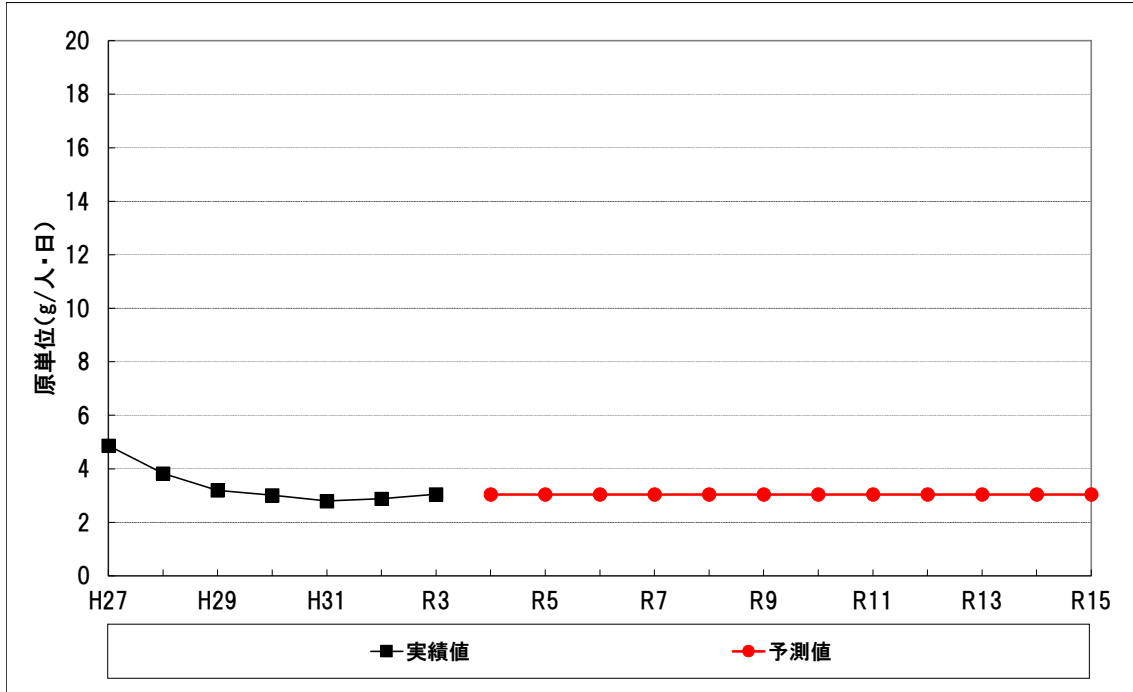


図3-10 推計結果（新聞紙：原単位）

・雑誌・雑紙

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

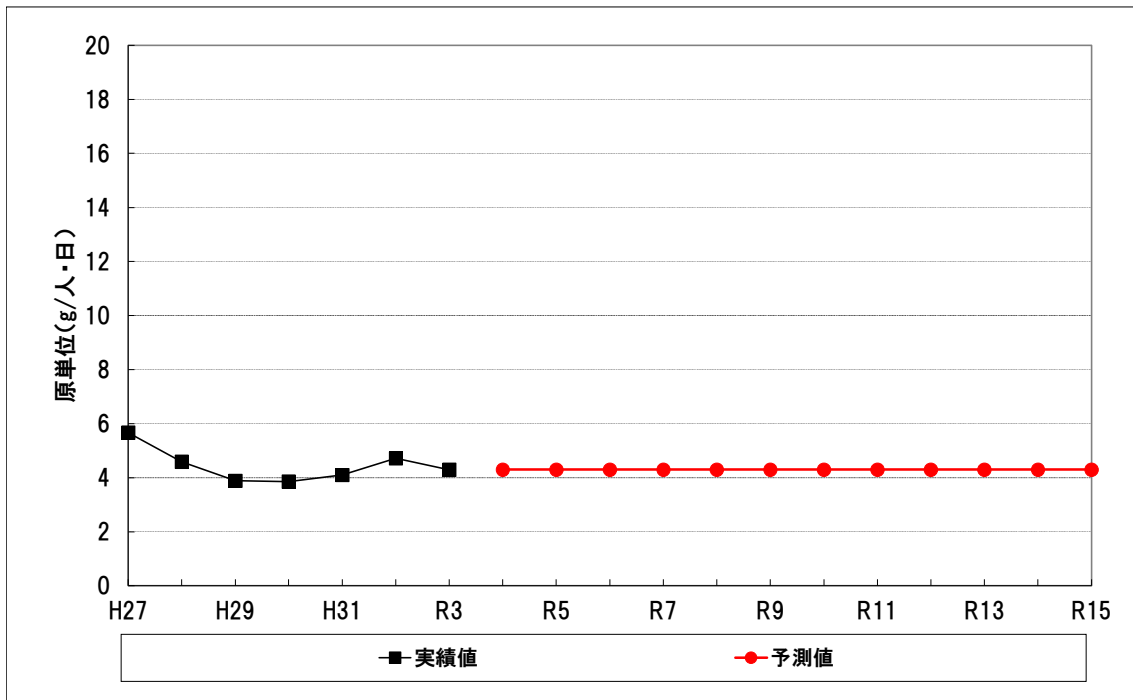


図3-11 推計結果（雑誌・雑紙：原単位）

・ダンボール

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

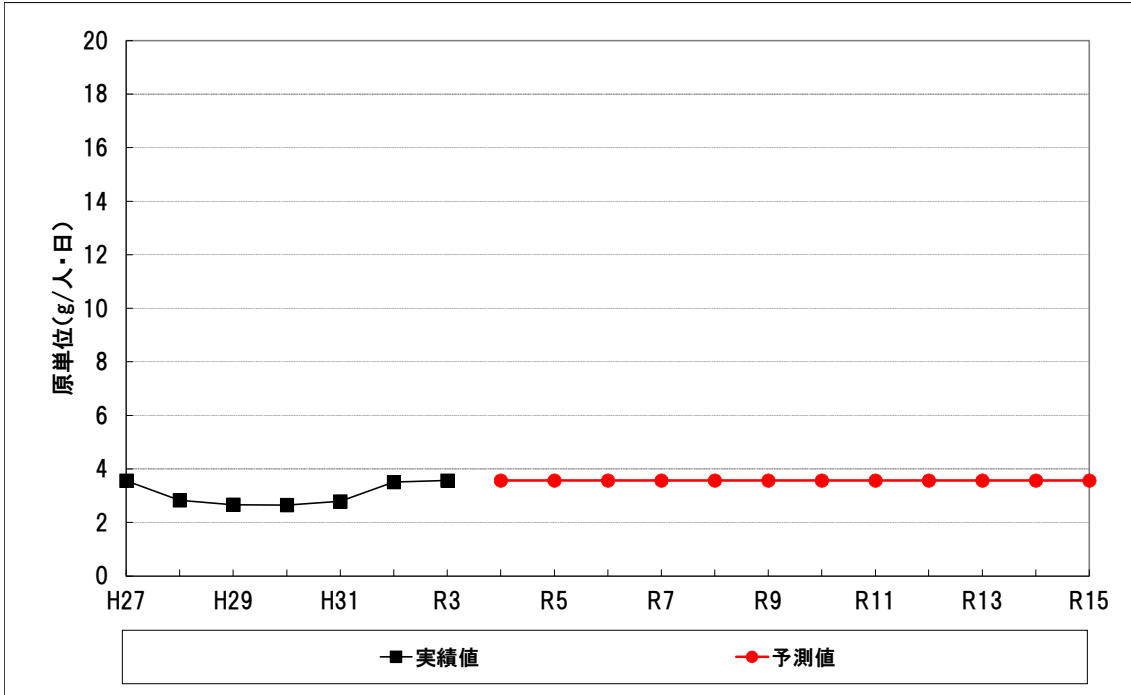


図3-12 推計結果（ダンボール：原単位）

・牛乳パック

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

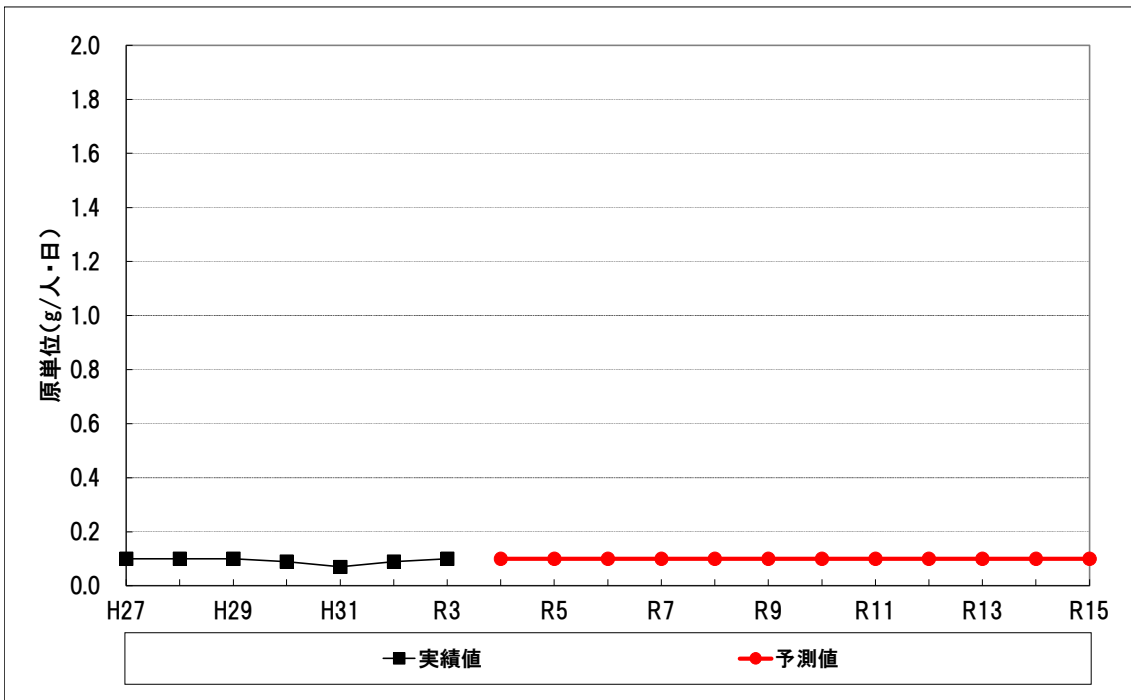


図3-13 推計結果（牛乳パック：原単位）

- ・古着類

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

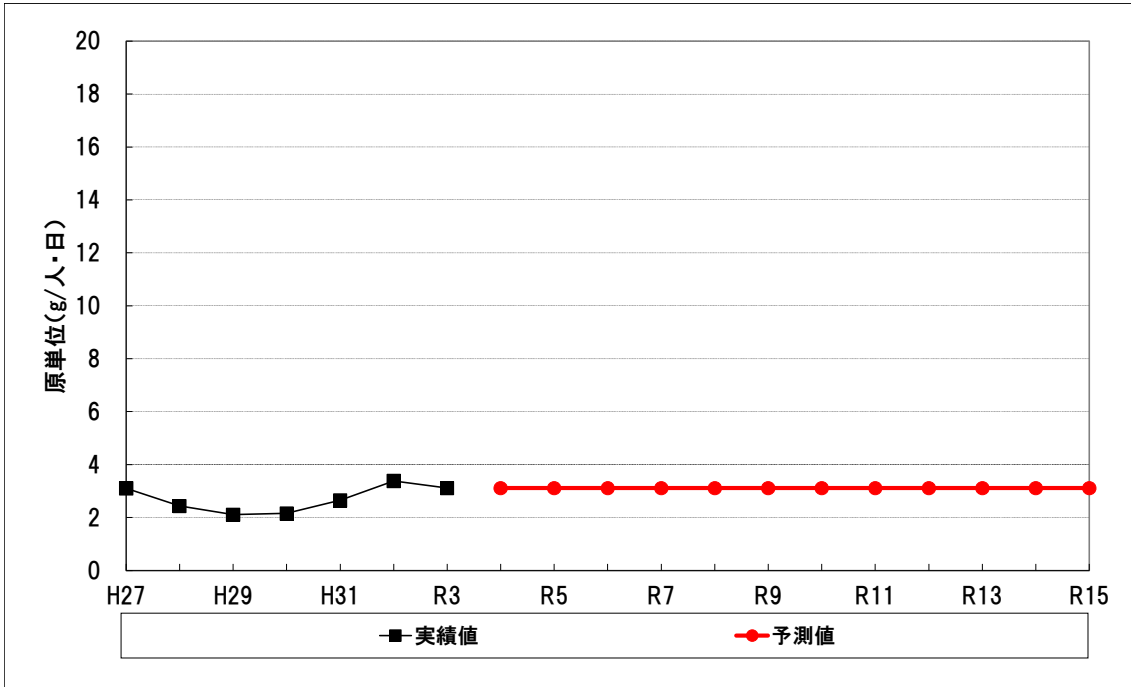


図3-14 推計結果（古着類：原単位）

- ・ペットボトル

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

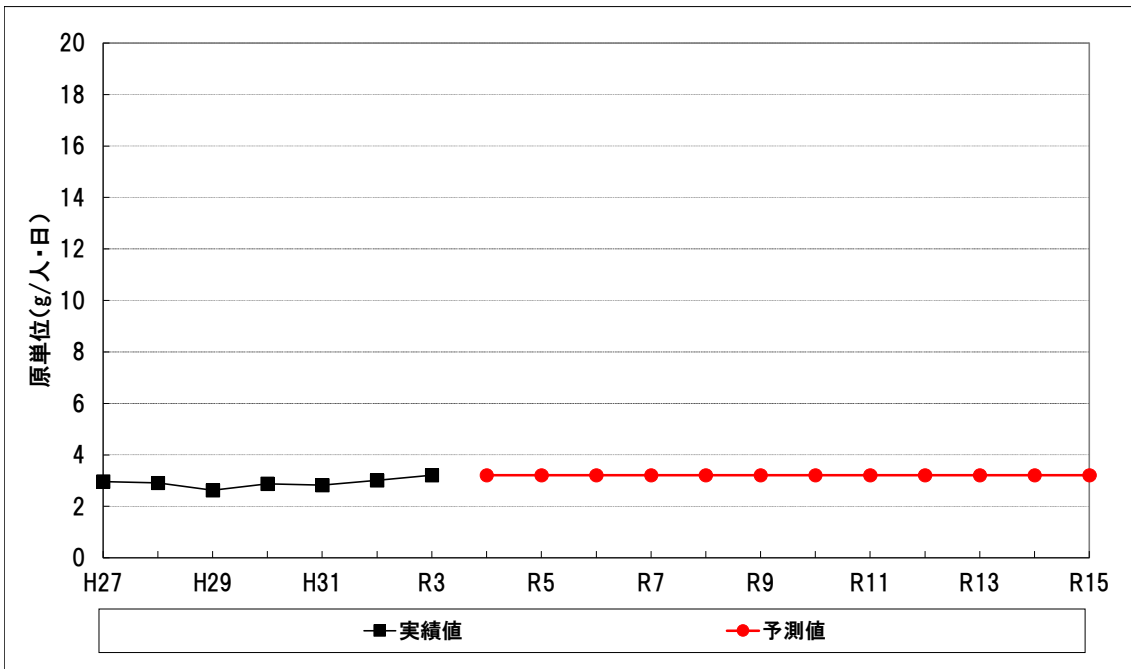


図3-15 推計結果（ペットボトル：原単位）

・プラスチック容器・袋

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

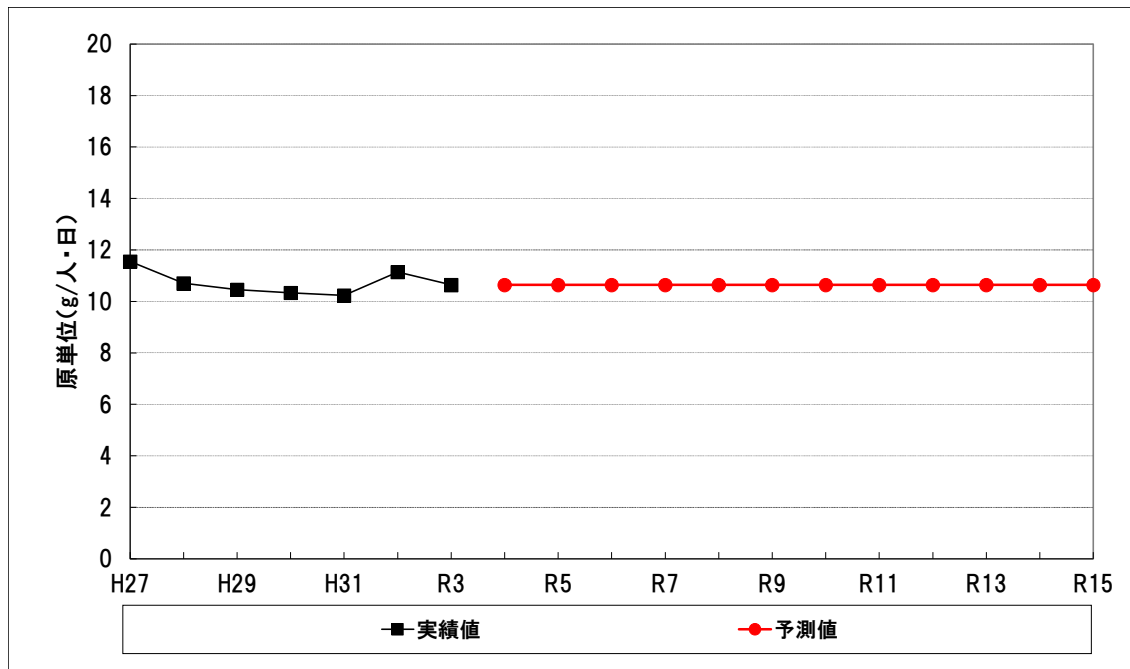


図3-16 推計結果（プラスチック容器・袋：原単位）

・白色トレー

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

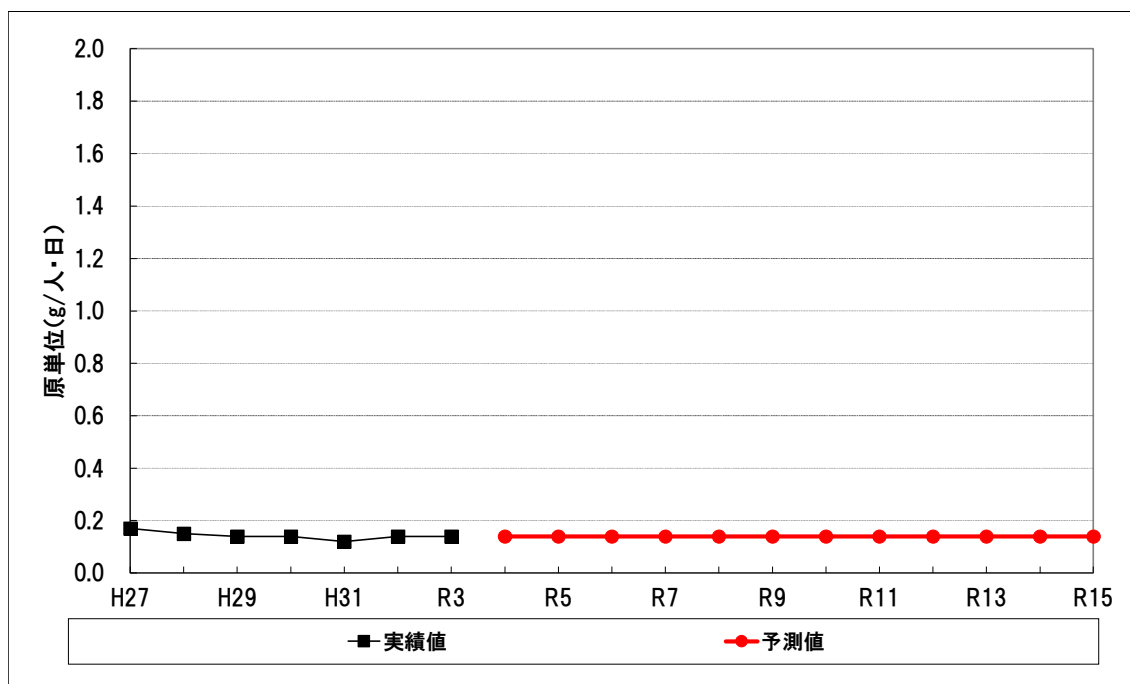


図3-17 推計結果（白色トレー：原単位）

・飲食用アルミ缶

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和 3 年度実績を採用します。

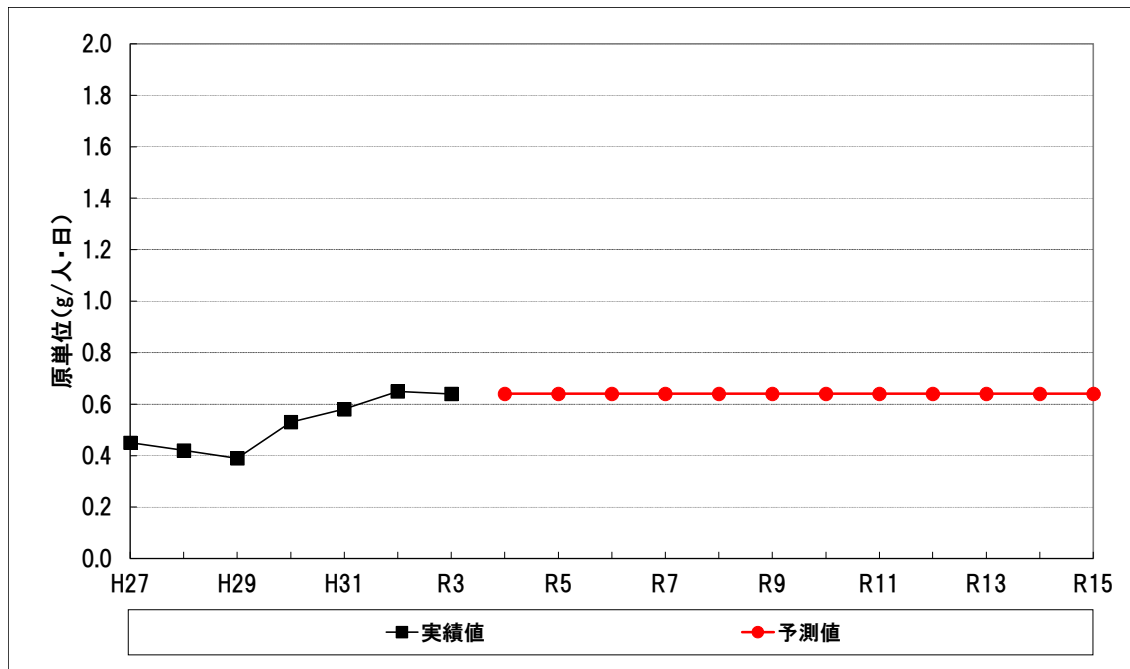


図 3-18 推計結果（飲食用アルミ缶：原単位）

・空ビン

過去の実績から減少傾向にあるためパターン②に該当します。これまでの傾向をよく表す対数式を採用します。

表3-6 推計結果（空ビン：原単位）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	13.99						
H28 (2016)	12.29						
H29 (2017)	11.91						
H30 (2018)	12.76						
H31 (2019)	11.24						
R2 (2020)	10.90						
R3 (2021)	10.97						
R4 (2022)		10.22	10.41	10.33		10.93	
R5 (2023)		9.77	10.43	9.96		10.78	
R6 (2024)		9.33	10.55	9.60		10.64	
R7 (2025)		8.88	10.77	9.25		10.51	
R8 (2026)		8.43	11.09	8.92		10.39	
R9 (2027)		7.99	11.52	8.60		10.28	
R10 (2028)		7.54	12.04	8.29		10.19	
R11 (2029)		7.09	12.67	7.99		10.09	
R12 (2030)		6.65	13.41	7.70		10.01	
R13 (2031)		6.20	14.24	7.43		9.92	
R14 (2032)		5.75	15.18	7.16		9.85	
R15 (2033)		5.31	16.22	6.90		9.78	
R16 (2034)		4.86	17.37	6.65		9.71	
R17 (2035)		4.41	18.61	6.41		9.64	
R18 (2036)		3.97	19.96	6.18		9.58	
R19 (2037)		3.52	21.41	5.96		9.52	
R20 (2038)		3.07	22.97	5.74		9.46	
R21 (2039)		2.63	24.63	5.54		9.41	
R22 (2040)		2.18	26.39	5.34		9.36	
R23 (2041)		1.73	28.25	5.15		9.31	
R24 (2042)		1.29	30.21	4.96		9.26	
R25 (2043)		0.84	32.28	4.78		9.21	
R26 (2044)		0.39	34.45	4.61		9.16	
R27 (2045)		-0.05	36.72	4.44		9.12	
R28 (2046)		-0.50	39.10	4.28		9.08	
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=(A^{T-T_0}) \cdot B$	$Y=A \cdot \{(T-T_0)^B\}+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-T_0)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	-0.4468	0.0513	0.9640		-1.3398	
	B	913.6221	-207.5320	13.3581		13.7208	
	C		209862.0000				
	K						11.0000
相関係数		0.8646	0.7866	0.8697		0.8972	
相関順位		3	4	2		1	
採用	-	×	×	×	×	○	×

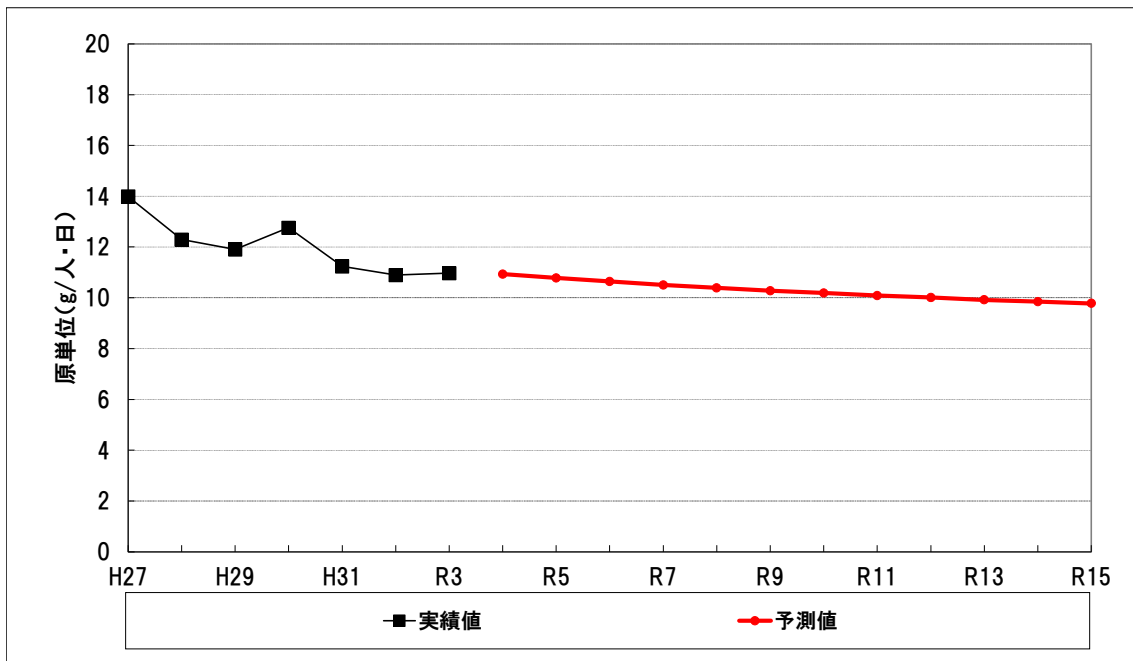


図3-19 推計結果（空ビン：原単位）

・新聞紙（集団回収）

過去の実績では減少傾向にあるためパターン②に該当します。これまでの傾向をよく表す対数式を採用します。

表3-7 推計結果（新聞紙（集団回収）：原単位）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	36.93						
H28 (2016)	31.78						
H29 (2017)	27.03						
H30 (2018)	24.82						
H31 (2019)	22.96						
R2 (2020)	17.54						
R3 (2021)	16.64						
R4 (2022)		12.04	14.40	14.34		18.75	
R5 (2023)		8.70	13.05	12.55		17.70	
R6 (2024)		5.37	12.15	10.98		16.77	
R7 (2025)		2.03	11.70	9.60		15.92	
R8 (2026)		-1.31	11.68	8.40		15.15	
R9 (2027)		-4.64	12.11	7.35		14.44	
R10 (2028)		-7.98	12.98	6.43		13.78	
R11 (2029)		-11.31	14.29	5.63		13.17	
R12 (2030)		-14.65	16.05	4.92		12.60	
R13 (2031)		-17.99	18.25	4.31		12.06	
R14 (2032)		-21.32	20.89	3.77		11.55	
R15 (2033)		-24.66	23.98	3.30		11.07	
R16 (2034)		-28.00	27.50	2.88		10.62	
R17 (2035)		-31.33	31.47	2.52		10.18	
R18 (2036)		-34.67	35.89	2.21		9.77	
R19 (2037)		-38.01	40.74	1.93		9.38	
R20 (2038)		-41.34	46.04	1.69		9.00	
R21 (2039)		-44.68	51.79	1.48		8.64	
R22 (2040)		-48.02	57.97	1.29		8.29	
R23 (2041)		-51.35	64.60	1.13		7.95	
R24 (2042)		-54.69	71.67	0.99		7.63	
R25 (2043)		-58.02	79.18	0.87		7.32	
R26 (2044)		-61.36	87.14	0.76		7.02	
R27 (2045)		-64.70	95.54	0.66		6.73	
R28 (2046)		-68.03	104.38	0.58		6.45	
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=(A^T(T-T_0)) \cdot B$	$Y=A \cdot ((T-T_0)^B)+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-T_0)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	-3.3364	0.2214	0.8749		-8.8741	
	B	6758.2986	-897.0221	36.5677		37.2009	
	C		908486.0000				
	K						-19.0000
相関係数		0.9852	0.9908	0.9921		0.9823	
相関順位		3	2	1		4	
採用	-	×	×	×	×	○	×

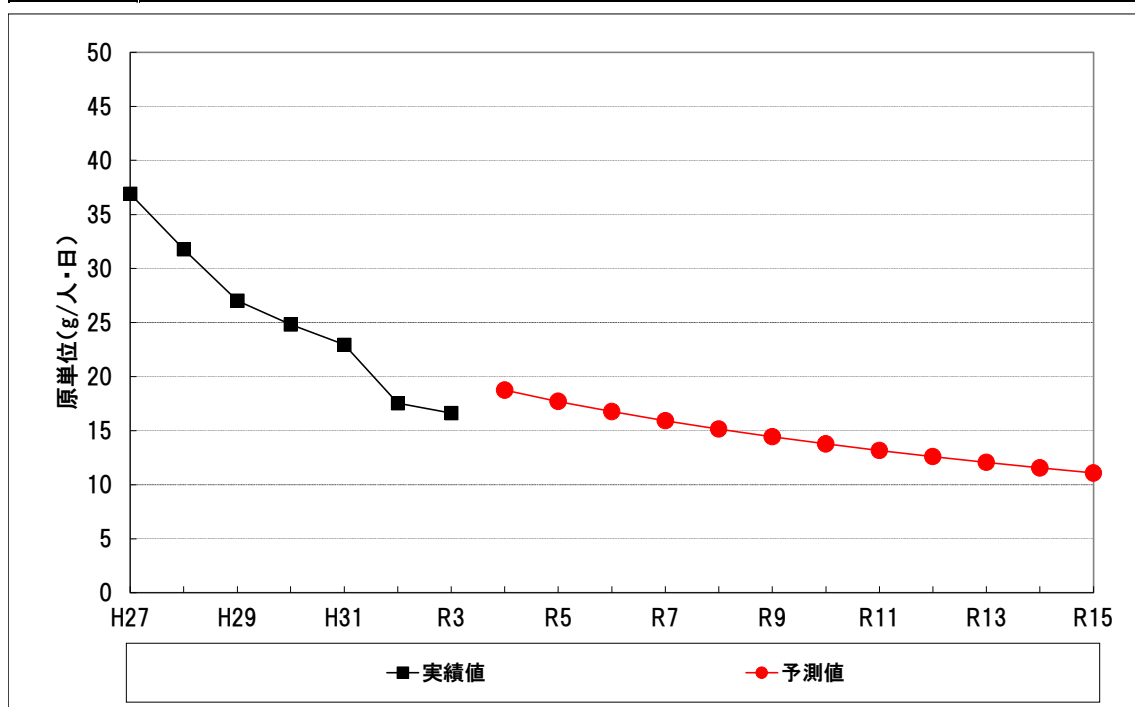


図3-20 推計結果（新聞紙（集団回収）：原単位）

・雑誌・雑紙（集団回収）

過去の実績から減少傾向にあるためパターン②に該当します。これまでの傾向をよく表す対数式を採用します。

表3-8 推計結果（雑誌・雑紙（集団回収）：原単位）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	17.89						
H28 (2016)	15.42						
H29 (2017)	13.51						
H30 (2018)	12.45						
H31 (2019)	11.88						
R2 (2020)	11.28						
R3 (2021)	10.33						
R4 (2022)		8.60	10.30	9.26		9.91	
R5 (2023)		7.43	10.75	8.49		9.46	
R6 (2024)		6.27	11.57	7.80		9.05	
R7 (2025)		5.10	12.75	7.16		8.69	
R8 (2026)		3.94	14.29	6.57		8.35	
R9 (2027)		2.78	16.19	6.03		8.04	
R10 (2028)		1.61	18.44	5.53		7.76	
R11 (2029)		0.45	21.06	5.08		7.49	
R12 (2030)		-0.72	24.04	4.66		7.25	
R13 (2031)		-1.88	27.38	4.28		7.01	
R14 (2032)		-3.04	31.08	3.93		6.79	
R15 (2033)		-4.21	35.14	3.60		6.58	
R16 (2034)		-5.37	39.56	3.31		6.39	
R17 (2035)		-6.54	44.34	3.04		6.20	
R18 (2036)		-7.70	49.48	2.79		6.02	
R19 (2037)		-8.86	54.98	2.56		5.85	
R20 (2038)		-10.03	60.84	2.35		5.69	
R21 (2039)		-11.19	67.06	2.15		5.53	
R22 (2040)		-12.35	73.64	1.98		5.38	
R23 (2041)		-13.52	80.58	1.81		5.23	
R24 (2042)		-14.68	87.89	1.67		5.09	
R25 (2043)		-15.85	95.55	1.53		4.96	
R26 (2044)		-17.01	103.57	1.40		4.83	
R27 (2045)		-18.17	111.95	1.29		4.70	
R28 (2046)		-19.34	120.69	1.18		4.58	
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=(A^T(T-To)) \cdot B$	$Y=A \cdot \{(T-To)^B\}+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-To)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	-1.1639	0.1801	0.9178		-3.8477	
	B	2362.0593	-728.1244	16.8707		17.9142	
	C		735864.0000				
	K						7.0000
相関係数		0.9592	0.9914	0.9759		0.9979	
相関順位		4	2	3		1	
採用	-	×	×	×	×	○	×

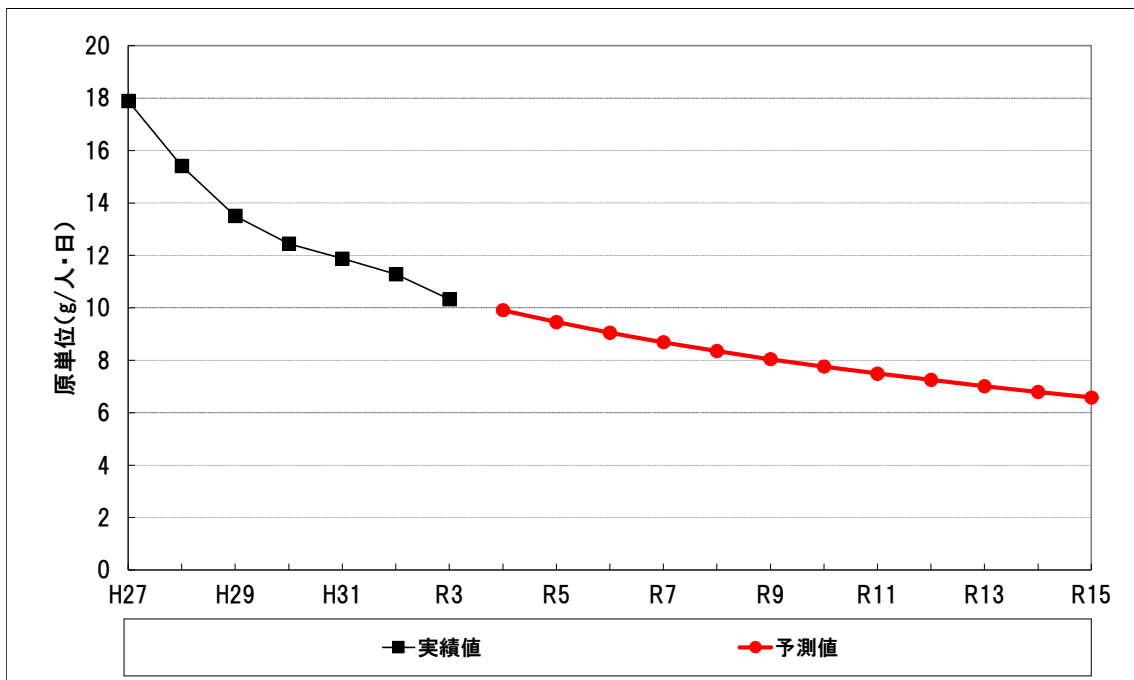


図3-21 推計結果（雑誌・雑紙（集団回収）：原単位）

・古着類（集団回収）

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

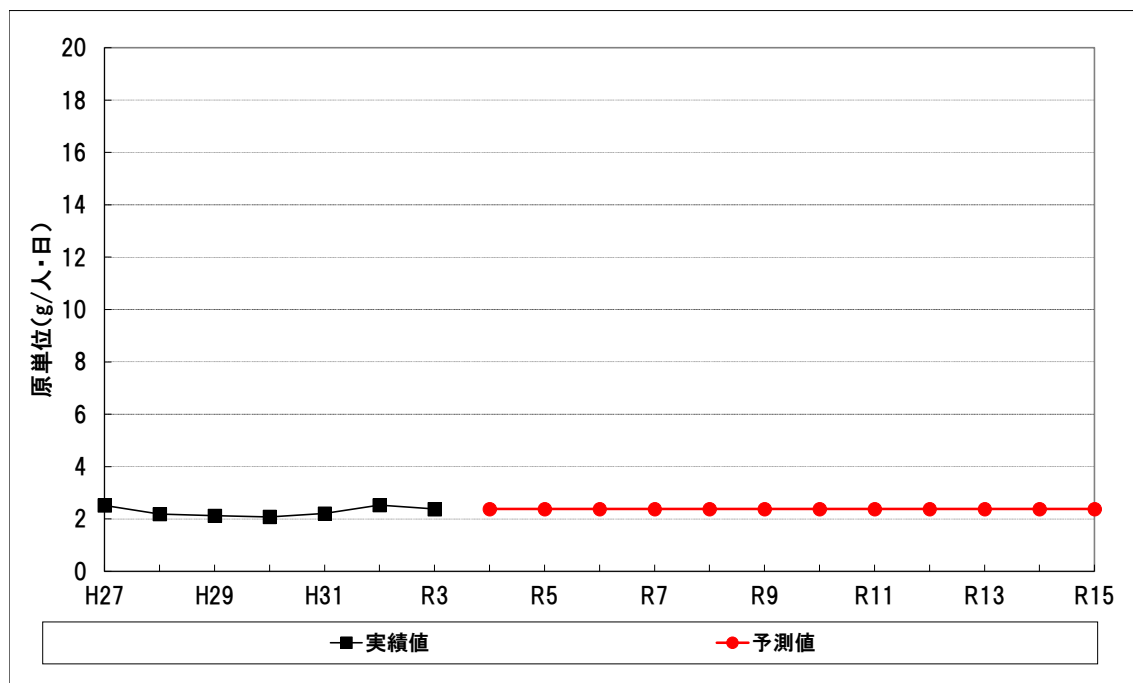


図3-22 推計結果（古着類（集団回収）：原単位）

・ダンボール（集団回収）

過去の実績から減少傾向にあるためパターン②に該当します。これまでの傾向をよく表す対数式を採用します。

表3-9 推計結果（ダンボール（集団回収）：原単位）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	16.72				-		-
H28 (2016)	15.08				-		-
H29 (2017)	13.82				-		-
H30 (2018)	13.13				-		-
H31 (2019)	12.58				-		-
R2 (2020)	11.67				-		-
R3 (2021)	11.28				-		-
R4 (2022)		9.99	11.20	10.35	-	11.34	-
R5 (2023)		9.12	11.22	9.71	-	11.03	-
R6 (2024)		8.24	11.43	9.11	-	10.76	-
R7 (2025)		7.37	11.84	8.54	-	10.51	-
R8 (2026)		6.50	12.45	8.01	-	10.28	-
R9 (2027)		5.63	13.25	7.52	-	10.07	-
R10 (2028)		4.76	14.25	7.05	-	9.88	-
R11 (2029)		3.89	15.45	6.62	-	9.70	-
R12 (2030)		3.02	16.85	6.21	-	9.53	-
R13 (2031)		2.15	18.44	5.82	-	9.37	-
R14 (2032)		1.28	20.23	5.46	-	9.22	-
R15 (2033)		0.41	22.22	5.13	-	9.08	-
R16 (2034)		-0.46	24.41	4.81	-	8.95	-
R17 (2035)		-1.33	26.79	4.51	-	8.82	-
R18 (2036)		-2.20	29.37	4.23	-	8.70	-
R19 (2037)		-3.07	32.15	3.97	-	8.58	-
R20 (2038)		-3.95	35.12	3.73	-	8.47	-
R21 (2039)		-4.82	38.29	3.49	-	8.37	-
R22 (2040)		-5.69	41.66	3.28	-	8.26	-
R23 (2041)		-6.56	45.22	3.08	-	8.17	-
R24 (2042)		-7.43	48.98	2.89	-	8.07	-
R25 (2043)		-8.30	52.94	2.71	-	7.98	-
R26 (2044)		-9.17	57.10	2.54	-	7.89	-
R27 (2045)		-10.04	61.45	2.38	-	7.81	-
R28 (2046)		-10.91	66.00	2.24	-	7.72	-
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=(A^{T-T_0}) \cdot B$	$Y=A \cdot \{(T-T_0)^B\}+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-T_0)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	-0.8707	0.0986	0.9382	-	-2.6086	-
	B	1770.5700	-398.7050	16.1737	-	16.7637	-
	C		403185.0000				
	K						8.0000
相関係数		0.9774	0.9891	0.9866	-	0.9963	-
相関順位		4	2	3	-	1	-
採用	-	×	×	×	×	○	×

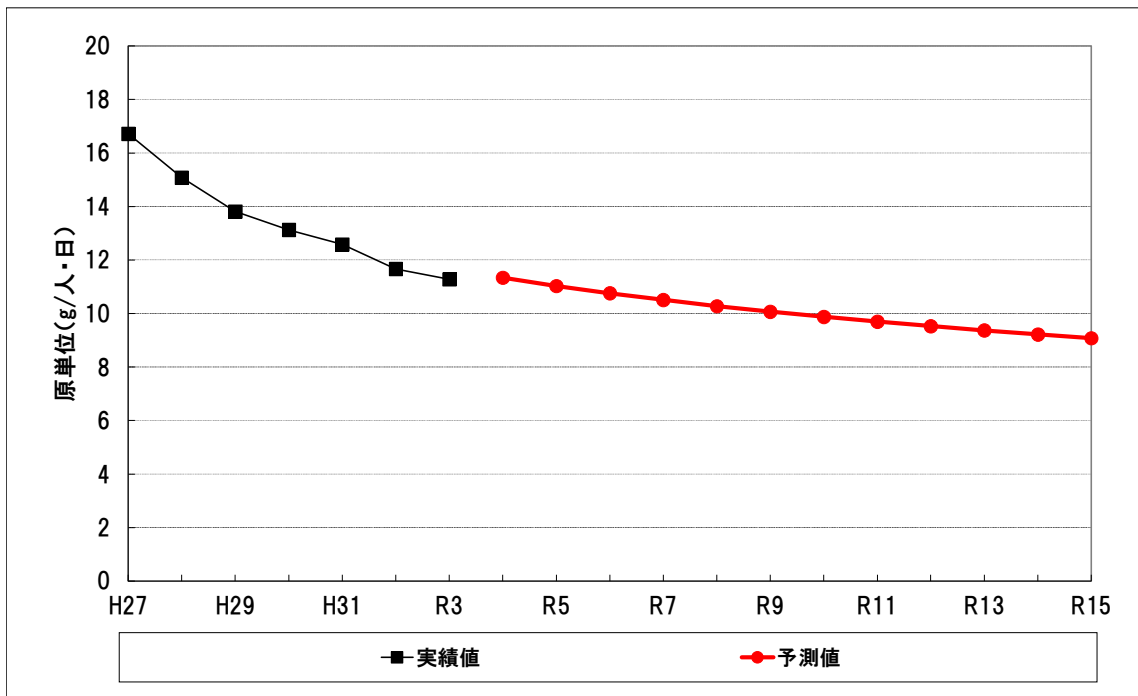


図3-23 推計結果（ダンボール（集団回収）：原単位）

・牛乳パック（集団回収）

過去の実績が横ばいの傾向を示しているためパターン⑦に該当します。よって、令和3年度実績を採用します。

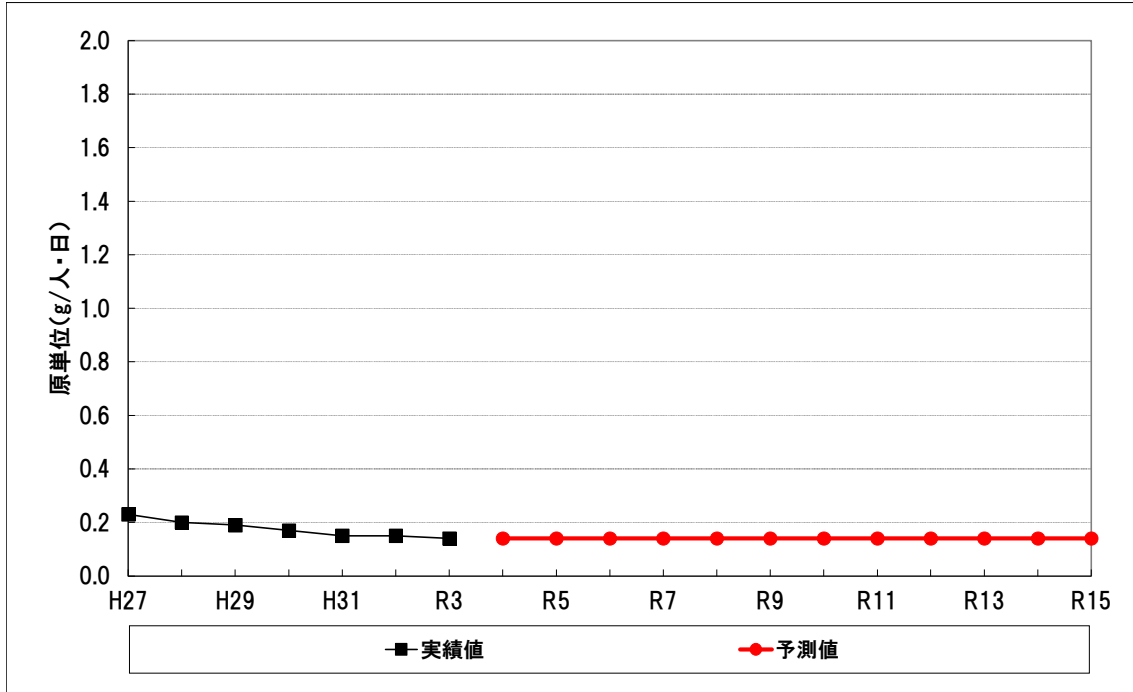


図3-24 推計結果（牛乳パック（集団回収）：原単位）

・空ビン（集団回収）

平成27年度から平成31年度にかけて減少し、その後は横ばい傾向であるためパターン④に該当します。よって、令和3年実績を採用します。

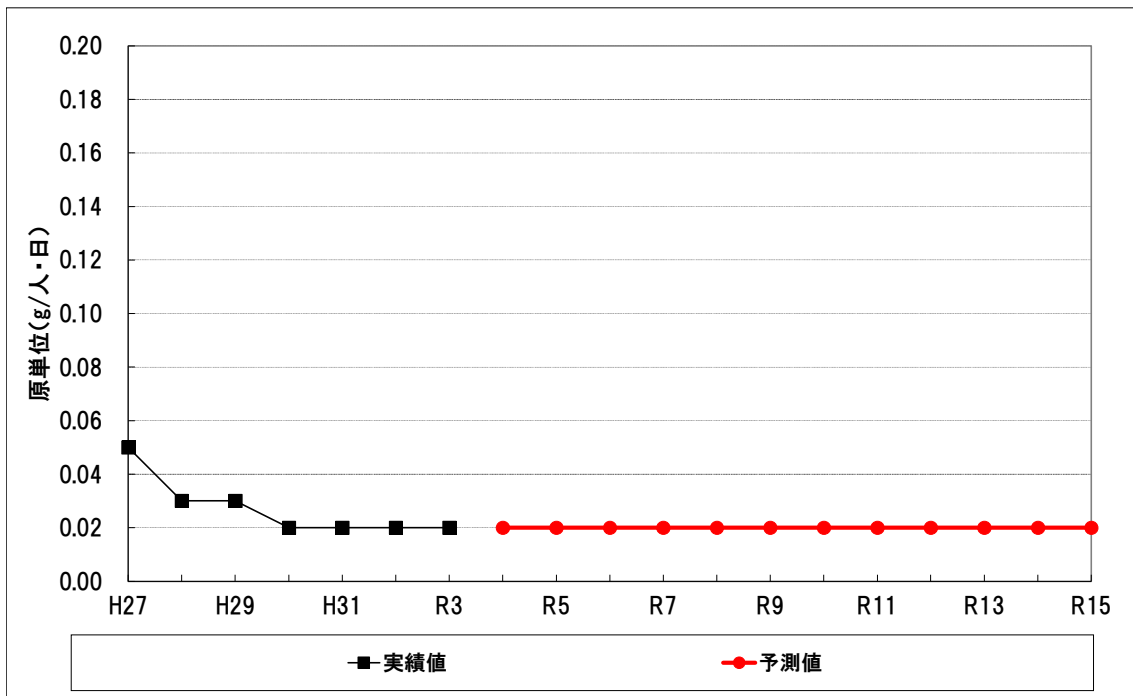


図3-25 推計結果（牛乳パック（集団回収）：原単位）

4) -2 事業系ごみ推計結果

・燃えるごみ

ごみ排出量原単位が令和2年度に減少したが、実績値は微増の傾向を示すことからパターン①に該当します。よって、これまでの傾向をよく表す直線式を採用します。

表3-10 推計結果（事業系燃えるごみ：排出量）

	実績値	直線式	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	対数式	ロジスティック式
H27 (2015)	14,246						
H28 (2016)	14,166						
H29 (2017)	14,415						
H30 (2018)	14,751						
H31 (2019)	15,070						
R2 (2020)	13,988						
R3 (2021)	14,245						
R4 (2022)		14,454	13,739	14,446		15,084	
R5 (2023)		14,464	13,213	14,456		15,143	
R6 (2024)		14,475	12,568	14,466		15,195	
R7 (2025)		14,486	11,804	14,476		15,242	
R8 (2026)		14,496	10,921	14,486		15,285	
R9 (2027)		14,507	9,919	14,495		15,324	
R10 (2028)		14,517	8,798	14,505		15,361	
R11 (2029)		14,528	7,558	14,515		15,395	
R12 (2030)		14,538	6,198	14,525		15,427	
R13 (2031)		14,549	4,719	14,535		15,457	
R14 (2032)		14,560	3,121	14,544		15,485	
R15 (2033)		14,570	1,404	14,554		15,512	
R16 (2034)		14,581	-432	14,564		15,537	
R17 (2035)		14,591	-2,387	14,574		15,561	
R18 (2036)		14,602	-4,461	14,584		15,584	
R19 (2037)		14,612	-6,655	14,594		15,606	
R20 (2038)		14,623	-8,968	14,604		15,627	
R21 (2039)		14,634	-11,400	14,614		15,648	
R22 (2040)		14,644	-13,951	14,623		15,667	
R23 (2041)		14,655	-16,621	14,633		15,686	
R24 (2042)		14,665	-19,410	14,643		15,704	
R25 (2043)		14,676	-22,318	14,653		15,721	
R26 (2044)		14,686	-25,346	14,663		15,738	
R27 (2045)		14,697	-28,493	14,673		15,754	
R28 (2046)		14,708	-31,759	14,683		15,770	
基本式		$Y=A \cdot T+B$	$Y=A \cdot T^2-B \cdot T+C$	$Y=(A^{T-T_0}) \cdot B$	$Y=A \cdot ((T-T_0)^B)+Y_0$	$Y=A \cdot \ln(T-T_0)+B$	$Y=K/(1+EXP(B \cdot A \cdot T))$
係数	A	10.5714	-59.5714	1.0007		494.4240	
	B	-6921.5714	240440.8571	14378.2380		14056.1898	
	C		-242600842.0000				
	K						14449.0000
相関係数		0.0609	0.5975	0.0605		0.1822	
相関順位		3	1	4		2	
採用	-	○	×	×	×	×	×

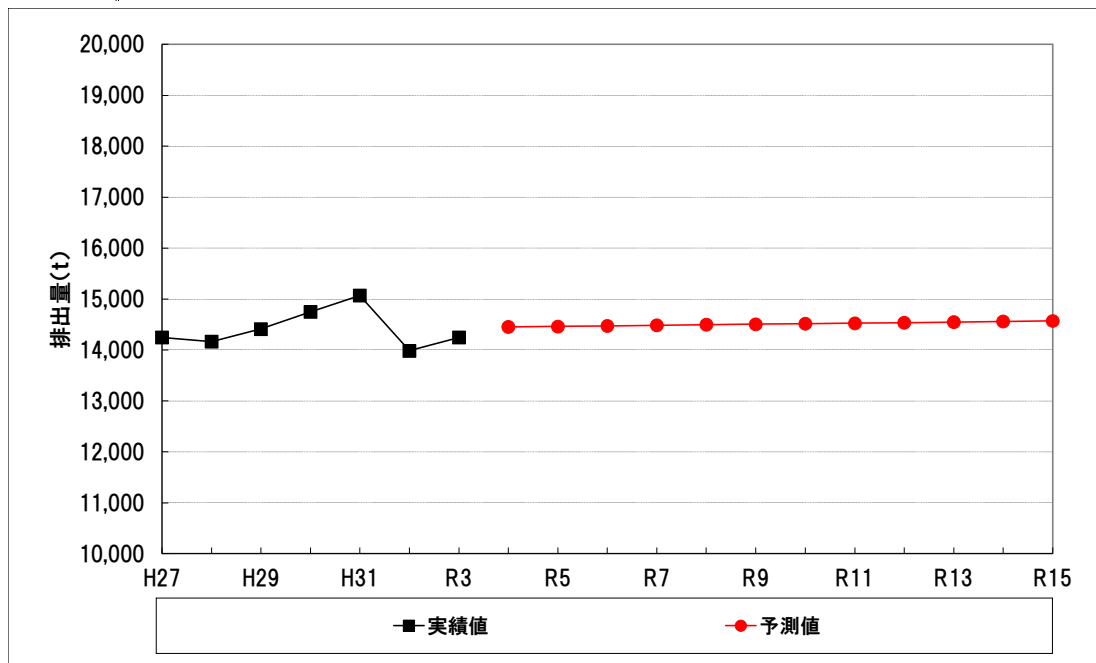


図3-26 推計結果（事業系燃えるごみ：排出量）

・燃えないごみ

ごみ排出量原単位が令和2年度及び3年度の急激に減少していることからパターン⑥に該当します。よって、令和3年実績を採用します。

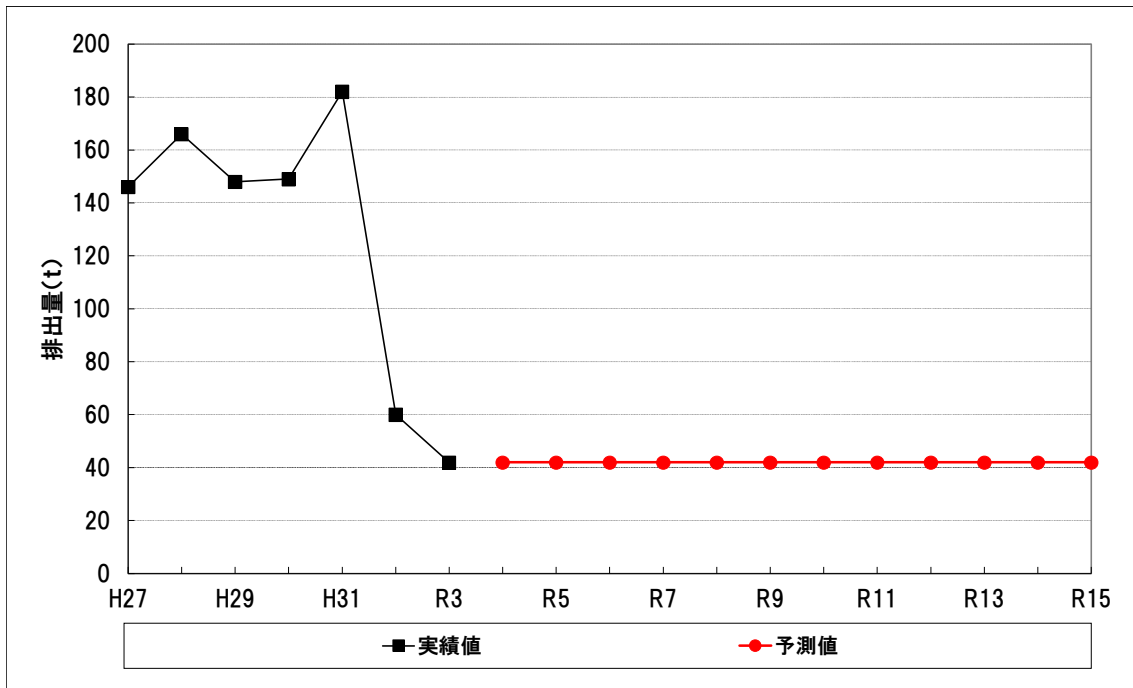


図3-27 推計結果（事業系燃えないごみ：排出量）

・埋立物

ごみ排出量原単位が令和3年度に急激に上昇しているが、これは火災等による廃棄物が大量に発生したためであり、継続性はないことから令和3年度の実績値は推計に適さないため、異常値として除外します。

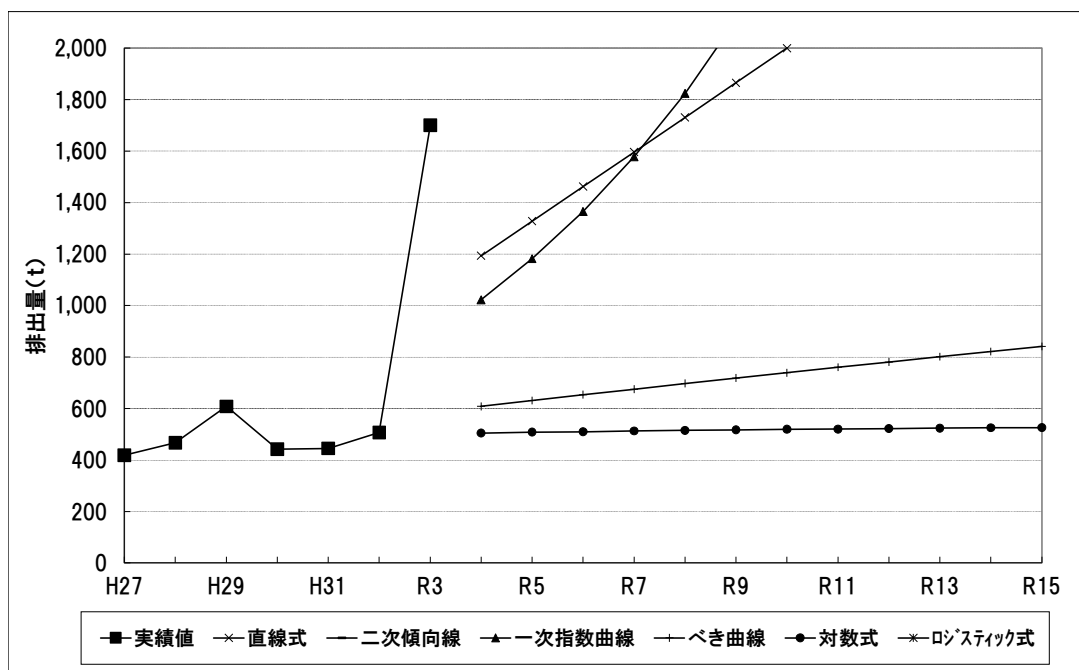


図3-28 推計結果（埋立物：排出量）

- 埋立物（令和3年度実績削除）

令和3年度実績を除外すると、過去の実績値が増減を繰り返しているためパターン③に該当します。よって、実績値の平均を採用します。

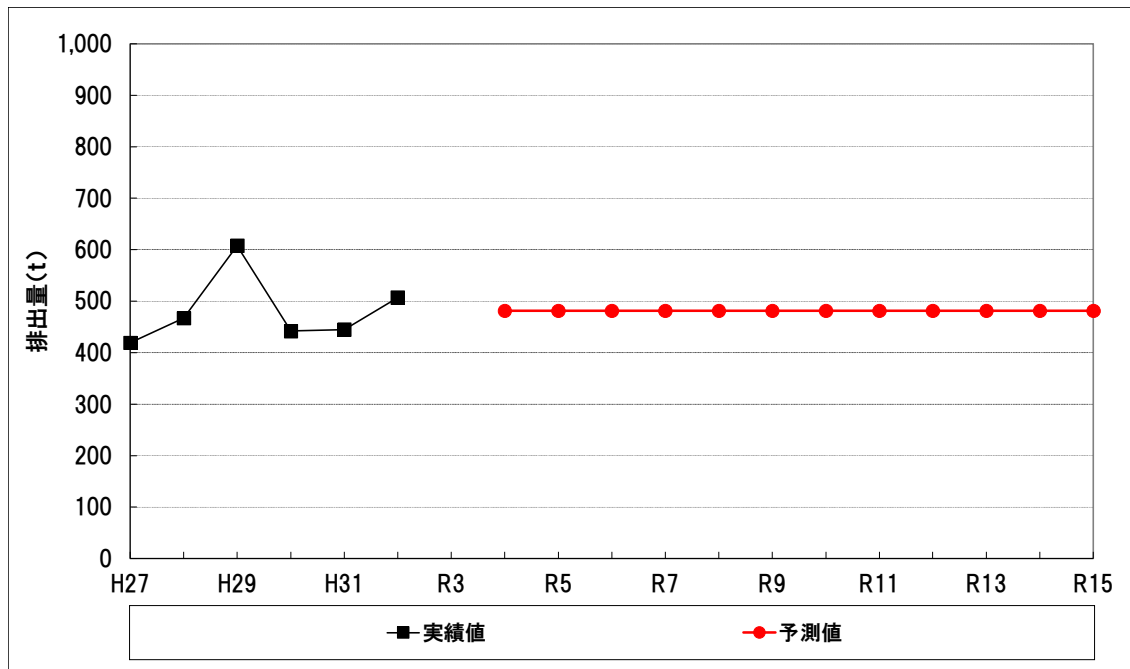


図3-29 推計結果（埋立物：排出量：令和3年度実績削除）

5) 排出量の予測

5) -1 原単位及びごみ排出量について

原単位及びごみ排出量の推計結果（現状推移）を以下に示します。

表3-11 家庭系ごみ排出原単位推計結果（現状推移）

		実績							推計									推計方法				
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)			
年間日数		366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366				
人口		163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069				
原単位 (g/人・日)	家庭系ごみ	燃えるごみ	581.17	577.92	587.29	588.66	596.89	603.58	597.81	597.26	598.34	599.30	600.17	600.96	601.69	602.36	602.99	603.58	604.13	トレンド法（対数式）		
		燃えないごみ	47.80	45.56	45.94	50.63	49.32	54.56	47.46	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	48.75	平均値	
		蛍光灯	0.20	0.20	0.19	0.20	0.20	0.22	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	R3実績	
		危険ごみ	1.07	1.04	1.08	1.05	1.06	1.17	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	R3実績	
		小型家電	0.08	0.05	0.10	0.17	0.20	0.22	0.33	0.34	0.38	0.42	0.47	0.51	0.55	0.59	0.64	0.68	0.72	0.72	トレンド法（直線式）	
		充電式小型家電							0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	R3実績	
		埋立物	0.02	0.25	0.03	0.07	0.14	2.38	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	3.99	R3実績	
		資源物	46.34	40.26	37.47	38.41	37.34	40.44	40.95	39.70	39.55	39.41	39.28	39.16	39.05	38.96	38.86	38.78	38.69	38.69		
			新聞紙	4.87	3.83	3.20	3.01	2.80	2.89	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	3.05	R3実績
			雑誌・雑紙	5.67	4.59	3.89	3.86	4.10	4.72	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	4.30	R3実績
			ダンボール	3.55	2.83	2.66	2.65	2.78	3.51	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	3.57	R3実績
			牛乳パック	0.10	0.10	0.10	0.09	0.07	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	R3実績
			古着類	3.10	2.44	2.11	2.16	2.65	3.39	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	R3実績
			ペットボトル	2.95	2.91	2.62	2.88	2.82	3.01	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	R3実績
		プラスチック容器・袋	11.52	10.70	10.45	10.33	10.21	11.14	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	R3実績	
		白色トレー	0.17	0.15	0.14	0.14	0.12	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	R3実績	
		飲食用アルミ缶	0.45	0.42	0.39	0.53	0.58	0.65	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	R3実績	
		空ビン	13.96	12.29	11.91	12.76	11.21	10.90	12.18	10.93	10.78	10.64	10.51	10.39	10.28	10.19	10.09	10.01	9.92	9.92	トレンド法（対数式）	
		小計	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95	691.45	692.42	693.28	694.07	694.78	695.44	696.06	696.64	697.19	697.69	697.69		
		集団回収	新聞紙	36.93	31.78	27.03	24.82	22.96	17.54	16.64	18.75	17.70	16.77	15.92	14.44	13.78	13.17	12.60	12.06	12.06	トレンド法（対数式）	
			雑誌・雑紙	17.89	15.42	13.51	12.45	11.88	11.28	10.33	9.91	9.46	9.05	8.69	8.35	8.04	7.76	7.49	7.25	7.01	7.01	トレンド法（対数式）
			ダンボール	16.67	15.08	13.82	13.13	12.54	11.67	11.28	11.34	11.03	10.76	10.51	10.28	10.07	9.88	9.70	9.53	9.37	9.37	トレンド法（対数式）
			牛乳パック	0.23	0.20	0.19	0.17	0.15	0.15	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	R3実績
	古着類		2.52	2.19	2.13	2.08	2.20	2.53	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	R3実績	
	空ビン		0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	R3実績	
	小計	74.29	64.70	56.71	52.67	49.75	43.19	40.79	42.54	40.73	39.12	37.66	36.32	35.09	33.96	32.90	31.92	30.98	30.98			
	家庭系ごみ計（集団回収除く）	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95	691.45	692.42	693.28	694.07	694.78	695.44	696.06	696.64	697.19	697.69	697.69			
	家庭系ごみ計（集団回収含む）	750.97	729.98	728.81	731.86	734.90	745.76	732.74	733.99	733.15	732.40	731.73	731.10	730.53	730.02	729.54	729.11	728.67	728.67			

表3-12 事業系ごみ排出量の推計結果及び原単位（現状推移）

		実績							推計									推計方法			
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)		
年間日数		366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366			
人口		163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069			
ごみ排出量 (t)	事業系ごみ	燃えるごみ	14,246	14,166	14,415	14,751	15,070	13,988	14,245	14,454	14,464	14,475	14,486	14,496	14,507	14,517	14,528	14,538	14,549	トレンド法（直線式）	
		燃えないごみ	146	166	148	149	182	60	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	R3実績
		埋立物	419	467	608	442	445	507	1,701	481	481	481	481	481	481	481	481	481	481	481	R3実績
		計	14,811	14,799	15,171	15,342	15,697	14,555	15,988	14,977	14,987	14,998	15,009	15,019	15,030	15,040	15,051	15,061	15,072	15,072	
原単位 (g/人・日)	事業系ごみ	燃えるごみ	237.54	238.22	243.82	250.97	257.2	240.81	247.21	252.62	253.92	256.64	258.69	260.94	262.51	265.56	267.92	270.32	272.14	排出量/日数/人口	
		燃えないごみ	2.43	2.79	2.5	2.54	3.11	1.03	0.73	0.73	0.74	0.74	0.75	0.76	0.76	0.77	0.77	0.78	0.79	排出量/日数/人口	
		埋立物	6.99	7.85	10.28	7.52	7.59	8.73	29.52	8.41	8.44	8.53	8.59	8.66	8.70	8.80	8.87	8.94	9.00	排出量/日数/人口	
		計	247	249	257	261	268	251	277	262	263	266	268	270	272	275	278	280	282	282	

表3-13 家庭系及び事業系ごみ排出量推計結果一覧（現状推移）

		実績						推計												
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)		
年間日数		366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366		
人口		163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069		
ごみ排出量 (t)	家庭系ごみ	燃えるごみ	34,855	34,366	34,721	34,599	34,973	35,061	34,448	34,173.01	34,084.42	33,801.93	33,606.75	33,384.91	33,249.92	32,929.30	32,696.77	32,461.53	32,297.55	
		燃えないごみ	2,867	2,709	2,716	2,976	2,890	3,169	2,735	2,789.29	2,777.04	2,749.61	2,729.77	2,708.19	2,693.97	2,665.02	2,643.44	2,621.86	2,606.24	
		蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	
		危険ごみ	64	62	64	62	62	68	66	65.80	65.51	64.86	64.39	63.89	63.55	62.87	62.36	61.85	61.48	
		小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	34.70	36.57	38.49	
		充電式小型家電							3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67	
		埋立物	1	15	2	4	8	138	230	228.29	227.29	225.05	223.42	221.66	220.49	218.12	216.36	214.59	213.31	
		資源物	2,779	2,394	2,215	2,257	2,187	2,349	2,361	2,271.47	2,252.97	2,222.83	2,199.51	2,175.44	2,157.95	2,129.83	2,107.14	2,085.65	2,068.43	
			新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	174.51	173.74	172.03	170.79	169.44	168.55	166.73	165.38	164.03	163.06
			雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	246.03	244.95	242.53	240.78	238.88	237.62	235.07	233.16	231.26	229.88
			ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	204.26	203.36	201.36	199.90	198.32	197.28	195.16	193.58	192.00	190.86
			牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35
			古着類	186	145	125	127	155	197	180	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80
			ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61
		プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	
		白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	
		飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	
		空ビン	837	731	704	750	657	633	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34	
		小計	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	39,562.19	39,443.69	39,102.63	38,864.72	38,596.87	38,430.63	38,051.60	37,774.87	37,496.03	37,299.40	
		新聞紙	2,215	1,890	1,598	1,459	1,345	1,019	959	1,072.81	1,012.73	945.87	891.45	841.62	797.97	753.31	714.14	677.65	644.74	
		雑誌・雑紙	1,073	917	799	732	696	655	595	567.01	538.89	510.44	486.60	463.86	444.30	424.22	406.14	389.92	374.76	
		ダンボール	1,000	897	817	772	735	678	650	648.83	628.32	606.89	588.51	571.08	556.48	540.11	525.98	512.54	500.93	
		牛乳パック	14	12	11	10	9	9	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	
		古着類	151	130	126	122	129	147	137	136.17	135.58	134.24	133.27	132.22	131.52	130.11	129.05	128.00	127.24	
		空ビン	3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07	
		小計	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350	2,433.97	2,324.64	2,206.47	2,108.79	2,017.67	1,939.12	1,856.49	1,783.98	1,716.72	1,656.22	
		家庭系ごみ計（集団回収除く）	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	39,562.19	39,443.69	39,102.63	38,864.72	38,596.87	38,430.63	38,051.60	37,774.87	37,496.03	37,299.40	
	家庭系ごみ計（集団回収含む）	45,039	43,409	43,088	43,016	43,059	43,320	42,224	41,996.16	41,768.33	41,309.10	40,973.51	40,614.54	40,369.75	39,908.09	39,558.85	39,212.75	38,955.62		
事業系ごみ	燃えるごみ	14,246	14,166	14,415	14,751	15,070	13,988	14,245	14,454	14,464	14,475	14,486	14,496	14,507	14,517	14,528	14,538	14,549		
	燃えないごみ	146	166	148	149	182	60	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42		
	蛍光灯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	危険ごみ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	埋立物	502	557	700	573	564	369	1,701	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	481.00	
	資源物	76	74	71	79	64	78	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		新聞紙	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		雑誌・雑紙	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		ダンボール	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		牛乳パック	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		古着類	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		ペットボトル	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		プラスチック容器・袋	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		白色トレー	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	飲食用アルミ缶	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	空ビン	76	74	71	79	64	78	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	小計	14,970	14,963	15,334	15,552	15,880	14,495	15,988	14,977	14,987	14,998	15,009	15,019	15,030	15,040	15,051	15,061	15,072		
	総ごみ量	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212	56,973.02	56,755.76	56,307.10	55,982.08	55,633.68	55,399.46	54,948.38	54,609.71	54,274.18	54,027.61		
	総ごみ量（集団回収除く）	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	54,539.05	54,431.12	54,100.63	53,873.29	53,616.01	53,460.34	53,091.89	52,825.73	52,557.46	52,371.39		

表3-14 ごみ排出量推計結果（家庭系+事業系）（現状推移）

年度	実績							推計											
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)		
人口	163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069		
ごみ排出量 (t)	燃えるごみ	49,101	48,532	49,136	49,350	50,043	49,049	48,693	48,626.87	48,548.85	48,276.93	48,092.32	47,756.63	47,446.59	47,224.63	46,999.96	46,846.54		
	燃えないごみ	3,013	2,875	2,864	3,125	3,072	3,229	2,777	2,831.29	2,819.04	2,791.61	2,771.77	2,750.19	2,735.97	2,707.02	2,685.44	2,663.86	2,648.24	
	蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	
	危険ごみ	64	62	64	62	62	68	66	65.80	65.51	64.86	64.39	63.89	63.55	62.87	62.36	61.85	61.48	
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	34.70	36.57	38.49	
	充電式小型家電							3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67	
	埋立物	503	572	702	577	572	507	1,931	709.29	708.29	706.05	704.42	702.66	701.49	699.12	697.36	695.59	694.31	
	資源物	2,855	2,468	2,286	2,336	2,251	2,427	2,361	2,271.47	2,252.97	2,222.83	2,199.51	2,175.44	2,157.95	2,129.83	2,107.14	2,085.65	2,068.43	
		新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	174.51	173.74	172.03	170.79	169.44	168.55	166.73	165.38	164.03	163.06
		雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	246.03	244.95	242.53	240.78	238.88	237.62	235.07	233.16	231.26	229.88
		ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	204.26	203.36	201.36	199.90	198.32	197.28	195.16	193.58	192.00	190.86
		牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35
		古着類	186	145	125	127	155	197	180	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80
		ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61
		プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83
		白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48
		飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22
		空ビン	913	805	775	829	721	711	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34
		小計	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	54,539.05	54,431.12	54,100.63	53,873.29	53,616.01	53,460.34	53,091.89	52,825.73	52,557.46	52,371.39
		集団 回収	新聞紙	2,215	1,890	1,598	1,459	1,345	1,019	959	1,072.81	1,012.73	945.87	891.45	841.62	797.97	753.31	714.14	677.65
	雑誌・雑紙		1,073	917	799	732	696	655	595	567.01	538.89	510.44	486.60	463.86	444.30	424.22	406.14	389.92	374.76
	ダンボール		1,000	897	817	772	735	678	650	648.83	628.32	606.89	588.51	571.08	556.48	540.11	525.98	512.54	500.93
	牛乳パック		14	12	11	10	9	9	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48
	古着類		151	130	126	122	129	147	137	136.17	135.58	134.24	133.27	132.22	131.52	130.11	129.05	128.00	127.24
	空ビン		3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07
	小計	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350	2,433.97	2,324.64	2,206.47	2,108.79	2,017.67	1,939.12	1,856.49	1,783.98	1,716.72	1,656.22	
	総ごみ量	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212	56,973.02	56,755.76	56,307.10	55,982.08	55,633.68	55,399.46	54,948.38	54,609.71	54,274.18	54,027.61	
	総ごみ量（集団回収を除く）	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	54,539.05	54,431.12	54,100.63	53,873.29	53,616.01	53,460.34	53,091.89	52,825.73	52,557.46	52,371.39	
	資源化率（%）	14	13	11	11	11	11	10	10.32	10.13	9.93	9.77	9.61	9.47	9.33	9.20	9.08	8.97	
	最終処分量（t）	8,096	7,719	7,844	7,775	7,862	7,665	8,767	7,557.85	7,542.75	7,497.53	7,466.22	7,430.95	7,409.44	7,359.00	7,322.48	7,285.63	7,260.04	
	1人1日当たりごみ排出量（g/人・日）	926	917	931	944	956	952	969	953	956	959	962	965	967	971	974	977	980	

表3-15 各施設におけるごみ処理量推計結果（現状推移）

		実績							推計									備考	
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)
焼却処理 (t)	直接焼却	48,733	48,111	48,650	48,827	49,470	48,298	47,960	47,892.60	47,815.76	47,547.95	47,366.13	47,158.05	47,035.51	46,730.14	46,511.54	46,290.26	46,139.16	燃えるごみ量×0.9849（令和3年度燃えるごみ中の直接焼却量の割合）
	粗大可燃ごみ	368	421	486	523	573	751	733	734.27	733.09	728.98	726.19	723.00	721.13	716.44	713.09	709.70	707.38	燃えるごみ量×0.0150（令和3年度燃えるごみ中の粗大可燃量の割合）
	破砕可燃	966	904	868	842	821	767	679	692.25	689.26	682.55	677.70	672.42	668.94	661.87	656.59	651.31	647.49	燃えないごみ量×0.2445（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃量の割合）
	小計	50,067	49,436	50,004	50,192	50,864	49,816	49,372	49,319.12	49,238.11	48,959.48	48,770.02	48,553.47	48,425.58	48,108.45	47,881.22	47,651.27	47,494.03	
破砕選別処理 (t)	破砕鉄・アルミ	961	935	903	997	951	1,129	930	948.20	944.10	934.91	928.27	921.04	916.28	906.58	899.35	892.13	886.90	燃えないごみ量×0.3349（令和3年度燃えないごみ中の破砕鉄・アルミの割合）
	破砕可燃	966	904	868	842	821	767	679	692.25	689.26	682.55	677.70	672.42	668.94	661.87	656.59	651.31	647.49	燃えないごみ量×0.2445（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃量の割合）
	破砕埋立	1,029	992	1,031	1,184	1,194	1,215	1,043	1,063.43	1,058.83	1,048.53	1,041.08	1,032.97	1,027.63	1,016.76	1,008.65	1,000.55	994.68	燃えないごみ量×0.3756（令和3年度燃えないごみ中の破砕埋立の割合）
手選別処理 (t)	粗大鉄・アルミ	57	44	62	102	106	118	125	127.41	126.86	125.62	124.73	123.76	123.12	121.82	120.84	119.87	119.17	燃えないごみ量×0.0450（令和3年度燃えないごみ中の粗大鉄・アルミの割合）
	小計	3,013	2,875	2,864	3,125	3,072	3,229	2,777	2,831.29	2,819.05	2,791.61	2,771.78	2,750.19	2,735.97	2,707.03	2,685.43	2,663.86	2,648.24	

		実績							推計									備考		
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)	
圧縮梱包 (t)	プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	プラスチック容器・袋	
	ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61	ペットボトル	
破砕処理 (t)	飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	飲食用アルミ缶	
	スプレー缶	34	37	41	35	35	43	48	47.86	47.65	47.17	46.83	46.47	46.22	45.73	45.35	44.98	44.71	危険ごみ量×0.7273（令和3年度危険ごみ中のスプレー缶の割合）	
手選別処理 (t)	空ビン	913	805	775	829	721	711	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34	空ビン	
	白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	白色トレー	
	充電式小型家電							3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67	充電式小型家電	
一時保管 (t)	新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	174.51	173.74	172.03	170.79	169.44	168.55	166.73	165.38	164.03	163.06	新聞紙（資源物）	
	雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	246.03	244.95	242.53	240.78	238.88	237.62	235.07	233.16	231.26	229.88	雑誌・雑紙（資源物）	
	ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	204.26	203.36	201.36	199.90	198.32	197.28	195.16	193.58	192.00	190.86	ダンボール（資源物）	
	牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35	牛乳パック（資源物）	
	古着類	186	145	125	127	155	197	180	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80	古着類（資源物）	
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	34.70	36.57	38.49	小型家電	
	蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	11.23	蛍光灯
	乾電池	30	25	23	27	27	25	18	17.94	17.86	17.69	17.56	17.42	17.33	17.14	17.01	16.87	16.77	危険ごみ量×0.2727（令和3年度危険ごみ中の乾電池の割合）	
	合計	2,936	2,545	2,367	2,420	2,337	2,521	2,461	2,371.60	2,354.94	2,326.04	2,304.78	2,282.11	2,266.25	2,239.16	2,218.30	2,198.05	2,182.30		

		実績							推計									備考	
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)
埋立処分 (t)	焼却灰	6,564	6,155	6,111	6,014	6,096	5,943	5,793	5,785.13	5,775.63	5,742.95	5,720.72	5,695.32	5,680.32	5,643.12	5,616.47	5,589.49	5,571.05	焼却処理量×0.1173（令和3年度焼却灰に対する焼却灰の割合）
	破砕埋立	1,029	992	1,031	1,184	1,194	1,215	1,043	1,063.43	1,058.83	1,048.53	1,041.08	1,032.97	1,027.63	1,016.76	1,008.65	1,000.55	994.68	燃えないごみ量×0.3756（令和3年度燃えないごみ中の破砕埋立の割合）
	直接埋立	503	572	702	577	572	507	1,931	709.29	708.29	706.05	704.42	702.66	701.49	699.12	697.36	695.59	694.31	埋立物量
合計	8,096	7,719	7,844	7,775	7,862	7,665	8,767	7,557.85	7,542.75	7,497.53	7,466.22	7,430.95	7,409.44	7,359.00	7,322.48	7,285.63	7,260.04		

		実績							推計									備考	
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)		R13年度 (2031)
直接資源化 (t)	新聞紙	2,507	2,118	1,787	1,636	1,509	1,187	1,135	1,247.32	1,186.47	1,117.90	1,062.24	1,011.06	966.52	920.04	879.52	841.68	807.80	新聞紙（資源物+集団回収）
	雑誌・雑紙	1,413	1,190	1,029	959	936	929	843	813.04	783.84	752.97	727.38	702.74	681.92	659.29	639.30	621.18	604.64	雑誌・雑紙（資源物+集団回収）
	ダンボール	1,213	1,065	974	928	898	882	856	853.09	831.68	808.25	788.41	769.40	753.76	735.27	719.56	704.54	691.79	ダンボール（資源物+集団回収）
	牛乳パック	20	18	17	15	13	14	14	13.73	13.68	13.54	13.44	13.34	13.27	13.12	13.01	12.91	12.83	牛乳パック（資源物+集団回収）
	古着類	337	275	251	249	284	344	317	314.68	313.31	310.22	307.98	305.54	303.93	300.67	298.23	295.80	294.04	古着類（資源物+集団回収）
	空ビン（集団回収）	3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07	空ビン（集団回収）
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	34.70	36.57	38.49	小型家電
	蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	蛍光灯
	乾電池	30	25	23	27	27	25	18	17.94	17.86	17.69	17.56	17.42	17.33	17.14	17.01	16.87	16.77	危険ごみ量×0.2727（令和3年度危険ごみ中の乾電池の割合）
	小計	5,540	4,708	4,100	3,837	3,692	3,408	3,215	3,292.41	3,181.59	3,057.23	2,956.21	2,860.61	2,779.83	2,690.35	2,613.80	2,541.92	2,478.66	
中間処理後売却 (t)	破砕可燃鉄	2	2	2	2	2	1	1	1.02	1.01	1.00	1.00	0.99	0.98	0.97	0.97	0.96	0.95	燃えないごみ量×0.00036（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃鉄の割合）
	破砕鉄・アルミ	961	935	903	997	951	1,129	930	948.20	944.10	934.91	928.27	921.04	916.28	906.58	899.35	892.13	886.90	燃えないごみ量×0.3349（令和3年度燃えないごみ中の破砕鉄・アルミの割合）
	粗大鉄・アルミ	71	44	62	102	106	118	125	127.41	126.86	125.62	124.73	123.76	123.12	121.82	120.84	119.87	119.17	燃えないごみ量×0.04501（令和3年度燃えないごみ中の粗大鉄・アルミの割合）
	飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	飲食用アルミ缶
	空ビン（透明・茶）	740	657	625	667	566	571	564	502.42	493.35	482.14	472.81	463.71	456.40	447.54	439.56	432.51	426.08	空ビン量×0.8034（令和3年度空ビン中の空ビン（透明・茶）の割合）
	スプレー缶	34	37	41	35	35	43	48	47.86	47.65	47.17	46.83	46.47	46.22	45.73	45.35	44.98	44.71	危険ごみ量×0.7273（令和3年度危険ごみ中のスプレー缶の割合）
小計	1,835	1,700	1,656	1,834	1,694	1,900	1,705	1,663.53	1,649.43	1,626.94	1,609.48	1,591.52	1,578.37	1,557.63	1,540.77	1,524.87	1,512.03		
指定法人へ委託 (t)	プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	プラスチック容器・袋
	ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61	ペットボトル
	白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	白色トレー
	空ビン（その他）	173																	

5) -2 施策推進後の原単位及びごみ排出量について
 施策推進後の原単位及びごみ排出量の推計結果を以下に示します。

表3-16 家庭系及び事業系ごみ排出原単位推計結果（施策推進後）

		実績							推計											
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)		
年間日数		366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	366	366	365	365	366			
人口		163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069		
原単位 (g/人・日)	家庭系ごみ	燃えるごみ	581.17	577.92	587.29	588.66	596.89	603.58	597.81	578.85	559.89	540.93	521.97	503.01	496.44	489.87	483.30	476.73	470.16	
		燃えないごみ	47.80	45.56	45.94	50.63	49.32	54.56	47.46	46.36	45.26	44.16	43.06	41.96	40.86	39.71	38.56	37.41	36.26	
		蛍光灯	0.20	0.20	0.19	0.20	0.20	0.22	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
		危険ごみ	1.07	1.04	1.08	1.05	1.06	1.17	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15
		小型家電	0.08	0.05	0.10	0.17	0.20	0.22	0.33	0.34	0.38	0.42	0.47	0.51	0.55	0.59	0.60	0.68	0.72	0.72
		充電式小型家電							0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
		埋立物	0.02	0.25	0.03	0.07	0.14	2.38	3.99	3.76	3.53	3.30	3.07	2.84	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61	2.61
		資源物	46.34	40.26	37.47	38.41	37.34	40.44	40.95	43.80	47.75	51.71	55.68	59.66	63.65	63.56	63.46	63.38	63.29	63.29
			新聞紙	4.87	3.83	3.20	3.01	2.80	2.89	3.05	4.20	5.35	6.50	7.65	8.80	9.95	9.95	9.95	9.95	9.95
			雑誌・雑紙	5.67	4.59	3.89	3.86	4.10	4.72	4.30	5.91	7.52	9.13	10.74	12.35	13.96	13.96	13.96	13.96	13.96
			ダンボール	3.55	2.83	2.66	2.65	2.78	3.51	3.57	4.91	6.25	7.59	8.93	10.27	11.61	11.61	11.61	11.61	11.61
			牛乳パック	0.10	0.10	0.10	0.09	0.07	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
			古着類	3.10	2.44	2.11	2.16	2.65	3.39	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12	3.12
			ペットボトル	2.95	2.91	2.62	2.88	2.82	3.01	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21	3.21
		プラスチック容器・袋	11.52	10.70	10.45	10.33	10.21	11.14	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	10.64	
		白色トレイ	0.17	0.15	0.14	0.14	0.12	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	
		飲食用アルミ缶	0.45	0.42	0.39	0.53	0.58	0.65	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	
		空ビン	13.96	12.29	11.91	12.76	11.21	10.90	12.18	10.93	10.78	10.64	10.51	10.39	10.28	10.19	10.09	10.01	9.92	
		小計	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95	674.52	658.22	641.93	625.66	609.39	605.52	597.75	589.94	582.22	574.45	
		集団回収	新聞紙	36.93	31.78	27.03	24.82	22.96	17.54	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	16.64	
			雑誌・雑紙	17.89	15.42	13.51	12.45	11.88	11.28	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	10.33	
			ダンボール	16.67	15.08	13.82	13.13	12.54	11.67	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	11.28	
			牛乳パック	0.23	0.20	0.19	0.17	0.15	0.15	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	
			古着類	2.52	2.19	2.13	2.08	2.20	2.53	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	2.38	
			空ビン	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	
		小計	74.29	64.70	56.71	52.67	49.75	43.19	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	40.79	
		家庭系ごみ計	676.68	665.28	672.10	679.19	685.15	702.57	691.95	674.52	658.22	641.93	625.66	609.39	605.52	597.75	589.94	582.22	574.45	
	家庭系ごみ計（集団回収含む）	750.97	729.98	728.81	731.86	734.90	745.76	732.74	715.31	699.01	682.72	666.45	650.18	646.31	638.54	630.73	623.01	615.24		
事業系ごみ	燃えるごみ	237.54	238.22	243.82	250.97	257.20	240.81	247.21	239.37	231.53	223.69	215.85	208.01	205.30	202.59	199.88	197.17	194.46		
	燃えないごみ	2.43	2.79	2.50	2.54	3.11	1.03	0.73	0.68	0.63	0.58	0.52	0.47	0.42	0.42	0.42	0.42	0.42		
	蛍光灯	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	危険ごみ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	埋立物	8.37	9.37	11.84	9.75	9.63	6.35	29.52	5.89	5.43	4.97	4.51	4.05	3.59	3.59	3.59	3.59	3.59		
	資源物	1.27	1.24	1.20	1.34	1.09	1.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
		新聞紙	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		雑誌・雑紙	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		ダンボール	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		牛乳パック	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		古着類	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		ペットボトル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		プラスチック容器・袋	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		白色トレイ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		飲食用アルミ缶	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		空ビン	1.27	1.24	1.20	1.34	1.09	1.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		小計	249.61	251.62	259.36	264.60	271.03	249.53	277.46	245.94	237.59	229.24	220.88	212.53	209.31	206.60	203.89	201.18	198.47	
	事業系ごみ計	249.61	251.62	259.36	264.60	271.03	249.53	277.46	245.94	237.59	229.24	220.88	212.53	209.31	206.60	203.89	201.18	198.47		
総ごみ量（集団回収を含む）（g/人・日）		1,000.58	981.60	988.17	996.46	1,005.93	995.29	1,010.20	961.25	936.60	911.96	887.33	862.71	855.62	845.14	834.62	824.19	813.71		
総ごみ量（集団回収を除く）（g/人・日）		926.29	916.90	931.46	943.79	956.18	952.10	969.41	920.46	895.81	871.17	846.54	821.92	814.83	804.35	793.83	783.40	772.92		

表3-17 家庭系及び事業系ごみ排出量推計結果（施策推進後）

		実績							推計										
		H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)	
年間日数		366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	366	365	365	365	366	366	
人口		163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069	
ごみ排出量 (t)	家庭系ごみ	燃えるごみ	34,855	34,366	34,721	34,599	34,973	35,061	34,448	33,119.66	31,894.12	30,509.73	29,227.91	27,943.53	27,433.71	26,779.79	26,206.65	25,639.33	25,135.34
		燃えないごみ	2,867	2,709	2,716	2,976	2,890	3,169	2,735	2,652.55	2,578.23	2,490.73	2,411.16	2,330.99	2,257.96	2,170.83	2,090.89	2,011.97	1,938.51
		蛍光管	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23
		危険ごみ	64	62	64	62	62	68	66	65.80	65.51	64.86	64.39	63.89	63.55	62.87	62.36	61.85	61.48
		小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	32.53	36.57	38.49
		充電式小型家電							3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67
		埋立物	1	15	2	4	8	138	230	215.13	201.09	186.13	171.91	157.77	144.23	142.68	141.53	140.37	139.53
		資源物	2,779	2,394	2,215	2,257	2,187	2,349	2,361	2,506.06	2,720.09	2,916.57	3,117.83	3,314.27	3,517.37	3,474.65	3,441.07	3,408.69	3,383.58
		新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	240.31	304.76	366.62	428.36	488.86	549.85	543.94	539.53	535.13	531.94
		雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	338.15	428.38	514.95	601.39	686.08	771.44	763.15	756.97	750.79	746.32
		ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	280.93	356.03	428.09	500.04	570.53	641.58	634.69	629.55	624.41	620.69
		牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35
		古着類	186	145	125	127	155	197	180	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80
		ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61
	プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	
	白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	
	飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	
	空ビン	837	731	704	750	657	633	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34	
	小計	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	38,593.53	37,495.50	36,206.37	35,034.08	33,853.23	33,461.57	32,677.28	31,989.13	31,312.76	30,710.83	
	集団回収	新聞紙	2,215	1,890	1,598	1,459	1,345	1,019	959	952.08	947.90	938.54	931.76	924.40	919.54	909.66	902.29	894.93	889.60
	雑誌・雑紙	1,073	917	799	732	696	655	595	591.04	588.45	582.64	578.43	573.86	570.84	564.71	560.14	555.56	552.25	
	ダンボール	1,000	897	817	772	735	678	650	645.40	642.56	636.22	631.63	626.63	623.34	616.65	611.65	606.66	603.04	
	牛乳パック	14	12	11	10	9	9	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	
	古着類	151	130	126	122	129	147	137	136.17	135.58	134.24	133.27	132.22	131.52	130.11	129.05	128.00	127.24	
	空ビン	3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07	
	小計	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350	2,333.84	2,323.61	2,300.67	2,284.05	2,266.00	2,254.09	2,229.87	2,211.80	2,193.76	2,180.68	
	家庭系ごみ計	40,583	39,561	39,735	39,920	40,144	40,811	39,874	38,593.53	37,495.50	36,206.37	35,034.08	33,853.23	33,461.57	32,677.28	31,989.13	31,312.76	30,710.83	
家庭系ごみ計（集団回収含む）	45,039	43,409	43,088	43,016	43,059	43,320	42,224	40,927.37	39,819.11	38,507.04	37,318.13	36,119.23	35,715.66	34,907.15	34,200.93	33,506.52	32,891.51		
事業系ごみ	燃えるごみ	14,246	14,166	14,415	14,751	15,070	13,988	14,245	13,695.87	13,189.10	12,616.64	12,086.60	11,555.50	11,345.06	11,075.02	10,838.37	10,604.13	10,396.08	
	燃えないごみ	146	166	148	149	182	60	42	38.82	35.71	32.45	29.32	26.23	23.24	22.99	22.80	22.62	22.48	
	埋立物	502	557	700	573	564	369	1,701	337.00	309.32	280.32	252.54	224.99	198.39	196.26	194.67	193.08	191.93	
	資源物	76	74	71	79	64	78	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	新聞紙	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	雑誌・雑紙	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	ダンボール	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	牛乳パック	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	古着類	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	ペットボトル	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	プラスチック容器・袋	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	白色トレー	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	飲食用アルミ缶	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	空ビン	76	74	71	79	64	78	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
小計	14,970	14,963	15,334	15,552	15,880	14,495	15,988	14,071.69	13,534.13	12,929.41	12,368.46	11,806.72	11,566.69	11,294.27	11,055.84	10,819.83	10,610.49		
総ごみ量	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212	54,999.06	53,353.24	51,436.45	49,686.59	47,925.95	47,282.35	46,201.42	45,256.77	44,326.35	43,502.00		
総ごみ量（集団回収除く）	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	52,665.22	51,029.63	49,135.78	47,402.54	45,659.95	45,028.26	43,971.55	43,044.97	42,132.59	41,321.32		

表3-18 ごみ排出量推計結果（家庭系+事業系）（施策推進後）

年度	実績							推計												
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)			
人口	163,863	162,919	161,975	161,031	160,087	159,145	157,872	156,757	155,642	154,527	153,412	152,199	150,986	149,773	148,560	147,347	146,069			
ごみ排出量 (t)	燃えるごみ	49,101	48,532	49,136	49,350	50,043	49,049	48,693	46,815.53	45,083.22	43,126.37	41,314.51	39,499.03	38,778.77	37,854.81	37,045.02	36,243.46	35,531.42		
	燃えないごみ	3,013	2,875	2,864	3,125	3,072	3,229	2,777	2,691.37	2,613.94	2,523.18	2,440.48	2,357.22	2,281.20	2,193.82	2,113.69	2,034.59	1,960.99		
	蛍光灯	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23		
	危険ごみ	64	62	64	62	62	68	66	65.80	65.51	64.86	64.39	63.89	63.55	62.87	62.36	61.85	61.48		
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	32.53	36.57	38.49		
	充電式小型家電						3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67			
	埋立物	503	572	702	577	572	507	1,931	552.13	510.41	466.45	424.45	382.76	342.62	338.94	336.20	333.45	331.46		
	資源物	2,855	2,468	2,286	2,336	2,251	2,427	2,361	2,506.06	2,720.09	2,916.57	3,117.83	3,314.27	3,517.37	3,474.65	3,441.07	3,408.69	3,383.58		
		新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	240.31	304.76	366.62	428.36	488.86	549.85	543.94	539.53	535.13	531.94	
		雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	248	338.15	428.38	514.95	601.39	686.08	771.44	763.15	756.97	750.79	746.32		
		ダンボール	213	168	157	156	163	204	280.93	356.03	428.09	500.04	570.53	641.58	634.69	629.55	624.41	620.69		
		牛乳パック	6	6	6	5	4	5	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35		
		古着類	186	145	125	127	155	197	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80		
		ペットボトル	177	173	155	169	165	175	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61		
		プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83		
		白色トレイ	10	9	8	8	7	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48		
		飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22		
		空ビン	913	805	775	829	721	711	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34	
		小計	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	52,665.22	51,029.63	49,135.78	47,402.54	45,659.95	45,028.26	43,971.55	43,044.97	42,132.59	41,321.32	
		集団 回収	新聞紙	2,215	1,890	1,598	1,459	1,345	1,019	959	952.08	947.90	938.54	931.76	924.40	919.54	909.66	902.29	894.93	889.60
			雑誌・雑紙	1,073	917	799	732	696	655	595	591.04	588.45	582.64	578.43	573.86	570.84	564.71	560.14	555.56	552.25
			ダンボール	1,000	897	817	772	735	678	650	645.40	642.56	636.22	631.63	626.63	623.34	616.65	611.65	606.66	603.04
			牛乳パック	14	12	11	10	9	9	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48
	古着類		151	130	126	122	129	147	137	136.17	135.58	134.24	133.27	132.22	131.52	130.11	129.05	128.00	127.24	
	空ビン		3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07	
	小計	4,456	3,848	3,353	3,096	2,915	2,509	2,350	2,333.84	2,323.61	2,300.67	2,284.05	2,266.00	2,254.09	2,229.87	2,211.80	2,193.76	2,180.68		
	総ごみ量	60,009	58,372	58,422	58,568	58,939	57,815	58,212	54,999.06	53,353.24	51,436.45	49,686.59	47,925.95	47,282.35	46,201.42	45,256.77	44,326.35	43,502.00		
	総ごみ量（集団回収を除く）	55,553	54,524	55,069	55,472	56,024	55,306	55,862	52,665.22	51,029.63	49,135.78	47,402.54	45,659.95	45,028.26	43,971.55	43,044.97	42,132.59	41,321.32		
	資源化率（%）	14	13	11	11	11	11	10	10.84	11.51	12.21	12.95	13.74	24.03	24.14	24.25	24.36	24.48		
	最終処分量（t）	8,096	7,719	7,844	7,775	7,862	7,665	8,767	7,131.66	6,855.44	6,545.25	6,257.27	5,968.97	1,199.44	1,162.94	1,130.10	1,097.64	1,068.01		
	1人1日当たりごみ排出量（g/人・日）	926	917	931	944	956	952	969	920	896	871	847	822	815	804	794	783	773		

表3-19 各施設におけるごみ処理量推計結果（施策推進後）

クリーンセンター

	実績							推計										備考	
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)		
焼却処理 (t)	直接焼却	48,733	48,111	48,650	48,827	49,470	48,298	47,960	46,108.62	44,402.46	42,475.16	40,690.66	38,902.59	38,193.21	37,283.20	36,485.64	35,696.18	34,994.90	燃えるごみ量×0.9849（令和3年度燃えるごみ中の直接焼却量の割合）
	粗大可燃ごみ	368	421	486	523	573	751	733	706.91	680.76	651.21	623.85	596.44	585.56	571.61	559.38	547.28	536.52	燃えるごみ量×0.0150（令和3年度燃えるごみ中の粗大可燃量の割合）
	破砕可燃	966	904	868	842	821	767	679	658.04	639.11	616.92	596.70	576.34	557.75	536.39	516.80	497.46	479.46	燃えないごみ量×0.2445（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃量の割合）
	小計	50,067	49,436	50,004	50,192	50,864	49,816	49,372	47,473.57	45,722.33	43,743.29	41,911.21	40,075.37	39,336.52	38,391.20	37,561.82	36,740.92	36,010.88	
破砕選別処理 (t)	破砕鉄・アルミ	961	935	903	997	951	1,129	930	901.34	875.41	845.01	817.32	789.43	763.97	734.71	707.87	681.38	656.74	燃えないごみ量×0.3349（令和3年度燃えないごみ中の破砕鉄・アルミの割合）
	破砕可燃	966	904	868	842	821	767	679	658.04	639.11	616.92	596.70	576.34	557.75	536.39	516.80	497.46	479.46	燃えないごみ量×0.2445（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃量の割合）
	破砕埋立	1,029	992	1,031	1,184	1,194	1,215	1,043	1,010.88	981.80	947.71	916.64	885.37	856.82	824.00	793.90	764.19	736.55	燃えないごみ量×0.3756（令和3年度燃えないごみ中の破砕埋立の割合）
手選別処理 (t)	粗大鉄・アルミ	57	44	62	102	106	118	125	121.11	117.63	113.54	109.82	106.07	102.65	98.72	95.12	91.56	88.24	燃えないごみ量×0.0450（令和3年度燃えないごみ中の粗大鉄・アルミの割合）
	小計	3,013	2,875	2,864	3,125	3,072	3,229	2,777	2,691.37	2,613.95	2,523.18	2,440.48	2,357.21	2,281.19	2,193.82	2,113.69	2,034.59	1,960.99	

リサイクルセンター

	実績							推計										備考		
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)			
圧縮梱包 (t)	プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	プラスチック容器・袋	
	ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61	ペットボトル	
破砕処理 (t)	飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	飲食用アルミ缶	
	スプレー缶	34	37	41	35	35	43	48	47.86	47.65	47.17	46.83	46.47	46.22	45.73	45.35	44.98	44.71	危険ごみ量×0.7273（令和3年度危険ごみ中のスプレー缶の割合）	
手選別処理 (t)	空ビン	913	805	775	829	721	711	702	625.37	614.08	600.12	588.51	577.19	568.08	557.06	547.12	538.35	530.34	空ビン	
	白色トレー	10	9	8	8	7	8	8	8.01	7.98	7.90	7.84	7.78	7.74	7.65	7.59	7.53	7.48	白色トレー	
	充電式小型家電							3	2.86	2.85	2.82	2.80	2.78	2.76	2.73	2.71	2.69	2.67	充電式小型家電	
一時保管 (t)	新聞紙	292	228	189	177	164	168	176	240.31	304.76	366.62	428.36	488.86	549.85	543.94	539.53	535.13	531.94	新聞紙（資源物）	
	雑誌・雑紙	340	273	230	227	240	274	248	338.15	428.38	514.95	601.39	686.08	771.44	763.15	750.79	746.32	746.32	雑誌・雑紙（資源物）	
	ダンボール	213	168	157	156	163	204	206	280.93	356.03	428.09	500.04	570.53	641.58	634.69	629.55	624.41	620.69	ダンボール（資源物）	
	牛乳パック	6	6	6	5	4	5	6	5.72	5.70	5.64	5.60	5.56	5.53	5.47	5.42	5.38	5.35	5.35	牛乳パック（資源物）
	古着類	186	145	125	127	155	197	180	178.51	177.73	175.98	174.71	173.32	172.41	170.56	169.18	167.80	166.80	古着類（資源物）	
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	32.53	32.57	32.49	38.49	小型家電
	蛍光管	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	11.23	蛍光管
	乾電池	30	25	23	27	27	25	18	17.94	17.86	17.69	17.56	17.42	17.33	17.14	17.01	16.87	16.77	16.77	危険ごみ量×0.2727（令和3年度危険ごみ中の乾電池の割合）
	合計 (t)	2,936	2,545	2,367	2,420	2,337	2,521	2,461	2,606.19	2,822.06	3,019.78	3,223.10	3,420.94	3,625.67	3,583.98	3,550.06	3,521.09	3,497.45		

最終処分場

	実績							推計										備考	
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)		
埋立処分 (t)	焼却灰	6,564	6,155	6,111	6,014	6,096	5,943	5,793	5,568.65	5,363.23	5,131.09	4,916.18	4,700.84						焼却処理量×0.1173（令和3年度焼却量に対する焼却灰の割合）
	破砕埋立	1,029	992	1,031	1,184	1,194	1,215	1,043	1,010.88	981.80	947.71	916.64	885.37	856.82	824.00	793.90	764.19	736.55	燃えないごみ量×0.3756（令和3年度燃えないごみ中の破砕埋立の割合）
	直接埋立	503	572	702	577	572	507	1,931	552.13	510.41	466.45	424.45	382.76	342.62	338.94	336.20	333.45	331.46	埋立物量
合計	8,096	7,719	7,844	7,775	7,862	7,665	8,767	7,131.66	6,855.44	6,545.25	6,257.27	5,968.97	5,629.44	5,353.94	5,130.10	4,977.64	4,809.64	4,648.01	

総資源化量

	実績							推計										備考		
	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度 (2029)	R12年度 (2030)	R13年度 (2031)			
直接資源化 (t)	新聞紙	2,507	2,118	1,787	1,636	1,509	1,187	1,135	1,192.39	1,252.66	1,305.16	1,360.12	1,413.26	1,469.39	1,453.60	1,441.82	1,430.06	1,421.54	新聞紙（資源物+集団回収）	
	雑誌・雑紙	1,413	1,190	1,029	959	936	929	843	929.19	1,016.83	1,097.59	1,179.82	1,259.94	1,342.28	1,327.86	1,317.11	1,306.35	1,298.57	雑誌・雑紙（資源物+集団回収）	
	ダンボール	1,213	1,065	974	928	898	882	856	926.33	998.59	1,064.31	1,131.67	1,197.16	1,264.92	1,251.34	1,241.20	1,231.07	1,223.73	ダンボール（資源物+集団回収）	
	牛乳パック	20	18	17	15	13	14	14	13.73	13.68	13.54	13.44	13.34	13.27	13.12	13.01	12.91	12.83	牛乳パック（資源物+集団回収）	
	古着類	337	275	251	249	284	344	317	314.68	313.31	310.22	307.98	305.54	303.93	300.67	298.23	295.80	294.04	古着類（資源物+集団回収）	
	空ビン（集団回収）	3	2	2	1	1	1	1	1.14	1.14	1.13	1.12	1.11	1.11	1.09	1.08	1.08	1.07	空ビン（集団回収）	
	小型家電	5	3	6	10	12	13	19	19.45	21.65	23.69	26.32	28.33	30.39	32.25	34.70	36.57	38.49	小型家電	
	蛍光管	12	12	11	12	12	13	12	12.02	11.96	11.84	11.76	11.67	11.60	11.48	11.39	11.29	11.23	11.23	蛍光管
	乾電池	30	25	23	27	27	25	18	17.94	17.86	17.69	17.56	17.42	17.33	17.14	17.01	16.87	16.77	危険ごみ量×0.2727（令和3年度危険ごみ中の乾電池の割合）	
小計	5,540	4,708	4,100	3,837	3,692	3,408	3,215	3,426.87	3,647.68	3,845.17	4,049.79	4,247.77	4,454.22	4,408.55	4,375.55	4,342.00	4,318.27			
中間処理後売却 (t)	破砕可燃鉄	2	2	2	2	2	1	1	1.02	1.01	1.00	1.00	0.99	0.98	0.97	0.96	0.96	0.95	燃えないごみ量×0.00036（令和3年度燃えないごみ中の破砕可燃鉄の割合）	
	破砕鉄・アルミ	961	935	903	997	951	1,129	930	901.34	875.41	845.01	817.32	789.43	763.97	734.71	707.87	681.38	656.74	燃えないごみ量×0.3349（令和3年度燃えないごみ中の破砕鉄・アルミの割合）	
	粗大鉄・アルミ	71	44	62	102	106	118	125	121.11	117.63	113.54	109.82	106.07	102.65	98.72	95.12	91.56	88.24	燃えないごみ量×0.04501（令和3年度燃えないごみ中の粗大鉄・アルミの割合）	
	飲食用アルミ缶	27	25	23	31	34	38	37	36.62	36.46	36.10	35.84	35.55	35.37	34.99	34.70	34.42	34.22	飲食用アルミ缶	
	空ビン（透明・茶）	740	657	625	667	566	571	564	502.42	493.35	482.14	472.81	463.71	456.40	447.54	439.56	432.51	426.08	空ビン量×0.8034（令和3年度空ビン中の空ビン（透明・茶）の割合）	
スプレー缶	34	37	41	35	35	43	48	47.86	47.65	47.17	46.83	46.47	46.22	45.73	45.35	44.98	44.71	危険ごみ量×0.7273（令和3年度危険ごみ中のスプレー缶の割合）		
小計	1,835	1,700	1,656	1,834	1,694	1,900	1,705	1,610.37	1,571.51	1,524.96	1,483.62	1,442.22	1,405.59	1,362.66	1,323.57	1,285.81	1,250.94			
指定法人へ委託 (t)	プラスチック容器・袋	691	636	618	607	598	647	613	608.78	606.11	600.12	595.79	591.08	587.98	581.66	576.95	572.24	568.83	プラスチック容器・袋	
	ペットボトル	177	173	155	169	165	175	185	183.66	182.86	181.05	179.75	178.32	177.39	175.48	174.06	172.64	171.61	ペットボトル	
	白色トレー	10	9																	

資料4 ごみ処理技術の動向

1) 収集運搬技術

ごみの収集運搬は非常に経費のかかる作業であり、廃棄物処理経費のうちに占める割合は非常に高くなっています。また、自治体によって多様な収集運搬システムが構築され、収集運搬に係る体系的な整理・実践が試みられています。収集運搬技術を表 4-1 に示します。

表 4-1 収集運搬技術

処理方式	収集運搬システムの多様化
概要	近年、自治体の現状に合わせてごみの収集運搬システムが多様化している。収集運搬システムの最新技術としては、①AI 配車シミュレーションサービス、②AI・IoT を利用した収集運搬車の自動配車システム、③IoT センサーを活用した収集ルート最適化、④廃油量の遠隔監視による廃油回収の効率化の4つが挙げられる。
収集運搬システム	<p>①：AI 配車シミュレーションサービス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃棄物収集に係る基礎情報から AI が最適な収集コースを算出。従来、配車担当者が時間をかけて行っていた収集車両ごとの収集コースの設定やコースの見直し作業を補助。 2) 集荷情報のデジタル管理、ドライバーのもつ集荷先等の情報のデジタル化等の課題が残る。 3) 関連主体はエコスタッフ・ジャパン(株)、白井グループ <p>②：AI・IoT を利用した収集運搬車の自動配車システム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃棄物収集運搬に特有の制約条件（乗務員の作業時間、客先での車両登録、受付時間等）や回収方法（ルート回収やピストン回収）を考慮した収集運搬ルートの算出が可能。 2) 収集運搬に係る情報のデジタル化（計算に必要なデータの効率的な収集・整理）に課題が残る。 3) 関連主体は大栄環境(株)、(株)イーアイアイ <p>③：IoT センサーを活用した収集ルート最適化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) センサーで取得したデータと地図等を駆使し、適切なルート計画と人員配置に活用。特に複数事業者の共同回収に適用することで、事業所あたりの排出量が少量である廃棄物についても効率的に回収可能。 2) 自治体の指導により複数事業者の合積みに制限がある。 3) 関連主体は NTT 西日本(株)、(株)京都環境保全公社、(株)島津製作所、Enevo Japan(株)他 <p>④：廃油量の遠隔監視による廃油回収の効率化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各排出事業者に点在する廃油タンクに貯まった廃油量をセンサーによりリアルタイムで測定。 2) 有価物以外の産業廃棄物（廃油）へのシステム適応に課題が残る。 3) 浜田化学(株)、日本アンテナ(株)
事例	京都府（IoT センサーを活用した収集ルート最適化）

2) 中間処理技術

ごみの中間処理は、不用物を処分しても自然界に悪影響を与えないように、あらかじめ、人為的に汚濁物質や有害物質を除去・無害化したり、減容・安定化したりするものです。

その主要な方法としては、焼却灰のセメント化（セメント原料化）、山元還元、焼成焙焼、高効率焼却技術などがあげられます。

表 4-2 中間処理技術（1）

処理方式	エコセメント化
概要	<p>焼却灰がセメント製造に必要な成分を多く含んでいることに着目し、これを原料として利用し開発した、新しいタイプのセメントである。三酸化硫黄量や塩化物イオン量が多いなど、普通ポルトランドセメントとは成分・性質が異なる。</p> <p>エコセメント1 tの製造には、灰や廃棄物を500kg以上（乾燥ベース）使用する。</p> <p>エコセメントに関する JIS</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2002年 7月：(JIS R 5214)「エコセメント」 ◆2003年 12月：(JIS A 5308) レディーミクストコンクリート JIS 材料制定 ◆2004年 3月：(JIS A 5364) プレキャストコンクリート製品 JIS 材料制定
処理フロー	<p>【東京たまエコセメント化施設の例】</p> <p>出典：東京たま広域資源循環組合ホームページ</p> <p>(1)受入工程 湿灰はダンプトラックで搬入し受入ピットに投入し貯留する。乾燥灰は圧送式ローリ車で搬入し、受入タンクに圧送し貯留する。</p> <p>(2)前処理工程 湿灰は乾燥させ、鉄・アルミ類を回収後、粉碎する（乾燥灰はそのまま）。乾燥させた湿灰及び乾燥灰に副資材（石灰石、鉄原料）を加えて調合し、エコセメント原料とする。</p> <p>(3)焼成・仕上げ工程 調合したエコセメント原料を焼成炉（ロータリーキルン）で 1,350℃以上の高温で焼成し、クリンカを製造する。これを冷却後に粉碎し、添加材（石膏等）を加え、エコセメントが製造される。</p>
事例	<p>東京都たま広域資源循環組合 等 東京たまエコセメント化施設：処理能力約 300t/日（生産能力約 430t/日）</p>

表 4-2 中間処理技術 (2)

処理方式	セメント原料化
概要	<p>焼却灰の化学成分が一般的なセメント用粘土原料の化学成分に近いという特性を生かし、セメントの原料の一部として使用する方法である。</p> <p>焼却灰の含有成分及び性状等がセメント品質や製造工程に及ぼす影響を十分調査する必要があり、JIS が定める品質規格を満足するものでなければならない。</p>
処理フロー	<p>出典：太平洋セメント株式会社ホームページ</p> <p>焼却灰の異物除去及び飛灰の水洗を行い、異物や塩素等をあらかじめ除去する。異物除去・水洗された焼却灰及び飛灰は既存のセメント製造工程へ送られる。</p>
事例	<p>鈴鹿市 狭山市 川崎市（焼却灰）：処理能力 約 14t/日（乾灰） 北九州市（脱水汚泥の直接投入）：処理能力 約 100t/日（発生汚泥量 200t/日） 等</p>

表 4-2 中間処理技術 (3)

処理方式	山元還元
概要	<p>熔融飛灰中に高濃度で含まれる銅や鉛などの非鉄金属を、製錬所で非鉄製錬技術を用いて単一物質に還元したのち回収し、再利用する一連の操作である。</p> <p>非鉄金属の濃度が高いほど効率的であり、一般的には飛灰や熔融飛灰が対象となる。</p>
処理フロー	<p>【三池製錬（福岡県大牟田市） 亜鉛・鉛の回収事例】</p> <p>出典：藤澤環境開発株式会社ホームページ</p> <p>ごみ焼却施設の熔融炉から排出される熔融飛灰を、製錬所において DNX を含めた無害化処理を行う。その後、処理過程で発生した粗酸化亜鉛等を、有価物として外販している。</p>
事例	大阪府枚方市、津市、四日市市 等

表 4-2 中間処理技術（4）

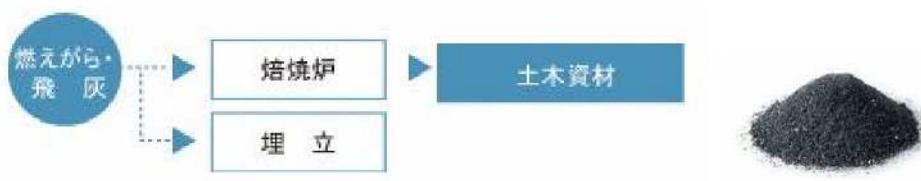
処理方式	焼成焙焼
概要	焼成：セメント等の製造過程で、無機物を高温で焼き固める作業。 焙焼：金属製錬の過程で、硫化物等の鉱石を加熱して酸化物にするなど、次の製錬過程に適した状態にする作業。焼成物は路盤材等の建築土木資材として利用される。
処理フロー	<p>【三重リサイクルセンター（三重県伊賀市） 焼却灰の有効利用の例】</p>  <p>出典：三重中央開発株式会社ホームページ</p> <p>製紙・製鋼工場や自治体から排出される焼却灰を、トロンメル選別、磁力選別、破碎などの処理をして添加剤を加えた後、焙焼炉により約 1,100℃程度の高温焼成によって無害化し、粒子の大きさで分類し、路盤材や骨材として再利用をしている。</p>
事例	いなべ市、多気町、鳥羽市 等

表 4-2 中間処理技術（5）

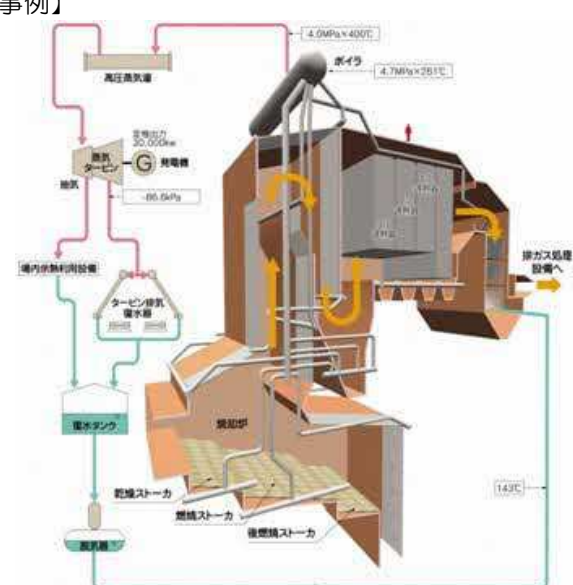
処理方式	サーマルリサイクル（発電）
概要	廃棄物から熱エネルギーを回収・利用すること。 対象廃棄物は、都市ごみ、廃油・廃酸、廃アルカリ、汚泥、廃プラ、木屑、ドラム缶など多様であるが、十分な前処理が必要である。廃熱は、温水プールや地域熱暖房など広く利用できる。
処理フロー	<p>【北海道札幌市の事例】</p>  <p>出典：北海道札幌市ホームページ</p> <p>ごみの焼却によって生まれた熱を利用し、ボイラーで蒸気をつくり、施設内の給湯、冷暖房、ロードヒーティングなどに利用している。さらに、蒸気タービン発電機により発電を行い、施設内の電力を賄い、余った電力は電力会社へ売電している。</p>
事例	北海道札幌市、東京都江東区 等

表 4-2 中間処理技術 (6)


処理方式	溶融処理
概要	焼却炉から排出された焼却灰を高温で溶融し、再結晶化させる。生成物は土木資材等として資源化することができる。焼成、焙焼処理よりも高い温度で燃焼させる。
処理技術	<p>【中部リサイクル株式会社溶融処理施設】</p> <p>焼却灰を 1,500℃以上の高温に加熱・溶融する装置。比重の差を利用して溶融還元石と溶融メタルを効率的に分離することが可能。</p>  <p>出典：中部リサイクル株式会社ホームページ</p>
事例	四日市市 等

表 4-2 中間処理技術 (7)

処理方式	焼却灰人工砂化
概要	廃棄物を溶融した後冷却固化して得られたガラス質状又は結晶質の固化物から磁性物を除去し、破碎機や整粒器等で粒を揃えることにより砂状にしたもの。下層路盤材やヒートアイランド対策資材、雑草抑制資材等として利用されている。
処理フロー	<p>【ツネイシカムテックス株式会社 埼玉工場】</p> <p>(1) 焼却灰受入ピット、破碎選別機 受け入れた焼却灰を、粉塵や臭気の問題が無いよう密閉されたピットで保管する。受け入れ後破碎及び選別を行うことで製品への異物混入を防ぎ、鉄などの不適物を除去する。</p> <p>(2) 焼成炉：ロータリーキルン 還元剤を焼却灰に添加し、ロータリーキルン式焼成炉で約 1,000℃の焼成処理を行い、重金属類の揮発分離・不溶化・ダイオキシン類の無害化を行う。</p> <p>(3) 粉碎機 焼成後、焼成物を冷却し、粉碎機で細かく粉碎する。</p> <p>(4) 造粒機 粉碎品に、水・セメント・安定剤を加えて混合・造粒して人工砂を生産する。</p> <p>(5) 製品ストックヤード できあがった人工砂は、セメントが硬化するまで養生した後、出荷される。</p> <p>出典：ツネイシカムテックス株式会社ホームページ</p>
事例	狭山市

3) 最終処分技術

最終処分は家庭や事業所等から排出されるごみを資源回収や減容・減量化などの中間処理を経由した後、衛生的に生活環境を保全しながら埋め立てることです。

埋立処分技術として、従来は上部が開放された構造による準好気性埋立方式が主流でしたが、近年、自然条件に左右されず、安定的な処分を目的としたクローズドシステム最終処分場（屋根付きの最終処分場）の採用も増加しています。

また、近年では、重金属などの有害物質を外部に流出しないように、固めて埋め立てる技術や、埋め立てる前にごみを洗浄する技術などがあります。

表 4-3 最終処分技術（1）

処理方式	埋立前洗浄（前処理）
概要	埋立地の早期安定化と早期廃止を目的とし、埋立を行う前に埋立廃棄物を強制的に洗浄し、不活性化させること。
処理フロー	<p>【WOW システム（機械洗浄ケース）の概念図】</p> <p>【三重県津市 一般廃棄物処分場の例】</p> <p>出典：津市ホームページ</p> <p>搬入される一般廃棄物の洗浄を、埋め立てる前に強制的に行うことで、廃棄物からの有害物質の溶出を促進している。また、前処理施設からの洗浄廃水と埋立廃棄物からの浸出水を浸出水処理施設で浄化し、その処理水を埋め立て廃棄物の散水と洗浄水に利用しているため、場内循環利用・無放流が実現している。</p>
事例	津市一般廃棄物最終処分場（前処理能力：31.3t/日）

表 4-3 最終処分技術 (2)

処理方式	クローズド型 (埋立)
概要	<p>ごみが周辺環境に与える負荷を低減することを目的に、屋根や人工地盤などで覆うことによって管理された閉鎖空間内をつくりだし、その中でごみの処理・貯蔵を行う最終処分場の形態のこと。</p> <p>埋立廃棄物の安定化と無害化を目的に散水が行われる。</p> <p>浸出水を一切外部へ放流しない完全クローズドシステム型も存在する。</p>
処理フロー	<p>【指宿広域市町村圏組合 (鹿児島県) の事例】</p>  <p>出典：指宿広域市町村圏事務組合ホームページ</p> <p>ごみ処理施設及び清掃センターで中間処理されたあとに発生する焼却残渣を、埋立処理によって最終処分している。処分場は遮水シートに覆われており、無害化・安定化するまで散水が行われる。また、浸出水は排水基準を満たしたのちに放流される。処分場には 33,000m³の焼却残渣を埋め立てることが出来る。</p>
事例	<p>愛媛県 西条市東部一般廃棄物最終処分場 福岡県 八女立花最終処分場 宮崎県 延岡市北方最終処分場 南九州 指宿広域市町村圏組合 等</p>

表 4-3 最終処分技術 (3)

処理方式	固化式処分システム (埋立)
概要	<p>重金属などの有害物質をコンクリートや薬剤のなかに封じ込め、外部に流出しないように固める技術・処理方法である。</p> <p>焼却残渣の固化による有害物質の溶出抑制だけではなく、最終処分場の埋立容量の確保による処分場の延命化、廃棄物埋立地盤の剛体化による耐震性の強化を達成することができる。</p>
処理フロー	<p>【廃棄物固化式処分システムの概念図】</p> <p>焼却残渣 → 水 セメント → 混練 → 高周波振動(160~200Hz)で加振 → 超流体工法 → 固化埋立</p> <p>従来型処分場 VS 廃棄物固化式処分場</p> <p>従来型処分場: 飛散, 浸透水, 焼却灰・飛灰, 覆土, 排水工, 貯留集排水管</p> <p>廃棄物固化式処分場: ① 浸透水排除, ② 飛散防止, ③ 減容化, 焼却灰・飛灰固化体, 一体化 → 強固な固化地盤</p> <p>出典：第 26 回廃棄物資源循環学会研究発表会 「巨大地震に耐える環境安全で堅牢な最終処分場の新技術開発に関する研究」</p> <p>焼却残渣に石灰石やセメント系固化剤などを添加させたのち、高周波振動（160～200Hz）で加振し、流体化させながら締固める。固化埋立によって強固な固化地盤ができあがる。また、この固化技術を、超流体工法という。</p>
事例	長野県 フジ・コーポレーション (産業廃棄物最終処分場)

資料5 進行管理

3R を推進するための各施策の進行管理表を表5-1 に示します。

表5-1 施策の進行管理（1）

	施策	令和8年度 (中間目標年度)			令和9年度 (中間目標年度)		
		実施 状況	評価	今後の 展望	実施 状況	評価	今後の 展望
行政・市民・事業者	①環境教育、普及啓発の充実 ・環境教育、普及啓発の充実【継続】 ・啓発活動、出前講座の実施【継続】 ・外国人に対する啓発の実施【継続】 ・広報等での定期的なPR【継続】 ・電子媒体を利用した多角的な教育と普及啓発の推進【新規】						
	②ごみ減量アイデアの募集 ・ごみ減量に関するみんなのアイデアの募集【新規】						
	③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底 ・事業系ごみへの啓発【継続】 ・事業系ごみの搬入物検査（展開検査）の実施【継続】 ・減量化計画の作成【継続】						
	④容器包装廃棄物の排出抑制 ・マイバッグの持参運動の推進【継続】 ・容器包装廃棄物の適正な分別方法の啓発【継続】 ・簡易包装商品や詰め替え用品購入の推進【継続】						
	⑤紙類の資源化の促進 ・紙類の資源化促進【継続】						
	⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制 ・リユース容器の利用を促進【継続】 ・使い捨て品の使用抑制【継続】						
	⑦環境物品等の使用促進 ・グリーン購入、グリーン契約の推進【継続】						
	⑧食品廃棄物等の排出抑制 ・3010運動（食べきり運動）の推進【新規】 ・生ごみの水切りモニターの募集【新規】 ・生ごみの堆肥化の推進【継続】						
	⑨バイオマス資源の有効活用 ・木くずや剪定枝のチップ化や堆肥化の検討【継続】						
	⑩市民団体による集団回収活動の活性化 ・集団回収制度の利用【継続】 ・褒賞制度の検討【継続】						
	⑪小型家電の資源化 ・小型家電の回収（緑の回収ボックス・業者による宅配便回収）【継続】						
	⑫食品ロスへの取り組み強化 ・食品ロス削減に関する啓発活動【新規】 ・フードバンク等との協力【新規】 ・災害用備蓄食料の有効活用【新規】						

※ 実施状況は毎年度確認し、中間目標年度及び最終目標年度で総括・見直し等を実施する。

※ 中間目標年度における見直しは令和8年度を基本とするが、令和9年度（最終処分量及び資源化率の中間目標年度）にも重ねて実施する。

表5-1 施策の進行管理(2)

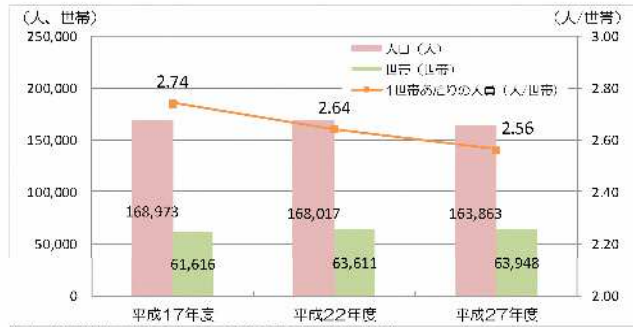
	施策	令和13年度 (最終目標年度)			備考
		実施 状況	評価	今後の 展望	
行政・市民・事業者	①環境教育、普及啓発の充実 ・環境教育、普及啓発の充実【継続】 ・啓発活動、出前講座の実施【継続】 ・外国人に対する啓発の実施【継続】 ・広報等での定期的なPR【継続】 ・電子媒体を利用した多角的な教育と普及啓発の推進【新規】				
	②ごみ減量アイデアの募集 ・ごみ減量に関するみんなのアイデアの募集【新規】				
	③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底 ・事業系ごみへの啓発【継続】 ・事業系ごみの搬入物検査(展開検査)の実施【継続】 ・減量化計画の作成【継続】				
	④容器包装廃棄物の排出抑制 ・マイバッグの持参運動の推進【継続】 ・容器包装廃棄物の適正な分別方法の啓発【継続】 ・簡易包装商品や詰め替え用品購入の推進【継続】				
	⑤紙類の資源化の促進 ・紙類の資源化促進【継続】				
	⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制 ・リユース容器の利用を促進【継続】 ・使い捨て品の使用抑制【継続】				
	⑦環境物品等の使用促進 ・グリーン購入、グリーン契約の推進【継続】				
	⑧食品廃棄物等の排出抑制 ・3010運動(食べきり運動)の推進【新規】 ・生ごみの水切りモニターの募集【新規】 ・生ごみの堆肥化の推進【継続】				
	⑨バイオマス資源の有効活用 ・木くずや剪定枝のチップ化や堆肥化の検討【継続】				
	⑩市民団体による集団回収活動の活性化 ・集団回収制度の利用【継続】 ・褒賞制度の検討【継続】				
	⑪小型家電の資源化 ・小型家電の回収(緑の回収ボックス・業者による宅配便回収)【継続】				
	⑫食品ロスへの取り組み強化 ・食品ロス削減に関する啓発活動【新規】 ・フードバンク等との協力【新規】 ・災害用備蓄食料の有効活用【新規】				

当初計画	第1期見直し版
<p>第1章 一般廃棄物処理基本計画の趣旨</p> <p>第1節 目的</p> <p>「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図るため、松阪市（以下、本市）が定める法定計画です。</p> <p>平成 23 年度に「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定して以降、国の「循環型社会形成推進基本計画（平成 25 年 5 月）」の改定や、平成 27 年度の市内全域のごみ処理方式の統一、松阪市クリーンセンターの建設など計画策定の前提となる条件に変動がありました。また、国の「第三次循環型社会形成推進基本計画（平成 25 年 5 月）」では、取り組むべき課題の一つとして「循環型社会・低炭素社会・自然共生社会づくりの統合的取組と地域循環圏の高度化」を挙げています。特に地域循環圏づくりに関しては、廃棄物を循環資源としてとらえ、エネルギー源としての活用も含めた仕組みづくりを進める必要があるとしています。</p> <p>このような背景のもと、本計画は、「翼にも注目した循環型社会の形成」を目指し、本市から発生する一般廃棄物の処理方針を策定することを目的とします。</p> <p>第2節 本計画の位置付け</p> <p>一般廃棄物処理計画とは、市町村の一般廃棄物処理に係る長期的視点に立った基本的な方針を明確にする「一般廃棄物処理基本計画」と一般廃棄物処理基本計画に基づき年度ごとに策定する「一般廃棄物処理実施計画」から構成されます。「一般廃棄物処理基本計画」は「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」から構成され、「一般廃棄物処理実施計画」は「ごみ処理実施計画」と「生活排水処理実施計画」から構成されます。本計画は、「一般廃棄物処理基本計画」のうち、「ごみ処理基本計画」に該当します（図 1-2-1）。</p> <div data-bbox="353 885 1041 1069"> </div> <p>図 1-2-1 本計画の位置づけ</p> <p>第3節 目標年次</p> <p>本計画における計画期間は平成 29 年度より 15 年間の平成 43(2031) 年度とします。また、本計画の中間目標年次は平成 38(2026) 年度、計画最終年次は平成 43(2031) 年度とします。</p> <p>なお、計画については社会情勢による変化などを勘案して、概ね 5 年ごとに見直しを行うものとします。また、諸条件に大きな変動があった場合など、計画内容との乖離が生じた場合には、適宜、見直しを行います。</p> <p>第4節 計画の範囲</p> <p>本計画の範囲は、本市から発生する一般廃棄物（ごみ）を対象とします。</p>	<p>第1章 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（第1期見直し版）の趣旨</p> <p>第1節 目的</p> <p>「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（第1期見直し版）」（以下「第1期見直し版」という。）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）に基づき、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図りつつ、一般廃棄物の適正な処理を行うため、松阪市が定める法定計画です。</p> <p>平成 27(2015) 年度に市内全域のごみ処理体系の一元化と松阪市クリーンセンターの供用を開始し、平成 29(2017) 年 5 月に「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（以下「当初計画」という。）を策定しました。それ以降、国の「循環型社会推進基本計画（平成 30 年 6 月）」の改定があり、令和元(2019) 年 10 月から「食品ロスの削減の推進に関する法律」（令和元年法律第 19 号）や令和 4(2022) 年 4 月から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（令和 3 年法律第 60 号）が施行されています。「充電式小型家電」の回収をはじめ等、新たな施策を展開しており、今後も行政、市民、販売業・飲食業等の事業者（以下「事業者」という。）がごみ削減に資する施策に主体的に取り組む必要があります。</p> <p>このような背景のもと、当初計画の基本理念、「ムダなく資源が循環しているまち」を継承するものとし、松阪市から発生する一般廃棄物の処理方針等に係る諸条件に対して、大きな変動等があった場合に見直し、基本理念を達成することを目的とします。</p> <p>第2節 第1期見直し版の位置づけ</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 6 条に規定する一般廃棄物処理計画とは、市町村の一般廃棄物処理に係る長期的視点に立った基本的な方針を明確にする一般廃棄物処理基本計画と、一般廃棄物処理基本計画に基づき年度毎に策定する一般廃棄物処理実施計画から構成されます。一般廃棄物処理基本計画は、ごみ処理基本計画と生活排水処理基本計画から構成され、一般廃棄物処理実施計画は、ごみ処理実施計画と生活排水処理実施計画から構成されます。この計画は、一般廃棄物処理基本計画のうち、ごみ処理基本計画に位置づけられます。</p> <div data-bbox="1182 997 1881 1141"> </div> <p>図 1-1（本計画の位置づけ）</p> <p>第3節 計画期間及び計画目標年度</p> <p>計画期間：15 年間（平成 29(2017) 年度～令和 13(2031) 年度） 目標年度：中間目標年度は令和 8(2026) 年度 ※最終処分量及び資源化率については、令和 9(2027) 年度に変更 最終目標年度は令和 13(2031) 年度 計画の見直し時期：概ね 5 年毎もしくは計画策定に係る諸条件に大きな変動等があった場合</p>

2-1 人口動態

1) 人口の推移

本市の人口は減少傾向となっています。総務省実施の国勢調査の結果をみると、平成27年度調査時には163,863人で、平成17年度調査時の168,973人から約5,100人減少しています。また、核家族化の進行により世帯数は増加していますが、1世帯あたりの人員は減少しています。



出典：総務省統計局「平成17～平成27年度国勢調査結果」
図2-2-1 人口・世帯数の推移

2-1 人口動態

1) 人口・世帯数の推移

人口は、減少傾向となっています。総務省実施の国勢調査の結果をみると、令和2(2020)年度調査時には159,145人で、平成22(2010)年度調査時の168,017人から約8,900人減少しています。また、核家族化の進行により世帯数は増加していますが、1世帯あたりの人員は減少しています。



出典：総務省統計局「平成22～令和2年度国勢調査結果」
図2-3 (人口・世帯数の推移)

5) 生ごみ堆肥化の推進

平成 24 年度より生ごみ堆肥化講座を実施しています。講座では堆肥化の仕組み、ダンボールコンポストの作り方、資材の扱い方などを、実習を交えて説明しています。



写真 3-1-4 ダンボールコンポスト

5) 生ごみ堆肥化の推進

平成 24(2012)年度より生ごみ堆肥化講座を実施しています。講座では堆肥化の仕組み、ダンボールコンポストの作り方、資材の扱い方など実習を交えて開催しています。



写真 3-4 (ダンボールコンポスト)

6) 紙類の資源化の推進

燃えるごみとして排出される紙類の中には、資源物として扱える紙類が多く含まれています。松阪市では、令和元(2019)年度及び令和 3(2021)年度に、資源として排出できる紙の種類と出し方の周知を図るため、資源物を出しに来ていただいた市民の方を対象に「雑紙回収袋」の配布を行いました。

その結果、「紙類をひもで十文字にしばって出す必要がなく、お手軽に回収場に出すことができ便利」とのご意見を頂いています。今後もこの事業を継続して推進していくことで、燃えるごみに含まれる紙類の資源化につなげていきます。



写真 3-5 (雑紙回収袋)

1-6 課題の抽出

本市のごみ処理における主な課題は以下のとおりです。

1) 発生抑制

本市の1人1日当たりごみ排出量は近年、ほぼ横ばいで推移しています。平成27年度の1人1日当たりごみ排出量は929g/人・日でした。これは、前計画の目標値である842g/人・日(平成31(2019)年度)を達成できていない状況であり、さらなる排出抑制及び減量化が必要です。家庭系ごみの排出抑制及び減量化のためには、生ごみの水切り・堆肥化、食品ロスの削減などについて啓発を継続していく必要があります。

2) 資源化率

本市の資源化率は、資源物及び集団回収の減少に伴い年々減少しています。平成27年度の資源化率は14.0%であり、これは、前計画の目標値である32%以上(平成31(2019)年度)を大幅に下回っています。また、類似都市と比較しても低い値となっています。今後は、分別の徹底を図るとともに新たな資源化方法の検討が必要です。

3) 最終処分量

平成27年度最終処分量は8,096tであり、前計画の目標値である3,800t以下(平成31(2019)年度)を達成できていない状況です。これは廃棄物のうち最終処分される割合が高いことによるものです。また、類似都市と比較しても高い値となっていることから、最終処分量の削減について検討が必要です。

4) ごみ処理体制

松阪市一般廃棄物最終処分場の残余容量は平成28年6月時点で59,983m³であり、全体の埋立容量219,000m³のうち約7割が埋め立てられた状態です。今後は、焼却灰のリサイクル等、できるだけ最終処分量を削減する施策や次期最終処分場の施設整備についての検討が必要です。

また、収集回数や品目等についても継続的に検討し、効率的な収集・運搬体制を整備することが必要です。

5) ごみ処理経費

ごみ処理施設の老朽化等により、維持管理費が増大する可能性があります。ごみ処理体制全般を効率化することにより、ごみ処理経費の削減に努める必要があります。

1-6 課題の抽出

課題1 ごみ発生抑制

1人1日当たりごみ排出量(集団回収量を含む)は近年、ほぼ横ばいで推移しています。令和3(2021)年度の1人1日当たりごみ排出量(集団回収量を除く)は969g/人・日となり、第1期見直し版の中間目標年度(令和8(2026)年度)の目標値である822g/人・日を達成するためには、さらなる発生、排出抑制及び減量化が必要です。

家庭系ごみの発生、排出抑制及び減量化のためには、生ごみの水切り及び堆肥化、並びに食品ロスの削減などについて啓発を強化していく必要があります。

また、燃えるごみに占める紙類の割合は、令和3(2021)年度の平均値で約42%を占めているため、分別を徹底することで、さらなる資源化率の向上、ごみ排出量を削減する取り組みについて検討する必要があります。

課題2 資源化率

資源化率は、年々減少傾向を示しています。主な理由として資源物及び集団回収量の減少が大きな要因となっています。令和3(2021)年度の資源化率は10.1%で、第1期見直し版の中間目標年度及び最終目標年度の値である24%以上を達成するのが困難な状況になっています。今後は、焼却灰及び燃えるごみに含まれる紙類を資源化することによって目標値の達成を目指します。

課題3 最終処分量

松阪市一般廃棄物最終処分場(以下「現最終処分場」という。)が、平成11(1999)年度に供用開始し、令和3(2021)年度末には埋立量が80%を超える中、令和3(2021)年度最終処分量は8,767tで、中間目標年度の目標値である1,200t以下を超過しています。最終処分量に占める焼却灰や破砕処理残渣の割合が大きいことから焼却灰の資源化に取り組むことや燃えないごみを削減することによって中間目標年度の目標値の達成を目指します。

また、今後は、最終処分量の削減に努めるとともに、令和9(2027)年度の供用開始を目指して新たな一般廃棄物最終処分場(以下「新最終処分場」という。)の整備に取り組んでいきます。

新最終処分場では、供用開始に併せて焼却灰の資源化を実施することを計画しております。

課題4 ごみ処理体制

ごみの資源化を促進したり、家庭から排出されるごみを迅速、かつ衛生的に処理するために、市民の協力を得ながら、効率的な収集運搬の方法と市民にわかりやすい分別区分やその種類等について、継続的に検討をしていく必要があります。

課題5 ごみ処理経費

ごみ処理施設の老朽化等により、維持管理費等が増大することを見込んでいます。

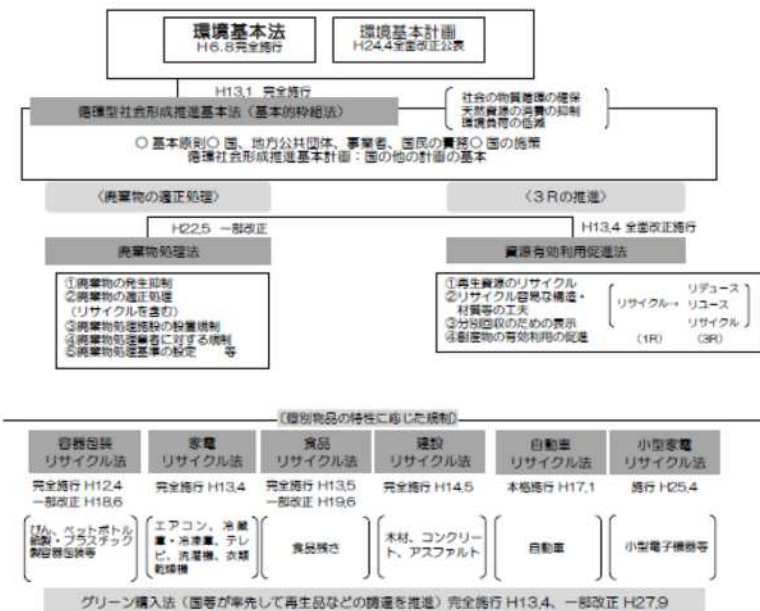
このことを踏まえ、中間処理施設や最終処分場のごみ処理体制を効率化することにより、ごみ処理経費の削減に努める必要があります。

第2節 ごみ処理行政の動向

2-1 関連法令の整理

1) 廃棄物に関する法体系

廃棄物に関する法体系は図 3-2-1 に示すとおりです。



環境省資料「循環型社会を形成するための法体系」を編集

図 3-2-1 廃棄物に関する法体系

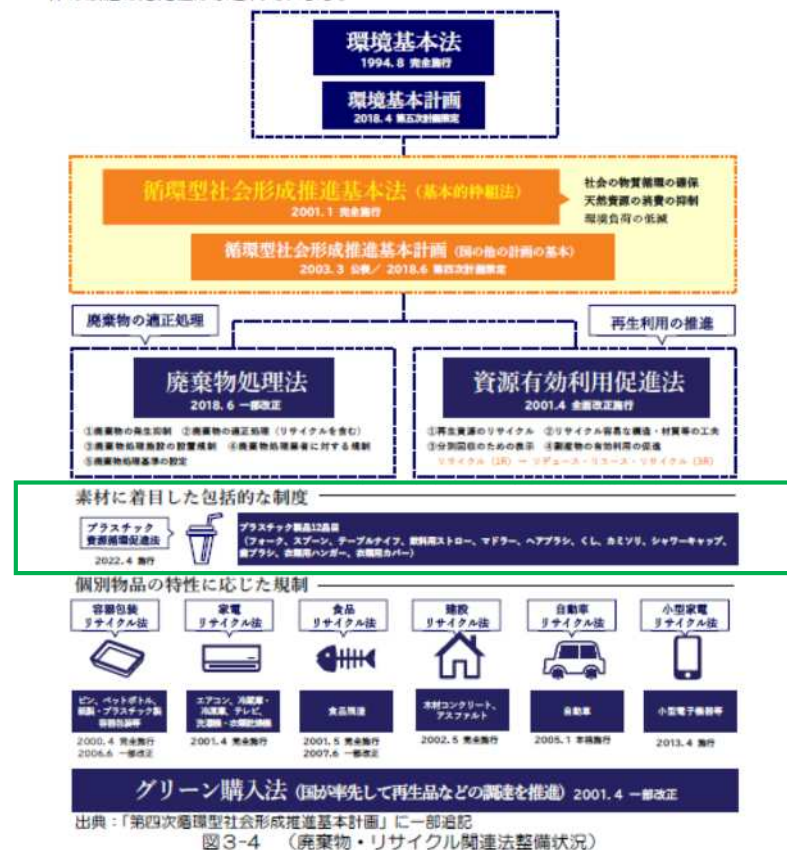
第2節 ごみ処理行政の動向

2-1 関連法令の整理

1) 廃棄物に関する法体系

主な廃棄物関連法制度の体系は、以下のとおりです。

循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する基本的な計画として、循環型社会形成推進基本計画が策定されています。循環型社会のあるべき姿についてのイメージを掲げ、循環型社会形成のための数値目標を設定するとともに、国及びその他自治体が主体の取組の方向性が示されています。



出典：「第四次循環型社会形成推進基本計画」に一部追記

図 3-4 (廃棄物・リサイクル関連法整備状況)

1-3 数値目標（中間目標年次：平成38（2026）年度）

1) 発生抑制による減量目標

「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するためには、「ごみを発生させないこと」が最も重要であり、市民1人ひとりや事業者が「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」を主体的に実践することが大切です。これらの取組の成果を測る指標としては、ごみの総量ではなく、1人1日当たりごみ排出量を基準とします。

減量目標値は、国の基本方針に示されている、「ごみの排出量を平成32（2020）年度までに平成24年度比で約12%削減すること」を基に設定します。本市では、平成27年度を基準年として、中間目標年次である平成38（2026）年度において、1人1日当たりごみ排出量を822g/人・日とします。

<減量目標値> 822g/人・日

※なお、目標値の排出量は家庭から排出される一般廃棄物（家庭系ごみ）と事業所から排出される一般廃棄物（事業系ごみ）の合計とし、集団回収による資源回収量は含まない。

減量目標値の算出根拠

国の基本方針

	平成24年度		平成32(2020)年度
ごみ排出量(百万t)	45	-12%削減	39.6

松阪市の減量目標値

	平成27年度 (実績値)		平成35(2023)年度	平成38(2026)年度 (中間目標年次)
人口(人)	163,863		157,372	154,167
ごみ排出量(t)	55,553	約12%削減	48,886	46,252
1人1日 当たりごみ排出量 (g/人・日)	929		851	822

1-3 数値目標

1) 発生抑制による減量目標

「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するためには、「ごみを発生させないこと」が最も重要であり、「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」を市民1人ひとりや事業者が主体的に実践することが大切です。このことを踏まえ、発生抑制による減量目標の値（以下「減量目標値」という。）を測る指標として、総ごみ量ではなく、1人1日当たりごみ排出量（集団回収量を除く）を基準とします。

減量目標値は、国のごみ処理基本計画策定指針（平成28(2016)年9月）に示されている、「ごみの排出量を平成32(2020)年度までに平成24(2012)年度比で約12%削減すること」を基に設定します。松阪市では、平成27(2015)年度を基準年として中間目標年度である令和8(2026)年度において、1人1日当たりごみ排出量を822g/人・日とし、最終目標年度である令和13(2031)年度においては、774g/人・日とし、当初計画で掲げた減量目標を継承します。

<発生抑制による減量目標値>

令和8年度（中間目標年度） 822g/人・日

令和13年度（最終目標年度） 774g/人・日

※なお、目標値の排出量は家庭から排出される一般廃棄物（家庭系ごみ）と事業所から排出される一般廃棄物（事業系ごみ）の合計とし、集団回収による資源回収量は含まない。

2) 資源化率の目標

平成 27 年度の資源化率は 14%となっています。今後は、焼却灰のリサイクルや各施策の推進によって資源化率の向上を目指していきます。

本市の資源化率の目標値は、施策推進後の推計結果「第2節 2-2 ごみ発生量の将来予測」より、中間目標年次である平成 38（2026）年度において、24%以上とします。

<資源化率の目標値> 24%以上

中間目標年次における資源化率の推計結果（施策推進後）

	平成 27 年度 (実績値)	平成 38(2026)年度 (推計値)
ごみ排出量 (t) ※集団回収を含む	60,009	49,156
資源化量 (t)	8,426	11,822
資源化率 (%)	14.0	24.1

3) 最終処分量の目標

前計画では最終処分量の目標値を、「平成 31（2019）年度において、最終処分量を 3,800 トン以下」と定めていました。本市では、中間目標年次である平成 38（2026）年度から、焼却灰をリサイクルすることを検討しています。焼却灰をリサイクルすることで、最終処分量を大幅に削減することができます。

本市の最終処分量の目標値は、施策推進後の推計結果「第2節 2-2 ごみ発生量の将来予測」より、中間目標年次である平成 38（2026）年度において、1,200 トン以下とします。

<最終処分量の目標値> 1,200 トン以下

中間目標年次における最終処分量の推計結果（施策推進後）

	平成 27 年度 (実績値)	平成 38(2026)年度 (推計値)
最終処分量 (t)	8,096	1,184

2) 最終処分量の減量目標

最終処分量の中間目標年度の減量目標値（1,200t/年度・以下）は、新最終処分場の供用開始に合わせて焼却灰を資源化することを前提に設定した減量目標値です。

当初計画は、令和 8(2026)年度に新最終処分場の供用を開始する計画でしたが、現最終処分場の埋立が満杯になる時期を令和 8(2026)年度末と見込むことから、新最終処分場の供用開始を令和 9(2027)年度に変更しました。

このことを踏まえ、焼却灰の資源化は、令和 9(2027)年度から取り組むものとし、中間目標年度を令和 8(2026)年度から令和 9(2027)年度に変更するものとします。

<最終処分量の減量目標値>

令和 9 年度（中間目標年度） 1,200t/年度・以下

令和 13 年度（最終目標年度） 1,100t/年度・以下

3) 資源化率の目標

資源化率の中間目標年度の目標値（24%/年度・以上）は、新最終処分場の供用開始に合わせて焼却灰を資源化することを前提に設定した目標値です。

焼却灰の資源化に取り組む年度の変更に合わせて、資源化率の中間目標年度を令和 8(2026)年度から令和 9(2027)年度に変更するものとします。

<資源化率の目標値>

令和 9 年度（中間目標年度） 24%/年度・以上

令和 13 年度（最終目標年度） 24%/年度・以上

第3節 3R推進のための施策に関する事項

3R（発生抑制、再使用、再生利用）を推進するための施策は図4-3-1に示すとおりです。ここでは、近年のごみ処理動向、個別リサイクル法令等を勘案し、市民、事業者、行政の協働による3R推進の施策を示します。また、施策達成のための主な取組を表4-3-1に示します。

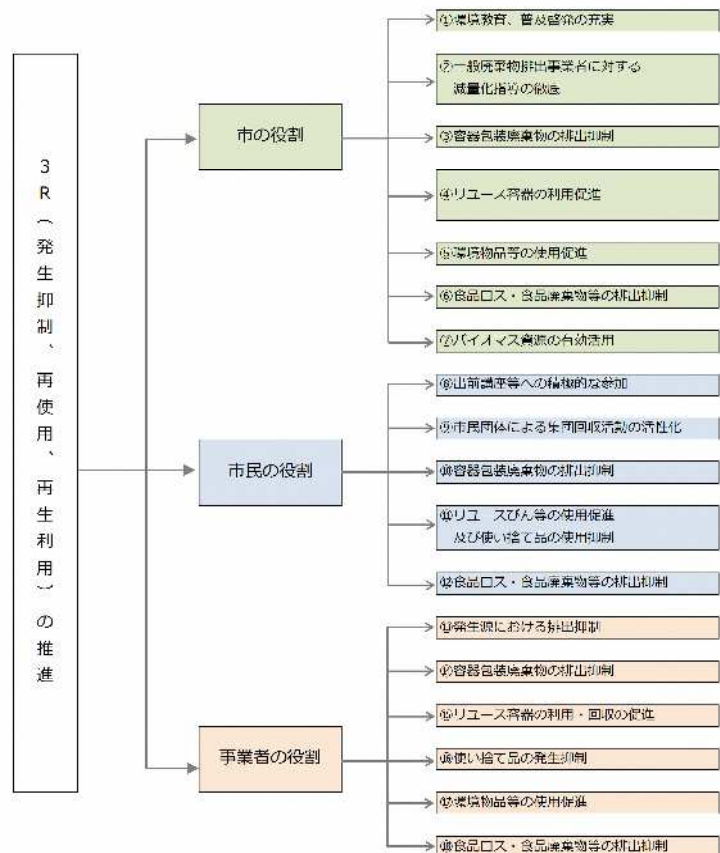


図4-3-1 3R推進の施策

3-2 基本理念を実現するための施策

当初計画で定めた3R推進のための施策及び取り組みについて、これまでの実施状況や国際的な潮流として、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取り組みを考慮し、新たに以下に示す12施策として見直しました。松阪市では行政、市民、事業者がそれぞれ主体的に「ムダなく資源が循環しているまち」を実現するための各施策に取り組む方針とします。

基本理念：ムダなく資源が循環しているまち

施策の概要	
行政・市民・事業者	①環境教育、普及啓発の充実
	②ごみ減量アイデアの募集
	③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底
	④容器包装廃棄物の排出抑制
	⑤紙類の資源化の促進
	⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制
	⑦環境物品等の使用促進
	⑧食品廃棄物等の排出抑制
	⑨バイオマス資源の有効活用
	⑩市民団体等の集団回収活動の活性化
	⑪小型家電の資源化
	⑫食品ロスへの取り組み強化

図4-9（施策の概要）

第1期見直し版では、「持続可能な開発目標（SDGs）」における17の目標のうち、主に目標12「つくる責任つかう責任」及び目標14「海の豊かさを守ろう」と関連して、新たに見直した12施策を実施するように努めます。



12 つくる責任、つかう責任
3Rを促進し、ごみの量を減らすことで自然環境の保全につなげます。行政、市民、事業者が主体的に3Rに取り組み、一人ひとりがリサイクルを意識することで実現を目指します。



14 海の豊かさを守ろう
プラスチック等のごみを削減することで、海洋汚染を減らすことにつなげます。正しい分別方法や不法投棄防止等の周知、啓発に努め、一人ひとりが実行することで実現を目指します。

施策の概要の具体的な取り組み内容は、以下に示すとおりです。

【①環境教育、普及啓発の充実】

環境教育、普及啓発の充実 【継続】

- ・三重県の環境学習支援センター等と協働し、地域における環境教育、環境学習のリーダーを育成します。また、松阪市3Rサポーターの会員を通してごみ減量化に理解ある人材を育成することで出前講座等の啓発活動をともに発信していき、ごみ減量やリサイクルの促進に努めます。

啓発活動、出前講座の実施 【継続】

- ・省エネルギーやごみの問題など身近な環境問題に対して子どもたちが関心をもち、自ら進んで環境にやさしい活動ができるよう、学校(園)における環境教育・環境学習の充実に努めます。また、出前講座を行うことにより、市民のごみ問題に対する意識向上に努めます。

外国人に対する啓発の実施 【継続】

- ・日本語が不慣れな外国人の方のために、外国語版のごみ分別パンフレット等を作成し、適正なごみの排出を案内します。

広報等での定期的なPR 【継続】

- ・既存媒体である広報「まつさか」などで定期的に情報提供を行い、ごみ減量や適性な排出を継続して呼びかけます。

電子媒体を利用した多角的な教育と普及啓発の推進 【新規】

- ・DVD や松阪市の行政チャンネルなどの電子媒体を活用して、松阪市のごみ処理施設の紹介を行うなど多角的な環境学習を推進します。

【②ごみ減量アイデアの募集】

ごみ減量に関するみんなのアイデアの募集 【新規】

- ・市民のみなさんから「ごみ減量方法」に関するアイデアを募集します。採用されたものは松阪市のホームページなどで掲載し、行政と市民が一体となってごみ減量に努めます。

【③事業者に対する減量化・適正化指導の徹底】

事業者ごみへの啓発 【継続】

・事業者におけるごみ減量の進め方や事業者から排出されるごみの適正処理方法などをまとめた、「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」を更新し事業者に配布することで、排出されるごみの抑制や資源化を促します。

事業者ごみの搬入物検査（展開検査）の実施 【継続】

・松阪市クリーンセンターにて、事業系一般廃棄物収集運搬許可業者等が搬入するごみの搬入物検査（展開検査）を行い、適正な排出がされているか調査を行います。また不適正な排出がされている場合は、適正な排出方法を搬入物検査（展開検査）マニュアルに沿って指導します。

減量化計画の作成 【継続】

・事業者が排出する事業系一般廃棄物の減量、処理に関する計画書を作成し、計画を実行してもらうよう周知します。

【④容器包装廃棄物の排出抑制】

マイバッグの持参運動の推進 【継続】

・買い物時にはマイバッグを持参などの啓発を継続して行うことで、レジ袋の削減につながるよう努めます。

容器包装廃棄物の適正な分別方法の啓発 【継続】

・プラスチック容器・袋、白色トレー、牛乳パック、ペットボトルなどの容器包装廃棄物の適正な分別を啓発することで資源化の促進に努めます。
 ・事業者に対して、容器包装廃棄物の分別排出が適正に行われるよう啓発し、容器包装の簡易化も「松阪市事業系廃棄物（ごみ）ガイドブック」等の活用を図り啓発に努めます。

簡易包装商品や詰め替え用品購入の推進 【継続】

・買い物時にはできる限り簡易包装化されている商品を選び、詰め替え可能な商品を選択して購入することで、プラスチックごみの排出が抑制されることの周知に努めます。

【⑤紙類の資源化の促進】

紙類の資源化促進

【継続】

- ・雑紙回収袋を利用してもらうことで、燃えるごみに混じって排出されてしまいがちな紙類を資源として回収し、資源化の促進に努めます。
- ・市民、事業者にも紙類を分別し、資源として排出することを啓発していきます。これによって、事業者から排出される燃えるごみの量の減量化につなげます。

【⑥リユース容器の利用促進及び使い捨て品の使用抑制】

リユース容器の利用を促進

【継続】

- ・松阪市主催のイベントでリユース可能な容器の利用を勧めることで、使い捨て品の廃棄物をできるだけ減らし、ごみ減量につなげることができますが、新型コロナウイルスの影響で積極的に取り組みを行うことが困難であるため、リユース容器の利用や回収は控えています。
- ・平時ではマイボトルを持ち歩くなど、使い捨て容器の使用を抑えるように促進します。

使い捨て品の使用抑制

【継続】

- ・再使用できる製品を使用したり、まだ使用できる製品を必要としている人に譲るなど、不要となったら捨てるのではなく、リユース（再使用）を心がける生活スタイルの見直しを啓発することでごみ減量に努めます。

【⑦環境物品等の使用促進】

グリーン購入、グリーン契約の推進

【継続】

- ・松阪市が製品を購入する際には、環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入するなどグリーン購入、グリーン契約を推進します。また事業者に対してできるだけグリーン購入を行うよう啓発し、環境にやさしい製品を使用するように促します。

【⑧食品廃棄物等の排出抑制】

3010 運動（食べきり運動）の推進

【新規】

・会食や宴会時に最初の 30 分、終わりの 10 分は、お料理をしっかり食べる時間をつくる「3010 運動」を啓発活動にて呼びかけ、食べ残しを防止食品廃棄物がなくなるように努めます。

生ごみの水切りモニターの募集

【新規】

・生ごみに含まれる水分は約 80%と言われており、生ごみ中の水分量を減らすために、簡単な水切りの方法をパンフレットや講座をとおして PR します。また、水切り運動に取り組む市民及び市民団体を増やすため、水切り用具のモニター制度の導入を検討します。

生ごみの堆肥化の推進

【継続】

・市民活動グループと協力し、行政が出前講座を行うことで生ごみの堆肥化を推進し、出来あがった堆肥の家庭菜園への利用や飲食店への販売に行政・市民・事業者が一体となってつなげていきます。
・家庭から排出される生ごみを堆肥化するために、生ごみ堆肥化容器及び家庭用生ごみ処理機の購入補助金(補助率 1/2、上限 30,000 円)事業を継続し、市民への堆肥化を勧めます。

【⑨バイオマス資源の有効活用】

木くずや剪定枝のチップ化や堆肥化の検討

【継続】

・バイオマス資源の有効活用は環境への負荷が少なく、廃棄物を資源として利用する有効活用にもつながります。松阪市の処理施設の受け入れ基準に該当しない木材などは、適正な処理方法や処理先を案内し、チップ化を促します。また、近年のごみ組成の構成において、草や剪定枝の組成率が上昇傾向にあり、これらを堆肥化することもバイオマス資源の有効活用につながることから、積極的な堆肥化への取り組みを検討します。

【⑩市民団体による集団回収活動の活性化】

集団回収制度の利用

【継続】

・松阪市資源物集団回収活動補助金制度を継続していくことで、市民から集められる資源物をできるだけリサイクルするよう努めます。また集団回収活動を通して地域のコミュニケーションのきっかけを作り、市民のリサイクルに対する意識向上を目指します。

褒賞制度の検討

【継続】

・集団回収量の多い団体や、長年集団回収活動を継続している団体に対して、広報紙での紹介や表彰等を検討することで、市民の集団回収活動に対する関心を高め、意識向上につなげます。

【⑪小型家電の資源化】

小型家電の回収（緑の回収ボックス・業者による宅配便回収）

【継続】

・小型家電（携帯電話、デジタルカメラなど）を各清掃施設や各地域振興局等（嬉野、三雲、飯南、飯高）に設置の「緑の回収ボックス」でパソコン及び対象となる小型家電を回収することで、資源の有効活用につなげます。
 ・不用になったパソコンの処分については、自宅に^{※1}宅配便回収に来てもらえる制度を積極的に活用してもらうことで、パソコンの資源化を推進します。

※1 リネットジャパンリサイクル株式会社（☎0570-085-800）

利用者はインターネットから申し込みを行い、対象となる小型家電を箱に入れてもらうだけで宅配業者が希望日時に回収に向う仕組みとなっています。
 対象品目はQRコードにて確認できます。



【⑫食品ロスへの取り組み強化】

食品ロス削減に関する啓発活動

【新規】

- ・松阪市の市民意識アンケートを活用し、食品ロスに関する市民の意識を探ること
で、今後の取り組み内容を検討します。
- ・食品ロスに関するポスターを募集したり、リーフレット等を作成して松阪市主催
のイベント等で配布するなど、多方面からの啓発を行うことに努めます。
- ・食品関連の事業者と連携し、「てまえどり」(店頭に並ぶ商品を手前からとるよう
にすること)等を店内でPRしていくことで、お店から売れ残って排出される食品
廃棄物の減量につなげることを検討します。
- ・毎月19日(食育の日)にちなみ、この日を「冷蔵庫クリーンアップ日」と定め、
各ご家庭の冷蔵庫の中身をチェックして、期限切れや食べ残し食材の廃棄の減量
化を推進します。
- ・食品ロスを身近な問題ととらえた子ども向け啓発教材を検討し、幼少期からごみ
減量の大切さが伝わるような啓発講座を行います。

フードバンク等との協力

【新規】

- ・廃棄される食品削減のために、フードバンクや事業者と協力体制を作ります。

災害用備蓄食料の有効活用

【新規】

- ・関係課と連携して賞味期限切れの近い災害用備蓄食料をイベント時に配布した
り、料理レシピ等をホームページに掲載するなど、さまざまな有効活用の方法を
検討し、食品ロスに努めます。

第5節 ごみの適正な処理及びこれを実施する者に関する基本的事項

5-1 収集・運搬計画

1) 収集・運搬方法

収集・運搬計画は表4-5-1に示すとおりです。

家庭から排出されるごみを迅速に、かつ衛生的に処理を行うため、収集方式や収集頻度の適正化の検討を行い、住民サービスの向上に努めます。このほか、本市の多くの集積所が自治会の協力による維持管理となっており、ごみ集積所の整備について引き続き必要な支援を行います。

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち産業廃棄物以外は、事業系一般廃棄物として処理されます。事業系一般廃棄物の収集・運搬方法については、事業者により適正な排出と処理が行われるよう啓発や検討に努めていきます。同様に、引越しなどに伴い発生する一時多量ごみは、本人または同一世帯の家族が持ち込むか、本市が許可する収集運搬業者へ依頼することとなります。

また、特別管理一般廃棄物や適正処理困難物の収集・運搬は本市では行っていません。このような廃棄物の収集・運搬は販売店に相談するか、各種リサイクル法に基づく登録取引業者へ依頼する必要があります。

第5節 ごみの適正な処理等に関する基本的事項

5-1 収集・運搬計画

1) 収集・運搬方法

収集・運搬計画は、表4-5に示すとおりです。

家庭から排出されるごみを迅速、かつ衛生的に処理を行うため、収集方式や収集頻度の適正化の検討を行い、住民サービスの向上に努めます。このほか、松阪市の多くの集積所が自治会の協力による維持管理となっており、ごみ集積所の整備について引き続き必要な支援を行います。

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち産業廃棄物以外は、事業系一般廃棄物として処理されます。一般廃棄物の収集運搬許可業者が令和元(2019)年12月より、一時多量の家庭系一般廃棄物収集運搬許可業者(以下「家庭系収集運搬許可業者」という。)と事業系一般廃棄物収集運搬許可業者(以下「事業系収集運搬許可業者」という。)に分かれることになりました。事業系一般廃棄物の収集・運搬方法については、事業系収集運搬許可業者や事業者本人に持ち込んでもらい、適正な排出と処理が行われるよう啓発や検討に努めていきます。併せて、引越しなどに伴い発生する一時多量ごみは、本人または同一世帯の家族が持ち込むか、松阪市が許可する家庭系収集運搬許可業者へ依頼することとなります。

2) 一般廃棄物処理業の許可等

現在、松阪市における収集運搬の許可業者は、事業系収集運搬許可業者が34社、家庭系収集運搬許可業者が57社となっています(令和4(2022)年6月1日現在)。

収集・運搬の許可については、今後の社会経済状況の変動やごみ排出量の推移を見極めようとして、必要に応じて検討を加えることとします。新規における許可にあっては、ごみ排出量の推計に対し、現在許可している業者数及びごみ処理能力を超えた場合に行うものとします。ただし、市が許可している一般廃棄物処分業者が当該許可にかかる廃棄物を収集運搬する場合は、協議の上許可をすることができることとします。

6-2 将来のごみ処理施設

1) 廃棄物処理施設の整備

一般に焼却施設やリサイクル施設は、日常の適正な運転と毎年の適切な定期点検整備や基幹的設備の更新を的確に実施することにより30年以上にわたり稼働することが可能です。新規でごみ処理施設を建設する際には数十億円を超える費用を要します。このことから、将来のごみ処理施設は新規の施設整備だけではなく、現状施設の延命化も含めて検討する必要があります。「廃棄物処理施設長寿命化総合計画作成の手引き（環境省、平成27年3月改定）」では、基幹的設備の改良について、施設稼働開始から概ね10～15年ごとに実施することで、設備の性能水準を回復することができると示されています。

松阪市クリーンセンターは民間事業者へ運転・維持管理の業務委託を行っています。この業務には、点検だけではなく、施設の補修や基幹設備の大規模補修を含んでおり、建設時から施設の長期利用を前提とし、施設の長寿命化に取り組んでいます。なお、運転管理・維持業務は平成46(2034)年度で終了するため、それ以降の施設運用のあり方を今後検討する必要があります。

一方、松阪市リサイクルセンターは各施設の老朽化が進んでいるため、施設毎の延命化の検討が必要となります。

また、松阪市一般廃棄物最終処分場は平成38(2026)年度で埋立が終了する予定です。このことから、次期最終処分場の整備についても検討を進めていきます。

以上より、本市の廃棄物処理施設の整備計画は、表4-6-2～4に示すとおりです。

表4-6-2 松阪市クリーンセンター整備計画

	平成29年度 (計画初年度)	～	平成38(2026)年度 (中間目標年度)	～	平成43(2031)年度 (計画最終年度)
稼働	→				
運転・維持 管理業務	運転・維持管理業務内で施設の延命化を実施				
新規施設整備		焼却灰のリサイクル実施に伴う整備工事			

表4-6-3 松阪市リサイクルセンター整備計画

	平成29年度 (計画初年度)	～	平成38(2026)年度 (中間目標年度)	～	平成43(2031)年度 (計画最終年度)
稼働	→				
施設延命化			検討→ 基幹改良工事		

表4-6-4 松阪市一般廃棄物最終処分場整備計画

	平成29年度 (計画初年度)	～	平成38(2026)年度 (中間目標年度)	～	平成43(2031)年度 (計画最終年度)
稼働	→				
新規施設整備	新施設整備		新施設稼働		

2) 廃棄物処理施設の処理能力・処理方式

将来の廃棄物処理施設の処理能力及び処理方式は施設整備の検討時におけるごみ発生量の実績やごみ処理技術の動向を踏まえて検討することとします。

6-2 将来のごみの処理施設

1) ごみの処理施設の整備

一般廃棄物処理施設は、日常の適正な運転と定期的な点検、整備並びに基幹設備の更新を的確に実施することにより30年以上にわたり稼働することが可能です。新規でごみの処理施設を建設する際には数十億円を超える費用を要することが見込まれるため、広域的かつ計画的な整備を行うことを求められています。このことを踏まえ、ごみの処理施設は新規の施設整備だけではなく、現施設の長寿命化も含めて検討する必要があります。

松阪市クリーンセンターは、専門的な技術と経験を有する事業者へ運転・維持管理業務を委ねています。この業務には、点検だけではなく、施設の補修や基幹設備の更新を含んでおり、施設の長寿命化に取り組んでいます。なお、運転・維持管理業務の長期継続契約期間は、令和16(2034)年度で終了するため、それ以降の運用のあり方を検討する必要があります。

一方、松阪市リサイクルセンターは、各施設の老朽化が進んでいるため、施設毎の長寿命化の検討が必要となります。

また、現最終処分場は令和8(2026)年度で埋立が満杯になる見込みです。このことを踏まえ、新最終処分場の整備に取り組み令和9(2027)年度の供用開始を目指します。

以上より、ごみの処理施設の整備計画は、表4-14～表4-16に示すとおりです。

表4-14 (松阪市クリーンセンター整備計画)

	平成29年度 (計画初年度)	～	令和8年度 (中間目標年度)	～	令和13年度 (最終目標年度)
稼働	→				
長寿命化	施設の適切な運転・維持管理				
施設整備		焼却灰の資源化実施に伴う整備の検討		リチウムイオン電池の適正処理に伴う整備の検討	

表4-15 (松阪市リサイクルセンター整備計画)

	平成29年度 (計画初年度)	～	令和8年度 (中間目標年度)	～	令和13年度 (最終目標年度)
稼働	→				
長寿命化	基幹改良工事の検討				

表4-16 (松阪市一般廃棄物最終処分場整備計画)

	平成29年度 (計画初年度)	～	令和8年度 (中間目標年度)	令和9年度 (中間目標年度)	～	令和13年度 (最終目標年度)
稼働	埋立処分完了予定					
施設整備		施設整備		新最終処分場 供用開始		

第7節 その他ごみ処理に関し必要な事項

7-1 災害廃棄物対策

非常災害により生じた廃棄物に対応するため、本市では、「松阪市地域防災計画」と「松阪市災害廃棄物処理計画」を策定しています。災害時に発生する廃棄物は、大量にかつ多種・多様にわたることが多いため、事前に県や関係機関との連携を図り、適正な処理を行うことが必要です。「松阪市災害廃棄物処理計画」では、本市で発生する災害廃棄物量を表4-7-1～2のように推計しています。

表4-7-1 災害廃棄物の発生量の推計（過去最大クラスの南海トラフ地震）

区分・品目等	発生量（重量） 単位：t	発生量（体積） 単位：m ³
柱材・角材	6,000	10,909
コンクリートがら	55,000	37,162
金属くず	6,000	5,310
土材系	1,203,000	823,973
混合廃棄物	1,003,000	1,003,000
合計	2,273,000	1,880,354

出典：松阪市災害廃棄物処理計画

表4-7-2 災害廃棄物の発生量の推計（布引山地東縁断層帯地震（東部））

区分・品目等	発生量（重量） 単位：t	発生量（体積） 単位：m ³
柱材・角材	31,000	56,364
コンクリートがら	349,000	235,811
金属くず	35,000	30,973
土材系	15,000	10,274
混合廃棄物	1,106,000	1,106,000
合計	1,536,000	1,439,422

出典：松阪市災害廃棄物処理計画

第7節 その他ごみ処理に関し必要な事項

7-1 災害廃棄物対策

1) 災害廃棄物の発生量の推計

① 災害廃棄物の発生量の推計

災害により生じた廃棄物（以下「災害廃棄物」という。）に対応するため、「松阪市地域防災計画」（令和3(2021)年度修正）と「松阪市災害廃棄物処理計画」（平成29(2017)年5月）を策定しています。また、市民から排出される廃棄物（家庭ごみ、粗大ごみ、避難所からは発生するごみを含む生活ごみ）を災害発生時から適切に処理する必要があります。

想定されている過去最大クラスの南海トラフ地震では災害廃棄物が約230万トン発生すると推計されています（表4-17）。松阪市の一般廃棄物の年間処理量が約6万トンであることから、平時の処理能力では災害廃棄物を処理することは困難になります。

表4-17（災害廃棄物の発生量の推計（過去最大クラスの南海トラフ地震））

区分・品目等	発生量（重量） 単位：t	発生量（体積） 単位：m ³
柱材・角材	6,000	10,909
コンクリートがら	55,000	37,162
金属くず	6,000	5,310
土材系	1,203,000	823,973
混合廃棄物	1,003,000	1,003,000
合計	2,273,000	1,880,354

出典：松阪市災害廃棄物処理計画

2) 災害時のごみ処理対応

① 路上の廃棄物の除去

人命救助や輸送のための道路の確保に伴うがれき等の処理については、消防、防災、道路管理、復旧・復興等に携わる各関係機関と連携して進めます。路上から除去した廃棄物は、応急的な措置として仮置場を設定し、分別・搬入します。

② 生活ごみ等の処理

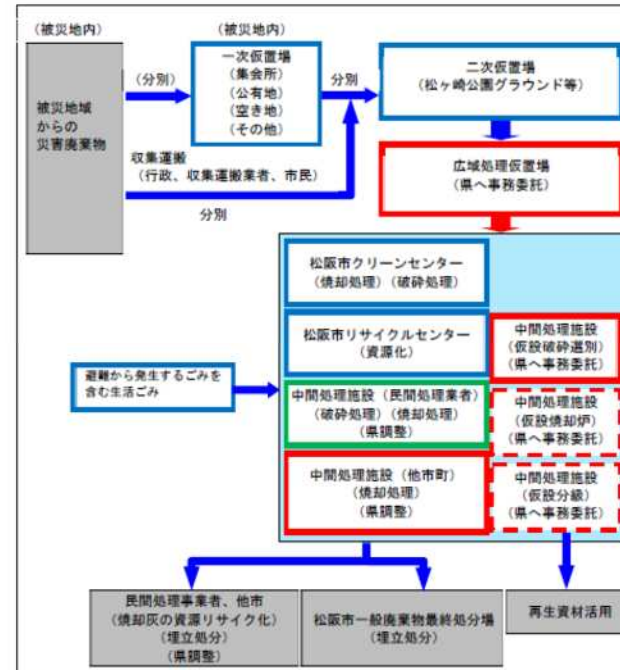
避難所から発生するごみを含む生活ごみは、やむを得ない場合を除き、松阪市クリーンセンター及び松阪市リサイクルセンターで処理を行うこととし、仮置場に搬入しません。避難所から発生するごみを含む生活ごみは、発災後3日から4日後に収集と処理の開始を目指します。

③ 災害廃棄物の処理

家屋の損壊数等の被害状況や浸水域の面積等から災害廃棄物の発生量を推計し、仮置場の確保を行います。また、確保した仮置場の所在地、搬入ルートを知り・広報します。災害廃棄物の中には、松阪市で処理することができない処理困難物も含まれることから、県等と連携し、ごみ処理事業者等の協力を得て適切な処理方法を検討します。災害廃棄物の発生量が膨大である場合は、施設の被災状況や廃棄物量を調査し、応援協定に基づき、県に支援を要請し広域処理を行います。

④ 災害廃棄物処理フロー

想定されている過去最大クラスの南海トラフ地震における災害廃棄物処理フロー図は図4-10のとおりです。



「仮設分級」：仮設の機械設備等を用い、土砂・がれき等を、そのサイズごとに分けること。

出典：松阪市災害廃棄物処理計画（一部修正）

図4-10 (災害廃棄物処理フロー図)

松阪市 環境生活部 清掃施設課
〒515-1104 松阪市町桂瀬町 751 番地
TEL0598-36-0975 FAX0598-36-0560
E-mail : seishi.div@city.matsusaka.mie.jp